

このたびは、スズキ エスクード を お買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよく
お読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。
しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。

 **警告**、 **注意**、 **注記**、 **アドバイス** は、
とくにしっかりお読みください。

 警告	取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。
 注意	取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。
 注記	取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。
 アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

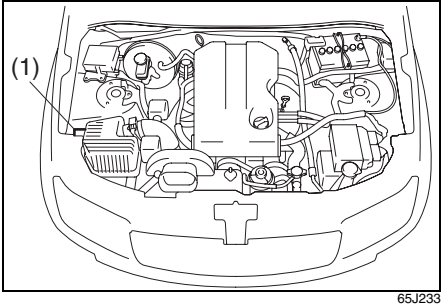
- イラストの中で「**×**」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。
- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をのおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車不一致場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

ご愛車に関するメモ

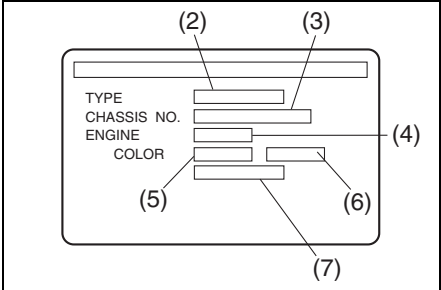
記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および 車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	J24B型
車体色記号	
営業機種記号	
トランス ミッション	☐ マニュアルミッション ☐ オートマチックミッション
ナンバープレート (自動車登録番号)	
ご購入年月日	年 月 日

IDプレート (1)
エンジンルームに貼付してあります。



65J233



65J103

- (2) 車両型式 (3) 車台番号
(4) エンジン型式 (5) 車体色記号
(6) 車体色と内装色の組み合わせコード
(7) 営業機種記号 (補助記号)

総 合 目 次

1 イラストもくじ

イラストもくじ	1-2
警告ブザーが鳴ったときは	1-7

2 必読！ 安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために	2-2
-----------------------	-----

3 運転する前に

ドアの開閉	3-2
警報装置	3-14
ウインドーの開閉	3-18
各部の調節	3-21
シートの調節	3-25
シートベルト	3-36
SRSエアバッグ	3-48
メーター	3-61
スイッチの使いかた	3-79

4 運転するときは

エンジン始動	4-2
パーキングブレーキ	4-9
チェンジレバー	4-10
オートマチック車	4-11
4WD車	4-22
クルーズコントロール	4-30

ABS 4-33

ESP® 4-36

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター 5-2

オーディオ 5-10

その他の装備 5-12

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ 6-2

寒冷時の取扱い 6-8

7 万一のとき

パンク 7-2

バッテリーあがり 7-14

ヒューズ切れ 7-17

電球切れ 7-21

オーバーヒート 7-28

その他 7-29

8 サービスデータ

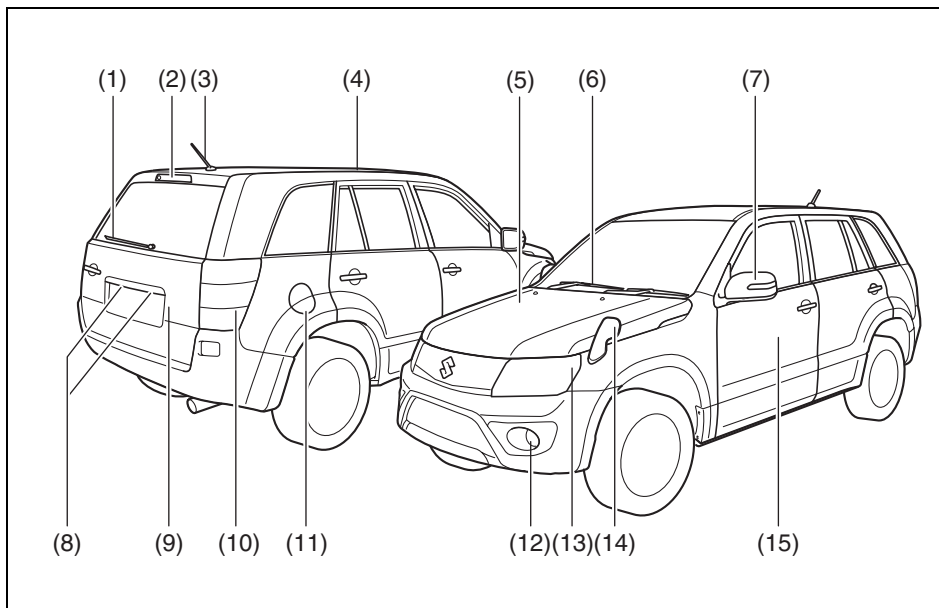
サービスデータ 8-1

9 さくいん

さくいん 9-1

イラストもくじ

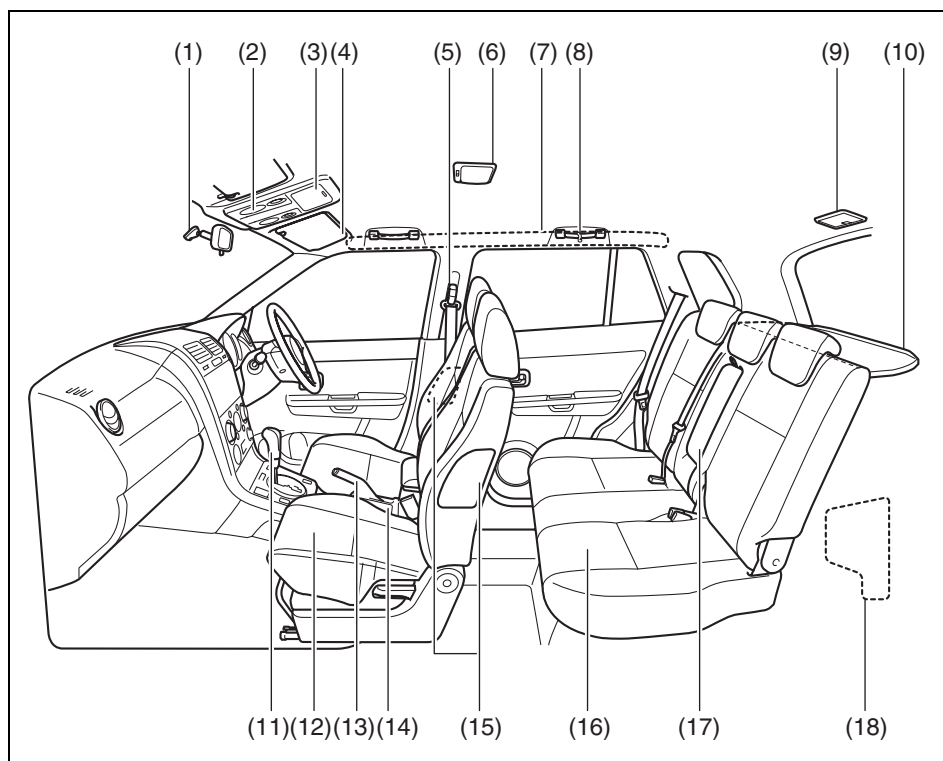
お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。



65J5001

- (1) リヤワイパー……………3-83
- (2) ハイマウントストップ
ランプ……………7-27
- (3) ルーフアンテナ……………5-10
- (4) ルーフ……………5-33
- (5) ボンネット……………5-13
- (6) フロントワイパー……………3-82
- (7) ドアミラー……………3-22
- (8) 番号灯……………7-27
- (9) バックドア……………3-4

- (10) リヤコンビネーション
ランプ……………7-26
- (11) 燃料給油口
(フューエルリッド) ……5-12
- (12) フォグランプ ……3-81、7-23
- (13) ヘッドライト ……3-79、7-22
- (14) サイドアンダー
ミラー……………3-24
- (15) ドア……………3-4



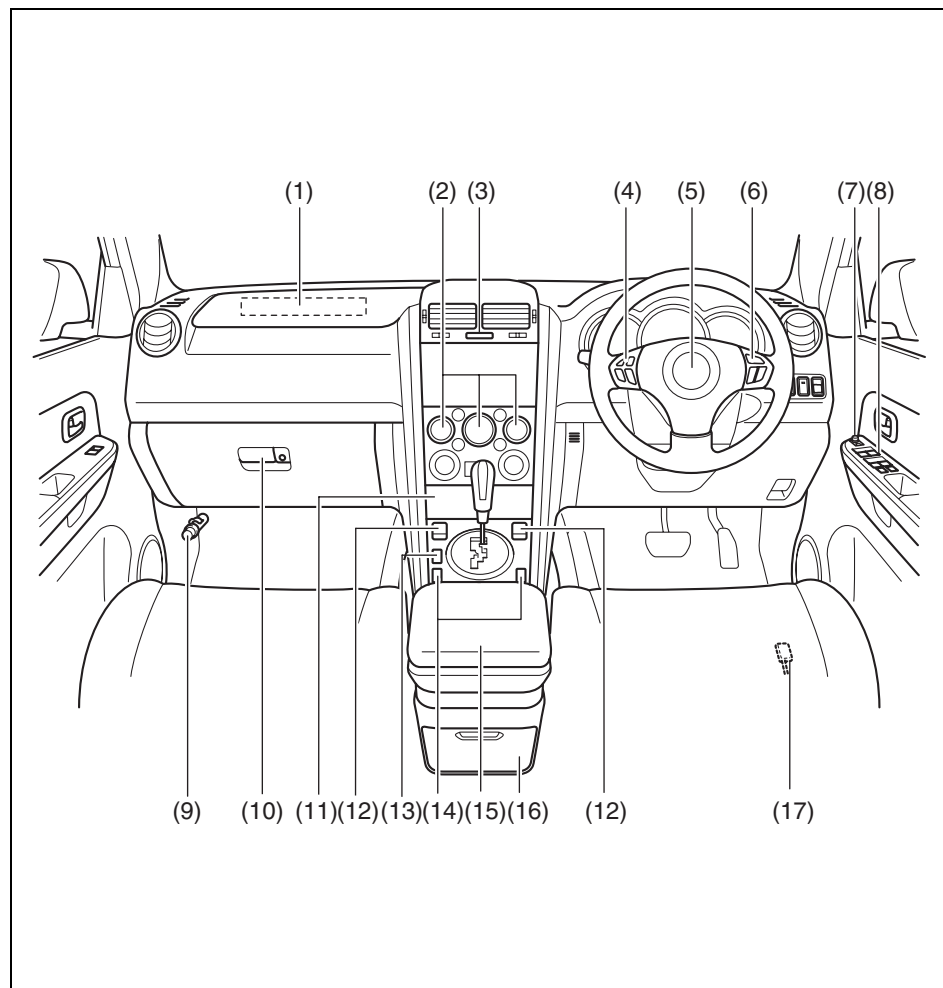
65J5002

- | | |
|-------------------------------------|---|
| (1) ルームミラー …………… 3-21 | (11) セレクトレバー |
| (2) ルームスポット
ランプ …………… 5-18 | オートマチック車 …… 4-11 |
| (3) オーバーヘッド
コンソール …………… 5-24 | チェンジレバー |
| (4) サンバイザー …………… 5-15 | マニュアル車 …… 4-10 |
| (5) シートベルト …………… 3-36 | クラッチスタートシステム |
| (6) 中央室内灯 …………… 5-16 | マニュアル車 …… 4-7 |
| (7) SRSカーテン
エアバッグ …………… 3-49 | (12) 前席シート …………… 3-25 |
| (8) コートフック …………… 5-20 | (13) パーキングブレーキ …… 4-9 |
| (9) 後部室内灯 …………… 5-16 | (14) ドリンクホルダー …… 5-26 |
| (10) ラゲッジシェルフ
(荷室カバー) …………… 5-30 | (15) SRSサイド
エアバッグ …………… 3-48 |
| | (16) 後席シート …………… 3-28 |
| | (17) アームレスト …………… 5-29 |
| | (18) 工具(ジャッキバー、
ホイールナットレンチ)、
ジャッキ …………… 7-2 |

イラストもくじ

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

1

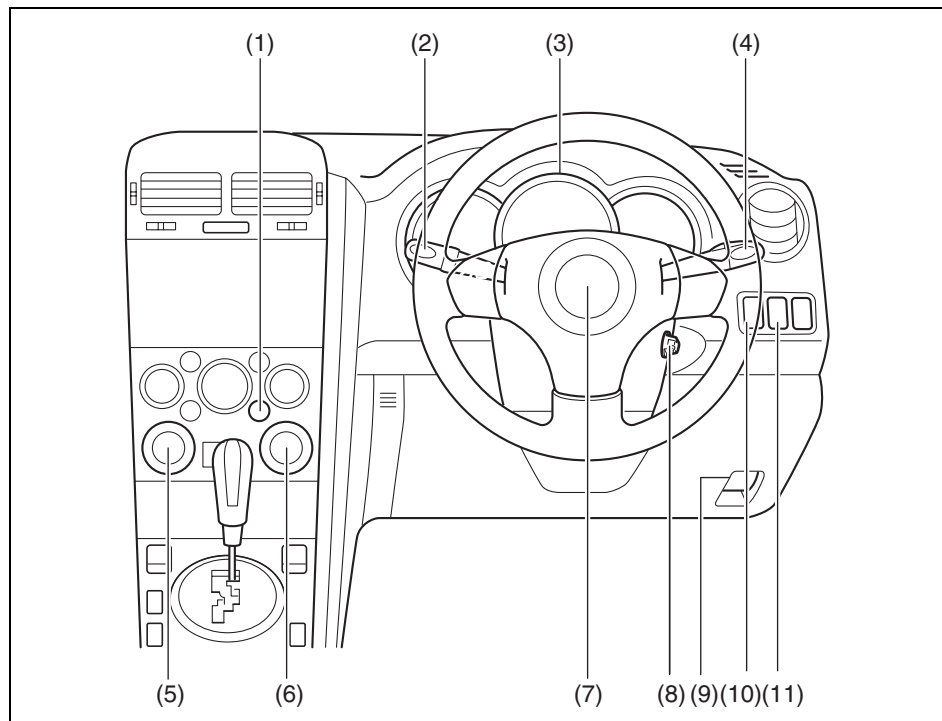


65J6001

- | | |
|---|--|
| <p>(1) 助手席SRS
 エアバッグ 3-48</p> <p>(2) オートエアコン 5-3</p> <p>(3) 非常点滅表示灯
 スイッチ 3-82</p> <p>(4) ステアリングオーディオ
 スイッチ 5-11</p> <p>(5) ホーンスイッチ 3-84</p> <p>(6) クルーズコントロール
 スイッチ 4-30</p> <p>(7) ドアミラー角度調節
 スイッチ 3-22</p> <p> ドアミラー格納
 スイッチ 3-22</p> <p>(8) パワーウインドー
 スイッチ 3-18</p> | <p>(9) 発炎筒 7-29</p> <p>(10) グローブボックス 5-24</p> <p>(11) リッド付インパネ
 ボックス 5-25</p> <p>(12) アクセサリー
 ソケット 5-19</p> <p>(13) 走行モード切替え
 スイッチ 4-13</p> <p>(14) シートヒーター
 スイッチ 3-27</p> <p>(15) アームレスト 5-29</p> <p> コンソールボックス 5-30</p> <p>(16) ドリンクホルダー 5-26</p> <p>(17) フューエルリッド
 オープナー 5-12</p> |
|---|--|

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

1



65J5004

- | | |
|--|--|
| <p>(1) ドアミラーヒーター
スイッチ…………… 3-23、3-84
リヤデフォッガー
スイッチ…………… 3-84</p> <p>(2) ワイパー／ウォッシャー
スイッチ…………… 3-82</p> <p>(3) メーター…………… 3-61
警告灯・表示灯…………… 3-64
インフォメーション
ディスプレイ…………… 3-71</p> <p>(4) ライトスイッチ…………… 3-79
方向指示器スイッチ…………… 3-81</p> | <p>(5) ESP® OFFスイッチ…………… 4-39
ヒルディセントコントロール
スイッチ…………… 4-40</p> <p>(6) 4WDモード切替え
スイッチ…………… 4-22</p> <p>(7) 運転席
SRSエアバッグ…………… 3-48</p> <p>(8) エンジンスイッチ…………… 4-2</p> <p>(9) ボンネット
オープナー…………… 5-13</p> <p>(10) デアイサースイッチ…………… 3-85</p> <p>(11) フォグランプ
スイッチ…………… 3-81</p> |
|--|--|

警告ブザー（室内ブザー）が鳴ったときは

下記機能の作動中は、次の表以外の警告ブザーが鳴る場合があります。

- 4WDモードの切替え操作 → 4-22ページ

■ 全車共通

いつ	ブザー音	インパネ	原因と対処方法
いずれかのドアを開けたとき	ピー、ピー、 (約10秒間)	 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。エンジンスイッチを ON にすると、警報を途中で停止できます。 → 3-14ページ (セキュリティアラーム)
エンジンスイッチを ON にしたとき	ピー、ピー、 (4回)	 約8秒間 小刻みに点滅	駐車時にセキュリティアラームの警報が作動したことを示しています。盗難にあっていないか車の中を確認してください。 → 3-14ページ (セキュリティアラーム)

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
エンジンスイッチが ON のとき	ポーン (1回)	※1	インフォメーションディスプレイに「ヒルホールド機能停止中」と表示されたら、スズキサービス工場点検を受けてください。 → 4-40 ページ (ヒルディセントコントロール) → 4-43ページ (ヒルホールドコントロール)
		 点灯 ※2	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → 3-66ページ (燃料残量警告灯)

※1 メーター内の  (マスターウォーニング) が点滅するとともに、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

※2 インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ 3-76ページ (インフォメーションディスプレイのメッセージ)

警告ブザーが鳴ったときは

1

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
停車中／ 後退中	ピー、ピー、	 表示	セレクトレバーが [R] に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → 4-15 ページ ([R] (リバース)ポジション警告ブザー)
走行中	ピー、ピー、 (約2秒間)	 赤色点滅	携帯リモコンが車内にありません。安全な場所に停車して、リモコンを車内にもどしてください。 → 4-4ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)
	ピー、ピー、 (約95秒間)	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → 3-37ページ (シートベルト警告ブザー)
	ポーン (1回)	 点灯 ※1	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → 3-68ページ (半ドア警告灯)
エンジン スタートノブ をもどしたとき	ピー、ピー、	 赤色点滅	エンジンスイッチが [ACC] と [LOCK] の間にあります。ノブを [LOCK] の位置へ完全にもどしてください。 → 4-8 ページ (エンジンスタートノブもどし忘れ警告)

※1 メーター内の  (マスターウォーニング) が点滅するとともに、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **3-76ページ** (インフォメーションディスプレイのメッセージ)

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
運転席ドアを開けたとき	ピー、ピー、	—	エンジンスターートノブが LOCK の位置へ完全に戻っていません。ノブを LOCK の位置へもどしてください。 → 4-8 ページ (エンジンスターートノブもどし忘れ警告)
			エンジンスイッチにキーが差さったままです。キーを抜いてください。 → 4-9ページ (キー抜き忘れ警告ブザー)
	ピー——	 点灯 ※1	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → 3-80ページ (ライト消し忘れ警告ブザー)
すべてのドアを閉めたとき	ピー、ピー、 (約2秒間)	 赤色点滅	携帯リモコンが車内にありません。リモコンを車内にもどしてください。 → 4-4ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)

■ ESP®装備車のみ

→ **4-36ページ (ESP®装備車の取扱い)**

いつ	ブザー音	メーター	原因と対処方法
エンジンスイッチが ON のとき	ポーン	 点灯 ※1	ESP®のシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場での点検を受けてください。 → 4-37ページ (ESP®作動表示灯)

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

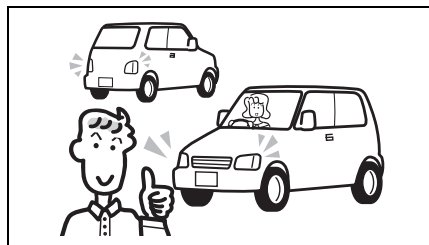
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）	2-2
荷物を積むときは	2-4
お子さまを乗せるときは	2-5
運転席に座って	2-9
エンジンをかけるときは	2-11
走行するときは	2-12
駐車するときは	2-18
給油するときは	2-20
オートマチック車を 運転するときは	2-22
SRSエアバッグ車を 運転するときは	2-24
4WD車を運転するときは	2-26
こんなことにも注意して	2-28
エコドライブをしましょう	2-32

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に

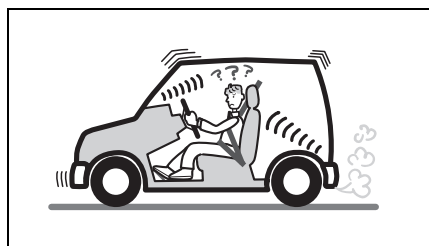


80J008

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。

→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



80J009

▲ 注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。

- 地面に油や液の漏れたあとが残っている
- ブレーキ液が不足している
- いつもと違うにおい、音、振動がある
- ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う

車検を受けるときの注意

車両をテスターなどに載せる場合は、次のことをお守りください。

- 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を次のようにします。
 - スピードメーターテスターでは、（4H LOCK）（直結ハイモード）に切り替えます。
 - プレーキテスターでは、（4H）（通常走行モード）に切り替えます。

→ **4-22ページ**

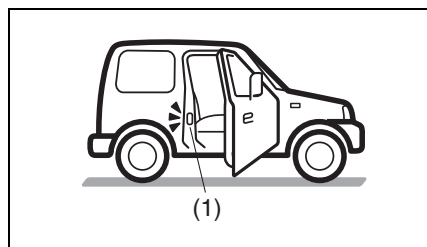
（4WDモードの切替え操作）

- ESP® 装備車の場合、前記に追加して、ESP® を整備モードに切り替える必要があります。

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開閉部に貼付してある「空気圧ラベル」（1）で確認できます。
- **メンテナンスノート（日常点検）**

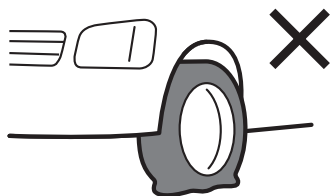


80J1080

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



80J013

注意

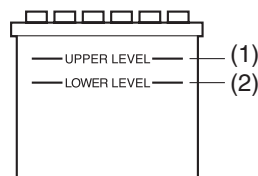
指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- 走行安定性が悪化する
- ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる
- ABSおよびESP®（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって正常に作動しなくなる
- 4WD システムでは、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる

バッテリーの液面を点検する

液面が下限（2）より下にあるときは、バッテリー補充液を上限（1）まで補給してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ メンテナンスノート（日常点検）



80J1267

警告

バッテリー液が不足すると、発熱や爆発のおそれがあります。

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積み過ぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

警告

- 燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。



80J021

- インパネの上に物を置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときにとばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

注意

- 車内に荷物を積み重ねないでください。また、ラゲッジシェルフに物をのせないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



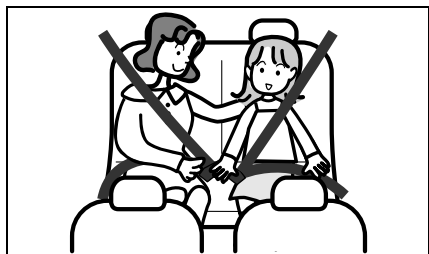
80J022

- 動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。

→ 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）

⚠ 警告

- 後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドブルーフをご使用ください。

→ 3-7ページ

（チャイルドブルーフ）

- お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。
 - 助手席をいちばん後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。お子さまが窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないようにしてください。

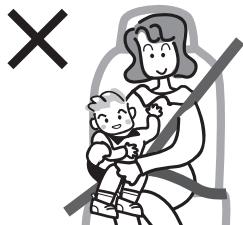


80J062

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

- 必ずシートベルトを着用させてください。
- 一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
- シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J082

- 首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない



80J028

⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- お子さま用シートは、助手席で使用する事ができません。後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
→ 3-43ページ（お子さま用シートの選択について）

- 助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。ご使用前に、必ずお読みください。

	警告 SRS 助手席エアバッグ
このシートに、後ろ向きのチャイルドシートを取り付けしないでください。 エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に至るおそれがあります。 チャイルドシートの取り付け可否については、取扱説明書に記載の適合表をご確認ください。 － 詳しくは、取扱説明書をお読みください －	

85K20020

※警告ラベルで使用される「チャイルドシート」は、本書で使用される「お子さま用シート」のことを表します。

- この車の後席には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
 - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
 - **3-41 ページ (お子さま用シートのシートベルトによる固定)**
 - ISOFIXタイプのお子さま用シート
 - **3-30ページ (ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具)**
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。

- お子さま用シートには、スズキ純正品をお勧めします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用しても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにし、安全運転に心がけてください。

警告

- 助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

- 走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
- お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んで、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠ 注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物に当たるおそれがあります。

ドアやウィンドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。



80J029

⚠ 警告

パワーウィンドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウィンドーロックスイッチをご使用ください。
→ 3-18ページ
(ウィンドーロックスイッチ)

窓から顔や手を出さない



80J030

⚠ 警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外の物などに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

⚠ 警告

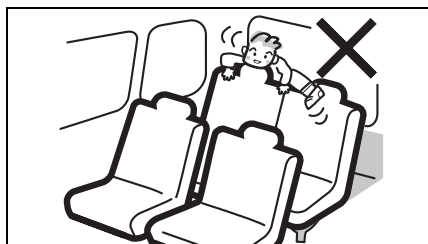
車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



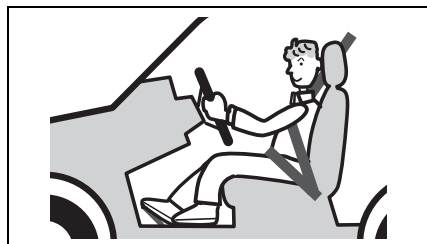
80J1031

⚠ 警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

運転席に座って

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に



80J014

⚠ 警告

- 走行中にハンドルの調節やシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 3-24ページ (チルトステアリング)
 - 3-25ページ (前席シート)
 - 3-21ページ (ルームミラー、ドアミラー)
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

シートベルトは正しく着用

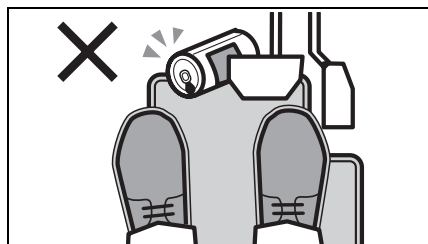


65J106

⚠ 警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。
→ 3-36ページ（シートベルト）

運転席の足元付近に物を置かない

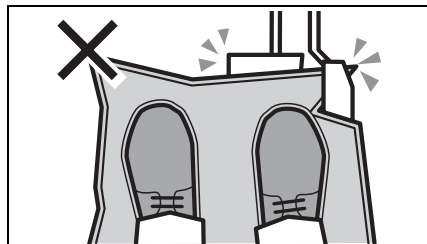


64L20030

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなってしまう事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットを適切に使用する

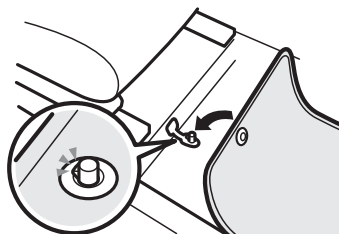


64L20040

⚠ 警告

- ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。
- 足元の形に合わないフロアマットを使わない
 - フロアマットを重ねて敷かない
 - フロアマットは固定具などで確実に固定する

スズキ純正フロアマットの例



64L20190

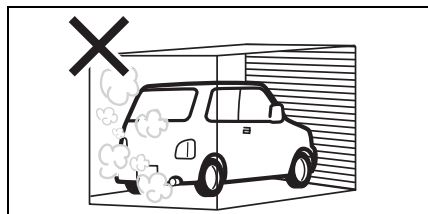
※運転席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

📌 アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない



80J010

⚠ 警告

- 車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。
- 車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

窓越しのエンジン始動はしない



80J3008

運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

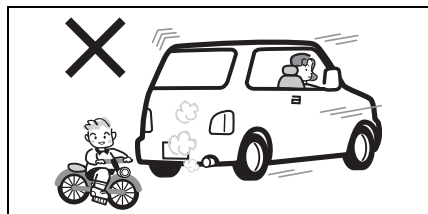
⚠ 警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

→ 4-6ページ (エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

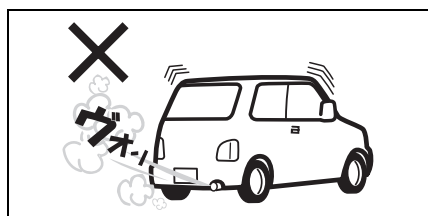


80J025

⚠ 注意

- 周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。
- バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



80J064

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。

→ 2-32ページ（エコドライブをしましょう）

注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やカーナビゲーションなどに気を取られないで



85K2114

⚠ 警告

- 運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを使用しないでください。会話や電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は、走行中にテレビを見たり、カーナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠ 警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

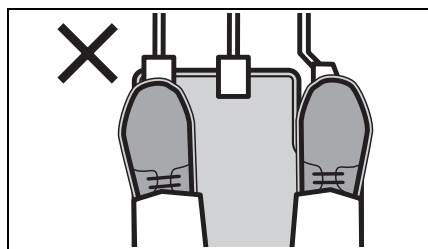
ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

⚠ 注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない

マニュアル車



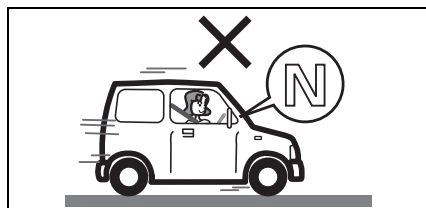
64L20060

⚠ 注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

走行中はニュートラルにしない



80J035

⚠ 注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

- 警告灯が点灯したら？
警告メッセージが表示されたら？
ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
→ 3-64ページ
(警告灯・表示灯の見かた)
→ 3-76ページ (インフォメーションディスプレイのメッセージ)
- 床下に強い衝撃を受けたら？
ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

●タイヤが突然パンクしたら？

ハンドルをしっかりと握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

→ 7-2ページ（パンク）

●ブレーキペダルが重く感じたら？

車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じる場合がありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

●ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？

すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠ 警告

金属音が発生したまま走行を続けしないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度に合わせて、次のようにします。

■ マニュアル車

ギヤを1速ずつシフトダウンします。

→ 4-10ページ

（チェンジレバーの操作）

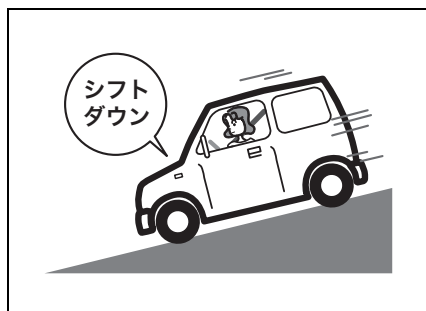
■ オートマチック車

セレクトレバーを [3]、[2] または [L] にシフトダウンします。

→ 4-11ページ

（セレクトレバーの操作）

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

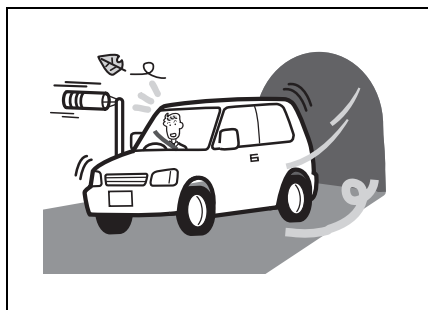


80J1003

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは



80J038

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

草の生い茂った場所は走行しない



65J105

⚠ 警告

草などが駆動系部品や排気管にからまると、駆動装置が損傷したり、火災につながったりするおそれがあります。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

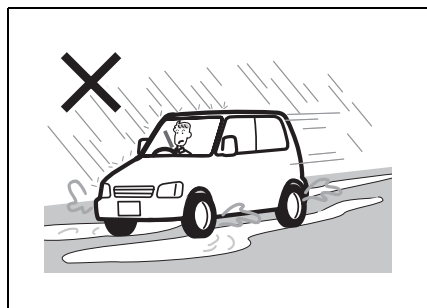


80J039

⚠ 注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンプレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

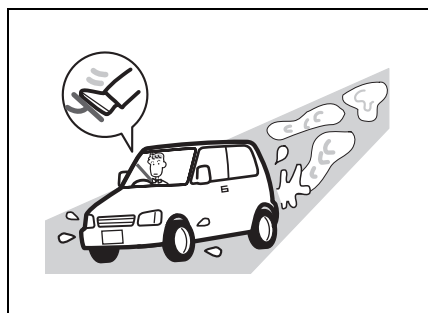


80J040

⚠ 注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなってしまう事故につながるおそれがあります。

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



80J041

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注 記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック(立ち往生)したときは

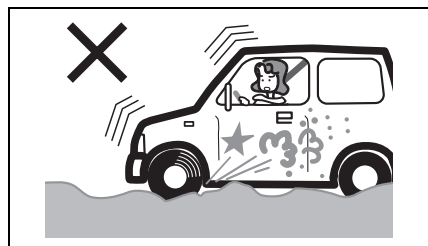
- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
 - 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - オートマチック車** は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
 - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
 - タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
 - ESP®装備車では、トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、次のようにしてください。
 - 4WDモードの切替え操作をして、駆動状態を〔4H LOCK〕（直結ハイモード）にしてからESP® OFFスイッチを操作する。トラクションコントロールが作動しなくなります。
 - 4WDモードの切替え操作をして、駆動状態を〔4L LOCK〕（直結ローモード）にする。駆動補助のため、ブレーキトラクションコントロールが作動可能な状態となります。
- **4-22ページ**
(4WDモードの切替え操作)
- **4-36ページ**
(ESP®装備車の取扱い)

⚠ 警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注 記

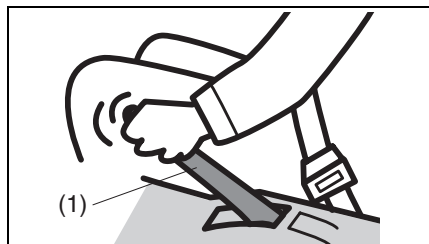
- 駆動状態が〔4H〕（通常走行モード）のときは、4WDモードの切替え操作をして、駆動状態を〔4H LOCK〕または〔4L LOCK〕にしてください。〔4H〕のまま脱出しようとする、駆動装置などが損傷するおそれがあります。
- タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



80J043

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

- **オートマチック車** は、セレクトレバーを **P** に入れてください。
- **マニュアル車** は、チェンジレバーを R（リバース）または 1 速に入れてください。
- 坂道で駐車するときは、次のことをお守りください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、車が動き出さないことを確認してください。
- 2 **マニュアル車** は、下り坂ではチェンジレバーを R、上り坂では 1 速に入れてください。
- 3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠ 警告

- 急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車中は、駆動状態を（N）（ニュートラル）にしないでください。
 - **オートマチック車** は、セレクトレバーを **P** に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。
 - **マニュアル車** は、チェンジレバーを R または 1 速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

→ 4-22ページ

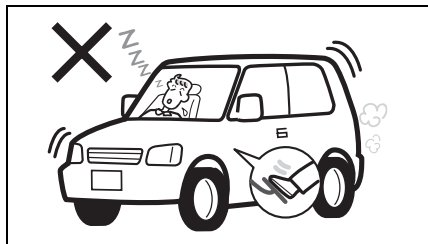
（4WDモードの切替え操作）

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠ 注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



80J045

⚠ 警告

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

燃えやすい物の近くに駐車しない

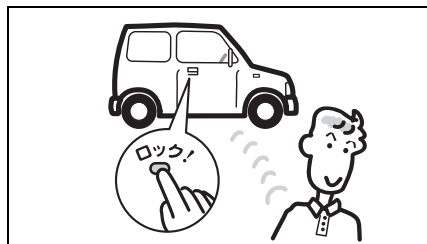


80J046

⚠ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



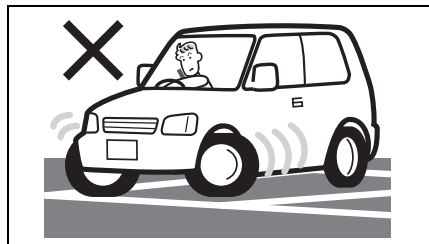
80J3093

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない



80J049

注 記

駐車するときや車庫入れのとき、ハンドルをいっぱいにまわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

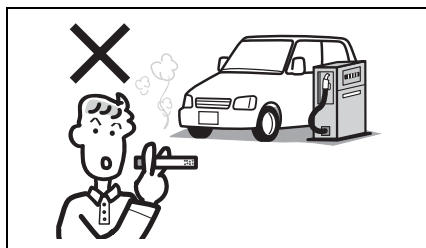
！ 警告

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CDケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CDケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。

給油するときは

→ 5-12ページ（燃料給油口）

火気に気をつけて



80J020

！ 警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するとき

⚠ 警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。

また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。

- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。

- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示に従ってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- その他、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を 運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。4-11ページの「オートマチック車」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

▲ 注意

- セレクトレバーを **P** **N** 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなる場合があります。とくにしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

R（リバース）ポジション 警告ブザー

セレクトレバーを **R** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが **R** に入っていることを運転者に知らせます。

🔊 アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

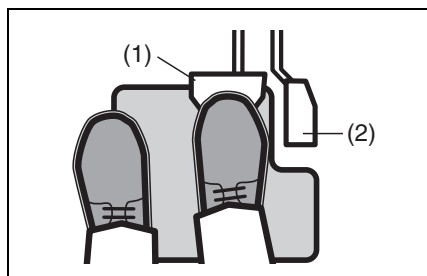
ペダルの踏み間違いに注意

▲ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



64L20140

- (1) ブレーキペダル
- (2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

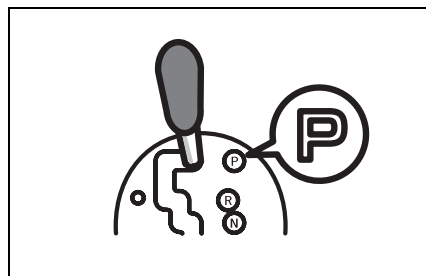
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は **[P]**、前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



65J234

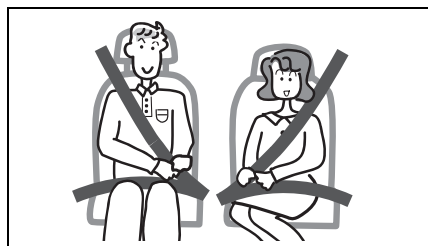
⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが **[P]** 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を 運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-48 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



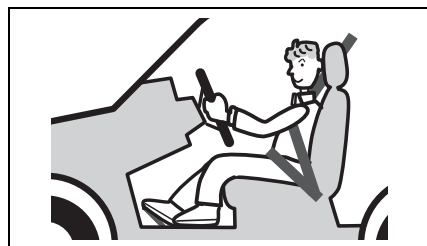
51K0007

⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方へ出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。



80J014

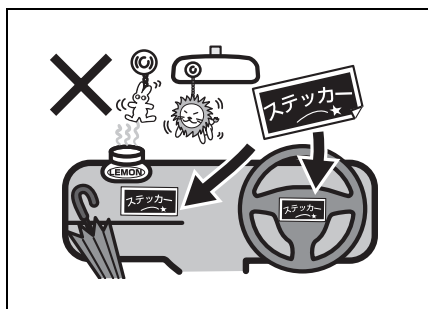
⚠ 警告

- ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。



80J061

SRS エアバッグシステムを 正常に機能させるために

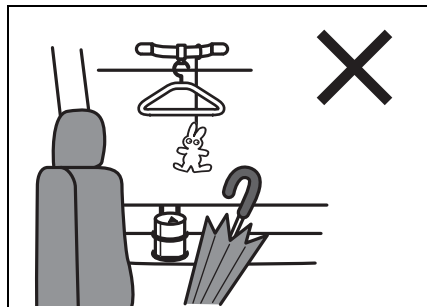


66K20540

警告

- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。
- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
- フロントガラスやルームミラーにアクセサリ（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

- SRS サイドエアバッグ装備車の場合、前席にシートカバーを取り付けるときは、専用のスズキ純正シートカバーを使用してください。純正の専用品以外の物を使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動なくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときに、物が飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリ用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。また、後席アシストグリップについているコートフックに服をかけるときは、ハンガーを使わずに直接服をかけてください。



65J268

お子さま用シートの取付け

- 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）
- 3-43 ページ（お子さま用シートの選択について）

4WD車を運転するときは

4WD車には特有の操作上の注意があります。4-22ページの「4WDモードの切替え操作」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

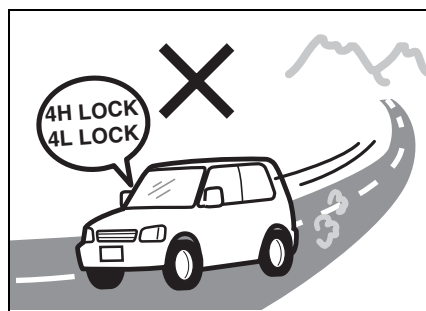
路面の状況に注意して走行する

▲ 注意

4WD車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- 砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。

乾燥した舗装路では、絶対に（4H LOCK）または（4L LOCK）で走行しない

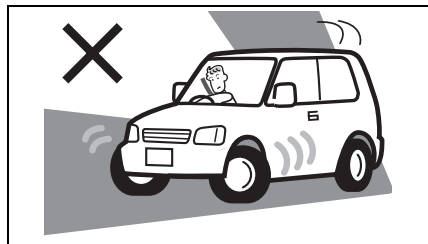


▲ 注意

濡れた舗装路でも（4H LOCK）（直結ハイモード）または（4L LOCK）（直結ローモード）で走行することは、できるだけ避けてください。タイヤがスリップしにくい路面では、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれず次のような状態が生じます。

- 駆動装置に無理な力がかかって、損傷するおそれがある
- タイヤの摩耗が早まる
- ハンドルが重くなる
- カーブではブレーキがかかったような状態になる

(4H LOCK) または (4L LOCK) で急旋回をしない



80J055

⚠ 注意

直結モード（前後輪直結状態）で急カーブや脇道、駐車場で急旋回をすると、ハンドルをまわすときの力が大きくなるとともに、タイトコーナーブレーキング現象（※）が起きて、思いがけない事故を起こすおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

※タイトコーナーブレーキング現象とは、直結モードでの急旋回時に、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれない状態が生じ、ブレーキをかけたときと同じ状態になることをいいます。

渡河走行はできるだけ避ける



80J042

注記

- 渡河などの水中走行をすると、エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。やむをえず渡河をするときは、次のことをお守りください。
 - あらかじめ河川の深さや地形を確認する
 - 水深 30cm 以下のところを選び、河川に対して直角または川下方向に渡河する
 - 波を立てないように最徐行（5km/h 以下）し、セレクトレバーやチェンジレバーの操作は避け、一気に渡河する
- 渡河後は、周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。
- 万一、水深 30cm 以上の河川を走行したときは、ブレーキの効きを確認しながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。
 - ブレーキの効き具合
 - エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
 - ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

オフロード走行後は車を点検する

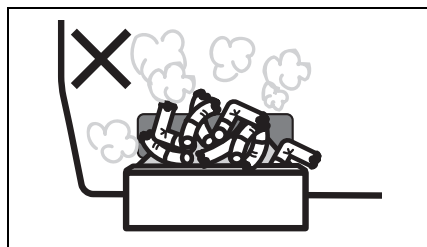
注 記

次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- 車両の下部に損傷がある
- オイル量の変化、オイルやグリスの白濁がある

こんなことにも注意して

マッチ、タバコの火は確実に消す



80J067

⚠ 警告

- マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。
- 灰皿（別売り）の中に吸いがらをため過ぎたり、紙など燃えやすい物を入れたりしないでください。

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

段差などに注意して

注 記

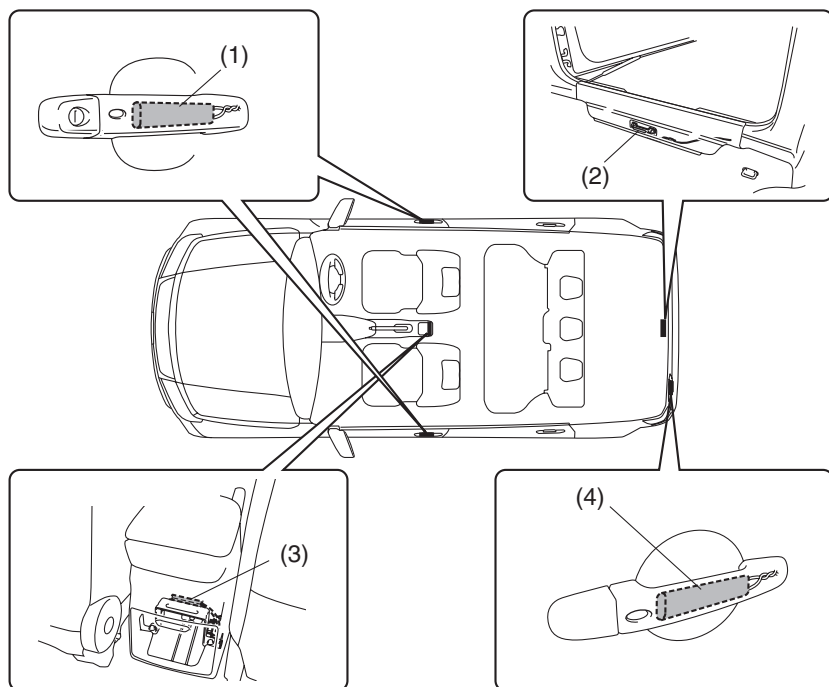
次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- 路肩など段差がある場所への乗り入れ
- わだちやくぼみなどがある道路の走行

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

警告

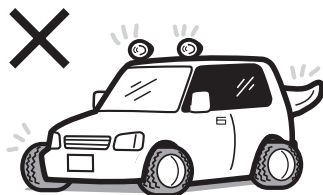
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレススタートシステム装備車の各発信機（下図参照）から約 22 cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレススタートシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。
- 詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。



65J5005

- (1) 前席ドア車外発信機（※イラストは運転席ドア側）
- (2) 荷室発信機（バックドア開口部下）
- (3) 車室内発信機（コンソールボックス下）
- (4) バックドア車外発信機

不正改造はしない



80J065

⚠ 警告

- この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。
- 無線機、オーディオ、ETC 車載器などの電気製品の取付け、取外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から直接電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。
- ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注 記

ディスチャージヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着

部品の取付け、取外し、修理をするときは

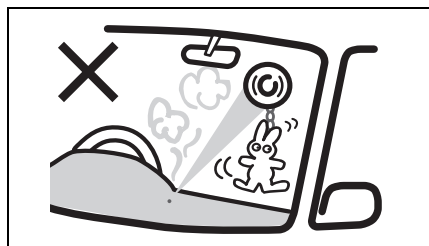
⚠ 警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要ときに正常に作動しなかったりすることがあります。

次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席シートの交換およびシートまわりの修理
- フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取付けに気をつけて



80J069

警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがのおそれがあります。

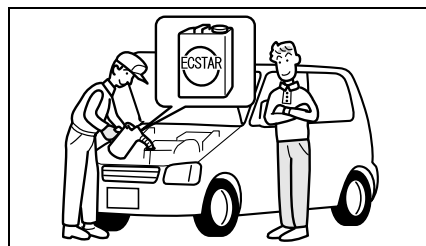
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**15,000km**ごと、または**12か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**15,000km**ごとに交換してください。
- 指定のエンジンオイルを使ってください。
→ 8-1ページ（サービスデータ）
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
→ メンテナンスノート

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



81J20540

■ エンジンオイルの規格／粘度

次の表にしたがって適切なものを使ってください。

API規格(※1)	SAE粘度(※2)
SLまたはSM	0W-20
	5W-30

※1 API規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格で、エンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。左側の数字（Wの付く数字）は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強くエンジンの保護性能に優れています。

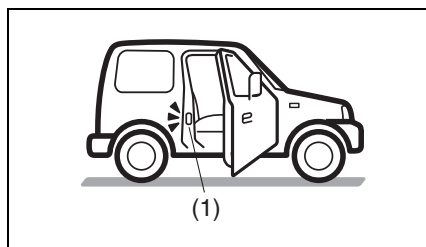
🔧 アドバイス

0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開閉部に貼付してある「**空気圧ラベル**」(1)で確認のうえ、調整してください。



80J1080

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間、お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（-10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

🔧 アドバイス

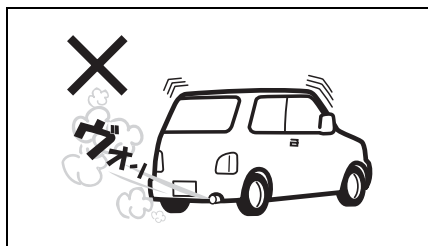
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5分間で160mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキ
など「急」のつく運転はしな
い



80J259

空ぶかしをしない



80J064

燃料を消費するだけで、何の効果もあ
りません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で
走行すると燃費が悪くなります。走行
速度に応じた正しいギヤをお使いくだ
さい。

3. 運転する前に

● ドアの開閉

キー	3-2
ドア	3-4
キーレスエントリー	3-8
携帯リモコン	3-10

● 警報装置

セキュリティアラーム（警報装置）	3-14
------------------------	------

● ウィンドーの開閉

パワーウィンドー	3-18
----------------	------

● 各部の調節

ルームミラー	3-21
ドアミラー	3-22
サイドアンダーミラー	3-24
チルトステアリング	3-24

● シートの調節

前席シート	3-25
後席シート	3-28

● シートベルト

シートベルトについて	3-36
シートベルトの着用のしかた	3-38
シートベルトの取扱いとお手入れ	3-39
シートベルトプリテンショナー（前席のみ） ..	3-40
シートベルトフォース リミッター（前席のみ）	3-41
お子さま用シートの シートベルトによる固定	3-41
お子さま用シートの選択について	3-43

● SRSエアバッグ

SRSエアバッグ車を運転するときは	3-48
SRSエアバッグシステムの取扱い	3-52
SRSエアバッグシステムの作動	3-55
SRSエアバッグ警告灯	3-59
廃棄と廃車	3-59
イベントデータレコーダー (EDR)とは	3-60

● メーター

メーターの見かた	3-61
警告灯・表示灯の見かた	3-64
インフォメーションディスプレイ	3-71

● スイッチの使いかた

ライトスイッチ	3-79
フォグランプスイッチ	3-81
方向指示器スイッチ	3-81
非常点滅表示灯スイッチ	3-82
ワイパー／ウォッシャースイッチ	3-82
ホーンスイッチ	3-84
リヤデフォグガースイッチ	3-84
デアイサースイッチ	3-85

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

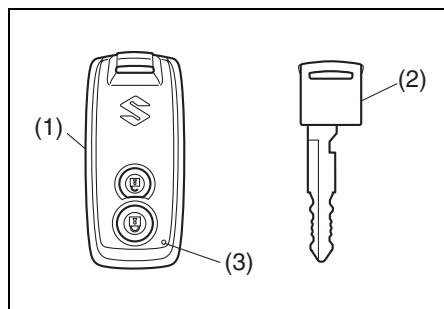
- キーは、エンジンの始動・停止のほか、ドアの施錠・解錠に使用します。
- キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。
- すべてのキーにイモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いています。

→ 4-6ページ

（イモビライザーシステム）

- 携帯リモコン（1）が1個、リモコンに格納可能なキー（2）が2本ついてきます。

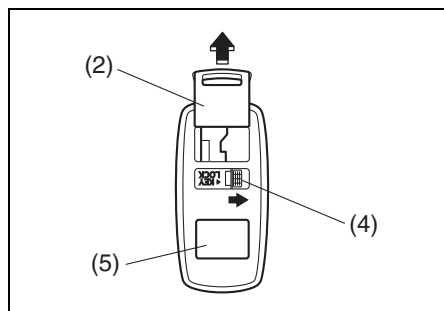
→ 3-10ページ（携帯リモコン）



80J1307

(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー（2）は、ロック解除レバー（4）を ➡ 方向に引きながら取り出します。



65J394

(5) 適合証明マーク

警告

リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

注意

キーホルダーのアクセサリなどは必要最小限にしてください。アクセサリを多数付けたり、重い物を付けたりすると、走行中の振動などでエンジンスイッチに差したキーがまわるおそれがあります。

また、大きなアクセサリを付けていると、膝や手などが当たってキーをまわしてしまうおそれがあります。

→ 4-2ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）

注 記

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

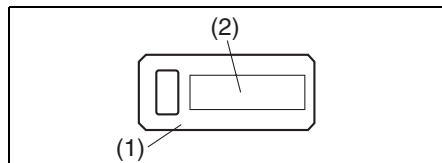
- インパネの上などの高温になるような場所に置かない
- 落下させるなどして、強い衝撃をあたえない
- 水洗いをしたり、水中に入れたりしない
- 磁気をおびたキーホルダーなどをつけない
- テレビやオーディオなど磁気をおびた機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

ⓘ アドバイス

- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠やエンジン始動ができなくなるおそれがあります。
- ホームセンターなどでスペアキーを作成しても、イモビライザー機能がないため、ドアの施錠・解錠はできても、エンジンの始動ができません。イモビライザー機能付きのスズキ純正のキーにて暗証コードを登録（最大4本）する必要があります。
- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレート（1）には、キー作成時に必要なキーナンバー（2）が打刻されています。



65J5041

ⓘ アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

ドア

⚠ 警告

- ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

⚠ 注意

- ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
- ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
- バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

🔔 アドバイス

セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。

→ 3-14ページ

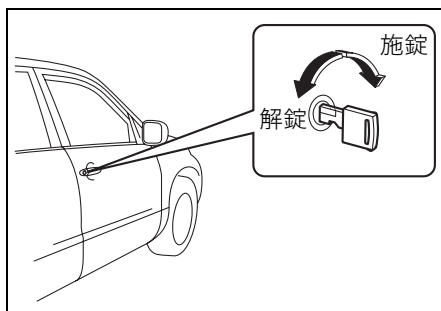
(セキュリティアラーム)

キー操作による車外からの施錠・解錠

- 3-8ページ (キーレスエントリー)
- 3-10ページ (携帯リモコン)

■ 運転席ドア

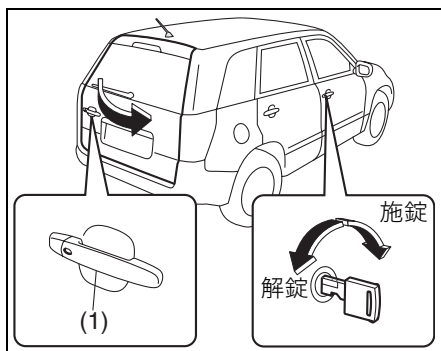
キーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。



■ バックドア

運転席ドアにキーを差し込んで車の前方向にまわすと施錠、後ろ方向にまわすと解錠できます。

- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドル (1) を手前に引きまわす。



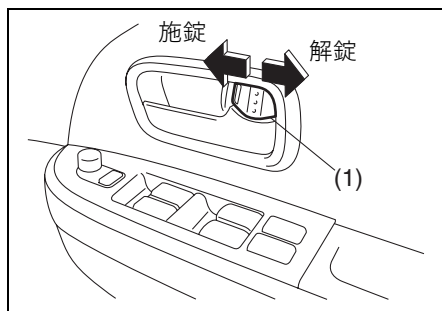
警告

車を路肩などに止めて、バックドアを開けたままにしないでください。やむをえずバックドアを開けたままにするときは、安全のため、停止表示板（別売り）などを後方から見やすいところに設置してください。バックドアを開けた状態では、運転席側の灯火類（尾灯、方向指示器／非常点滅表示灯、後部反射器）が後方から見えなくなる場合があります、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内からの施錠・解錠

■ 前席ドア、後席ドア

ドアを開けてロックレバー（１）を施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



65J008

アドバイス

- 解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。
- 運転席ドアのロックレバーには、パワードアロック機能がありません。
→ 3-7ページ（パワードアロック）

■ バックドア

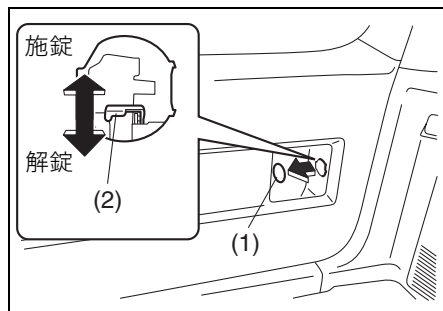
故障やバッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

- 1 後席の背もたれを倒すなどして、作業スペースを確保します。
→ 3-33ページ
(後席シートの格納のしかた)

- 2 バックドアポケット内の右側面にあるカバー（１）を外します。

- 3 ジャッキバーの先端やマイナスドライバー（市販品）など先が細く平たいもので、バックドア内シーリングカバー（ビニール状のもの）に穴を開けます。

- 4 ジャッキバーなどの先端で奥にあるエマージェンシーレバー（２）を下側に倒すと、解錠します。
施錠するときは、レバーを上側に起こします。



65J009

注意

エマージェンシーレバーを指などで操作しないでください。けがのおそれがあります。

注 記

穴の開いたシーリングカバーは、スズキサービス工場ですばやく交換してください。そのまま放置すると、雨漏れなどの原因となります。

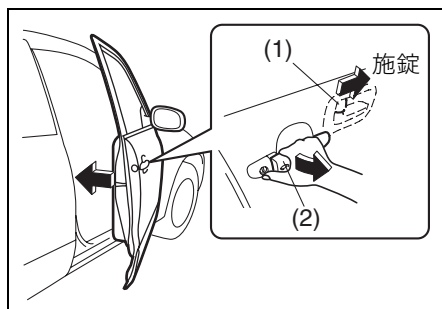
キーを使わない施錠

⚠️ アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。
 - 次のような状況では、「キーを使わない施錠」ができない場合があります。
 - 携帯リモコンが車内にある
 - エンジンスタートノブが **LOCK** の位置へ完全にもどっていない
- 3-13 ページ (携帯リモコン閉じ込み防止機能)

■ 前席ドア

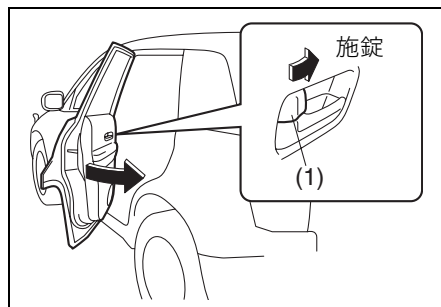
ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にして、ドアハンドル (2) を引いたままドアを閉めると施錠できます。



65J5056

■ 後席ドア

ロックレバー (1) を施錠側 (車の前方向) にして、ドアを閉めると施錠できます。



65J5057

■ キー閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」で、キーを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

- エンジンスイッチからキーを抜き忘れたままではいずれかのドアを開け、パワードアロックスイッチで施錠操作をすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。

⚠️ アドバイス

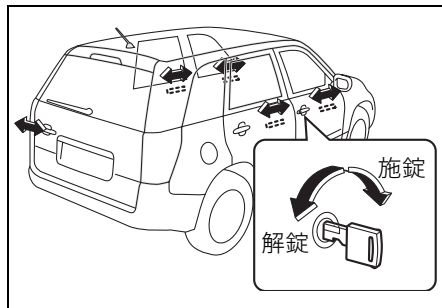
キーが車内にあっても、次のようなときはキー閉じ込み防止機能は作動しません。

- エンジンスイッチにキーが差し込まれていない
- バッテリーが完全に上がっている、または接続されていない

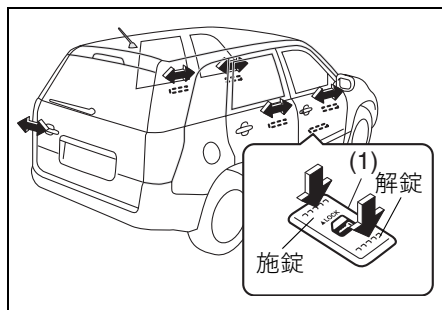
キーまたはパワードアロック スイッチ操作によるパワード アロック

- 3-8ページ (キーレスエントリー)
- 3-10ページ (携帯リモコン)

運転席ドアをキーまたはパワードアロックスイッチ (1) 操作で施錠・解錠すると、助手席/後席/バックドアも同時に施錠・解錠します。



65J5007



65J5008

■ ドアロック解除機能

衝突などで SRS エアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

- SRS サイド/カーテンエアバッグ (タイプ別装備) が作動したときも、ドアロック解除機能が作動します。

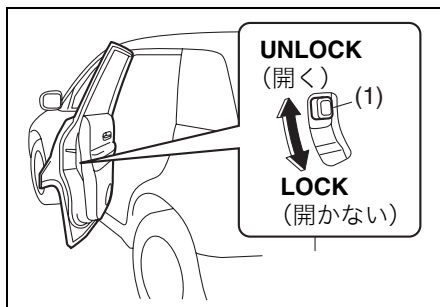
⚠️ アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

チャイルドプルーフによる 施錠・解錠

車内から後席ドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバー (1) を **LOCK** (開かない) の位置にして、ドアを閉めます。車内からはドアが開きません。
- 外からドアを開けることは可能です。



65J014

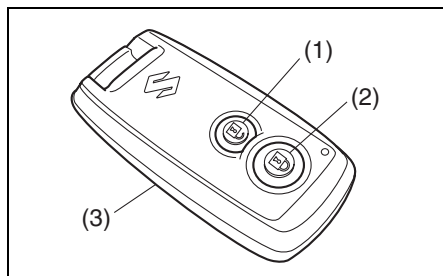
⚠️アドバイス

万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

キーレスエントリー

すべてのドアが閉まっているときに、車から約2m以内の範囲で携帯リモコンのロックスイッチ・アンロックスイッチを押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



- (1) アンロックスイッチ
(2) ロックスイッチ
(3) 携帯リモコン

⚠️警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

⚠️アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
 - いずれかのドアが開いている
 - エンジンスタートノブを押している、まわしている、たりする
 - エンジンスイッチにキーを差し込んでいる
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアが施錠・解錠できないときは、キーを使って施錠・解錠してください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
→ 6-7ページ
(携帯リモコンの電池交換)
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定 (工場出荷時)		設定切替え時	
	ロック (施錠)	アンロック (解錠)	ロック (施錠)	アンロック (解錠)
非常点滅 表示灯	1回点滅	2回点滅		
室内灯 (スイッチが DOOR位置) エンジンス イッチ照明		約15秒間 点灯	2回点滅	約15秒間 点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯およびエンジンスイッチ照明が約 15 秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
→ **5-16 ページ (室内灯、エンジンスイッチ照明)**

🔊アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え(カスタマイズ)については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。

タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。(警報なしの**Aモード**時を除く)

→ **3-14ページ**

(セキュリティアラーム)

🔊アドバイス

リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

携帯リモコン

すべてのドアが閉まっているときに、前席ドアまたはバックドアにあるリクエストスイッチを押すと、所持している携帯リモコンが車両と電波で通信を開始し、照合がとれるとドアの施錠・解錠が可能となります。

また、その他に次の機能があります。

- キーレスエントリー
→ 3-8ページ (キーレスエントリー)
- エンジンスタートノブによる始動機能
→ 4-6ページ (エンジンのかけかた)
- イモビライザー (車両盗難防止装置)
→ 4-6ページ
(イモビライザーシステム)

注 記

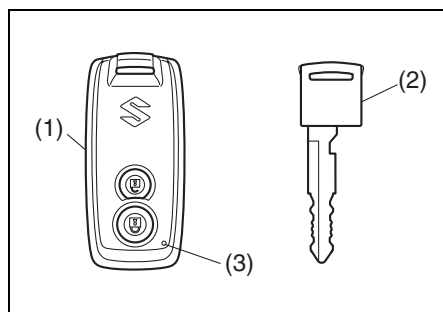
携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話や他のリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
 - 携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
 - 近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
 - コインパーキングに駐車している (車両検出用の電波の影響があるため)

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、携帯リモコンを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

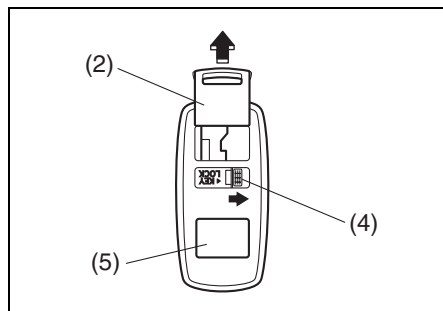
携帯リモコン (1) が1個、リモコンに格納可能なキー (2) が2本ついています。



80J1307

(3) 作動表示灯

- リモコンに格納されているキー (2) は、ロック解除レバー (4) を ➡ 方向に引きながら取り出します。



65J394

(5) 適合証明マーク

⚠ 注意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

注 記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- インパネの上などの高温になるような場所に置かない
- 落下させるなどして、強い衝撃をあたえない
- 水洗いをしたり、水中に入れたりしない
- 磁気をおびたキーホルダーなどをつけない
- テレビやオーディオなど磁気をおびた機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

🔧 アドバイス

- 適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、キーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、ドアの施錠・解錠やエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- 1台の車両で、4個の携帯リモコンまで登録できます。

🔧 アドバイス

- 電池の寿命は使用状況によりですが約2年です。

→ 6-7ページ

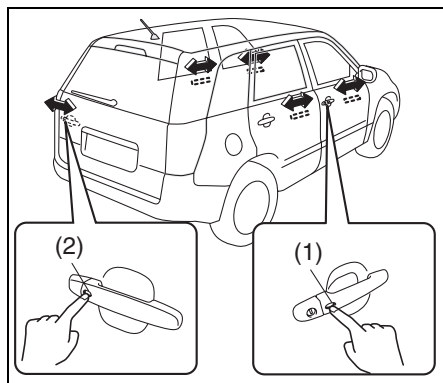
（携帯リモコンの電池交換）

- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。
（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠

すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンが「リクエストスイッチの作動範囲」（3-12ページ参照）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



65J5009

- (1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

⚠ 警告

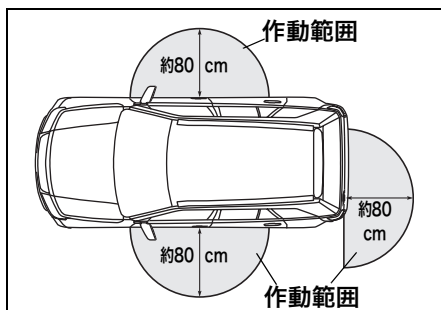
火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

📌 アドバイス

- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
 - いずれかのドアが開いている
 - エンジンスタートノブを押している、まわしている
 - エンジンスイッチにキーを差し込んでいる
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
 - 3-9ページ (アンサーバック機能)
 - 3-9ページ (タイマーロック機能)
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

リクエストスイッチの作動範囲 (車外)

前席ドアまたはバックドアのリクエストスイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内です。



65J5010

📌 アドバイス

- 「リクエストスイッチの作動範囲」で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われていたりしている
 - 携帯リモコンがドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあたり、リクエストスイッチから離れている

- リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

携帯リモコン閉じ込み防止機能

「キーを使わない施錠」（3-6 ページ参照）で、携帯リモコンを閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

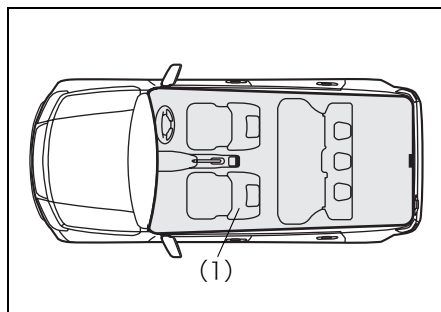
- 携帯リモコンを車内に置き忘れた状態で、次のような施錠操作をすると自動的にすべてのドアが解錠されます。
 - いずれかのドアを開けて、運転席ドアのパワードアロックスイッチで施錠操作をしたとき
 - 運転席ドアを開けて、運転席ドアのロックレバーで施錠操作をしたとき
 - 運転席以外のいずれかのドアを開けて、助手席のドアロックレバーで施錠操作をしたとき

アドバイス

- 「キーを使わない施錠」をするときは、携帯リモコンが手元にあるか確認してください。リモコンを閉じ込むおそれがあります。
- エンジンスタートノブを **LOCK** の位置へもどし忘れたときは、携帯リモコンの位置に関係なく、携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。
- バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。

携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

「車内の検知範囲」（1）は、インパネの上などを除く車室内です。



65J5011

🔊アドバイス

- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、携帯リモコン閉じこみ防止機能が作動しない場合があります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
 - 携帯リモコンがグローブボックスやドアポケットなどの小物入れの中にある
 - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床や荷室（ラゲッジシェルフの上を含む）にある
- 「**車内の検知範囲**」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、携帯リモコン閉じこみ防止機能が作動する場合があります。
 - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンがインパネの上にある

セキュリティアラーム (警報装置)

セキュリティアラームは、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約 20 秒後にセットされます。

セット状態にて、リクエストスイッチまたはキーレスエントリー以外のもの(※)で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※ キーやロックレバー、パワードアロックスイッチを含む

- 工場出荷時は、警報ありの＜**Dモード**＞設定です。任意で警報なしの＜**Aモード**＞に切り替えてください。

→ **3-16ページ**

(モード設定の切替えのしかた)

- 警報を誤作動させたときは

→ **3-15ページ**

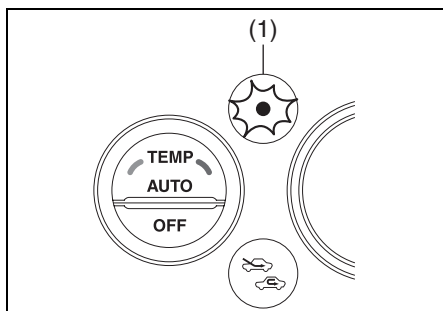
(警報の停止のしかた)

🔊アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ずリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。キーを使ってドアを解錠すると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを警報なしの＜**Aモード**＞に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた (Dモード時)

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠してください。セキュリティアラームインジケーター(1)が小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。セット中は、セキュリティアラームインジケーターが約2秒間隔で点滅します。



65J4005

ⓘ アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人が次の操作をしたときにも警報が作動します。
 - ロックレバーやパワードアロックスイッチで解錠し、いずれかのドアを開けたとき
- すべてのドアをキーまたはロックレバー、パワードアロックスイッチで施錠すると、アラームがセットされます。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。(警報なしのAモード時を除く)
 - 3-9ページ (タイマーロック機能)

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、エンジンスイッチを **ON** にしてください。警報を途中で停止できます。

ⓘ アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態でバッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを **ON** にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

セキュリティアラームモード

<Aモード>と<Dモード>の2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

<Aモード>

警報は作動しません。

<Dモード>（工場出荷時）

非常点滅表示灯が約 40 秒間点滅するとともに、室内ブザーが約 10 秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終わると、ホーンが約 30 秒間断続的に鳴ります。

※ <Dモード>では、セキュリティアラームインジケータも点滅します。

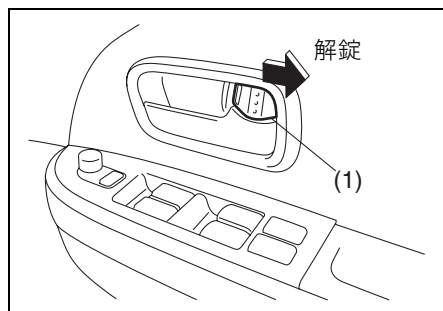
モード設定の切替えのしかた

次の手順で切り替えてください。

- 1 エンジンスタートノブのキャップを外します。

→ 4-2 ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）

- 2 エンジンスイッチにキーを差して、すべてのドアを閉め、ロックレバー（1）を解錠側（車の後ろ方向）にします。



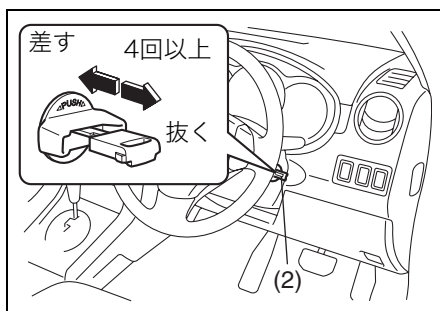
65J018

アドバイス

解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。

※ 次の③から④までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

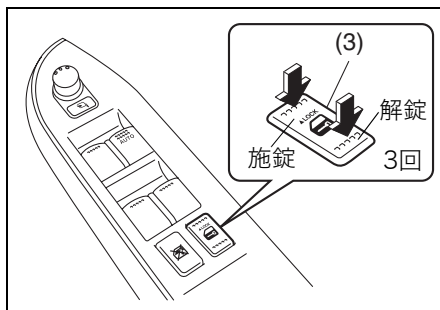
- 3 キーを抜きます。抜いたキーを再び差しします。これらの操作を4回以上行ない、最後にキーを差した状態にします。



65J385

- (2) エンジンスイッチ

- 4 パワードアロックスイッチ（3）の施錠側（車の前方向）を押して施錠します。パワードアロックスイッチの解錠側（車の後ろ方向）を押して解錠します。これらの操作を3回行ない、最後に施錠状態にします。



65J110

- (3) パワードアロックスイッチ

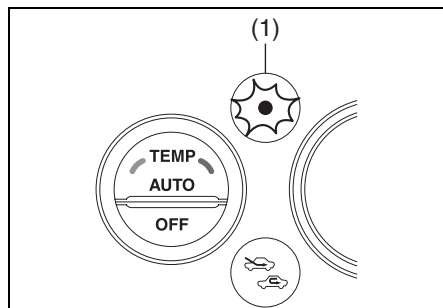
前記の手順を行なうと、モード設定が次表の順で切り替わります。また、設定確認ブザーの回数によって設定状態が確認できます。

モード設定状態	設定確認ブザー
Aモード	1回
	↕
Dモード	4回

⚠️アドバイス

- アラームがセット状態のときは、モード設定の切替えはできません。
- [3] から [4] までの手順を 15 秒以内にできなかったときは、[2] からやりなおしてください。
- モード設定を切り替えるときは、すべてのドアを閉めたまま行なってください。

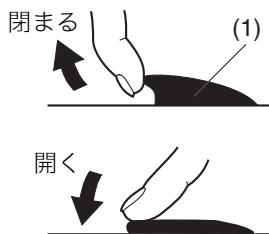
セキュリティアラーム インジケーター (1)



- セキュリティアラームが< **Dモード** >のときに、ドアをリクエストスイッチまたはキーレスエントリーで施錠すると、小刻みに点滅して約 20 秒後にセキュリティアラームがセットされます。セット中は、約 2 秒間隔で点滅します。
- 駐車時に警報が作動していると、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに約 8 秒間小刻みに点滅します。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが **ON** のときに、パワーウィンドースイッチ (1) を操作すると、ウィンドーの開閉ができます。



80J1268

⚠ 警告

- パワーウィンドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。
- 窓から手を入れてパワーウィンドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠ 注意

ウィンドーガラスを開閉するときは、ガラスにふれないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注 記

バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウィンドーを開閉してください。

🔊 アドバイス

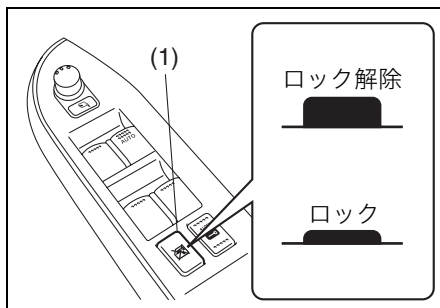
走行中に後席ウィンドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウィンドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。後席ウィンドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。

- 前席ウィンドーも開ける。
- 後席ウィンドーの開き具合を変える。例えばウィンドーが全開なら半開にする。

■ ウィンドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウィンドーロックスイッチ (1) を押し込むと、助手席/後席ウィンドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



65J111

警告

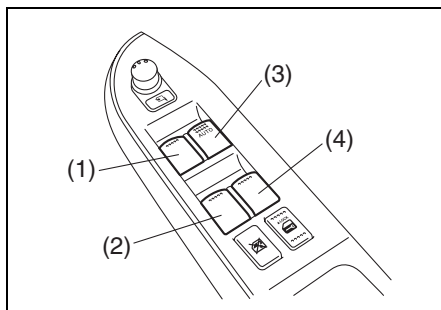
お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

アドバイス

ウインドーロックスイッチが **ロック** 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

各席のウインドーの開閉ができます。



65J113

- (1) 助手席ウインドースイッチ
- (2) 左後席ウインドースイッチ
- (3) 運転席ウインドースイッチ
(オート機構付)
- (4) 右後席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーの開閉 (オート機構付)

- ウインドースイッチを軽く操作すると、操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
 - ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
- 途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ 運転席ウインドーのオフディレイタイマー機能

運転席ウインドーは、エンジンスイッチを **ON** の位置から **ACC** または **LOCK** にしたあとでも、30秒以内は開閉が可能です。

アドバイス

- 30秒以内でも、運転席ドアを開けて閉めると、運転席ウインドーの開閉ができません。
- 運転席ウインドーの開閉が可能な間は、運転席ウインドースイッチの“**AUTO**”の文字が点灯しています。

■ 助手席/後席ウインドーの開閉

ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウィンドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウィンドーに一定以上の負荷がかかると、ウィンドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠ 警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行ってください。

⚠ 注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。また、閉まり切る直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

🔧 アドバイス

- ウィンドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウィンドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウィンドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウィンドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ はさみ込み防止機構の初期設定のしかた

バッテリー端子やヒューズ（7-17 ページ参照）を外すなどして、パワーウィンドーシステムへの電源供給を一度絶ってしまうと、運転席ウィンドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまうです。

この場合、次の手順ではさみ込み防止機構の初期設定を行ってください。また、運転席ウィンドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、同様に初期設定を行ってください。

- 1 エンジンを始動します。
- 2 運転席ウィンドースイッチを押し続け、ウィンドーを完全に開けます。
- 3 運転席ウィンドースイッチを引き上げ続け、ウィンドーを完全に閉めます。
- 4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。
- 5 運転席ウィンドーが自動開閉できるようになったか確認します。

⚠ 警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

- 手順①～④を何度繰り返しても運転席ウィンドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

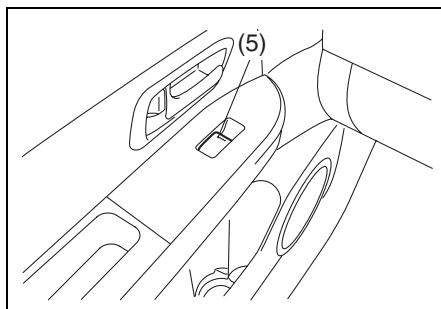
助手席、後席での開閉

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

→ 3-18ページ

(ウインドーロックスイッチ)



65J4006

(5) 助手席／後席ウインドースイッチ
(※)

※イラストは助手席ドアを代表しています

アドバイス

ウインドーロックスイッチが **ロック** 位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

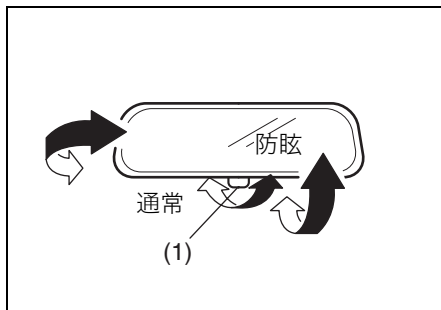
ミラー全体を動かして角度を調節します。

警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

防眩式ルームミラー

通常はレバー (1) を車の前方向に押した状態で使用し、角度の調節もこの位置で行ないます。後続車のライトがまぶしいときは、レバーを手前に引くとライトの反射が弱まります。



71L30250

(1) レバー

ドアミラー

ドアミラーの鏡面には親水機能があります。

→ 6-4ページ

(親水機能付きドアミラーの手入れ)

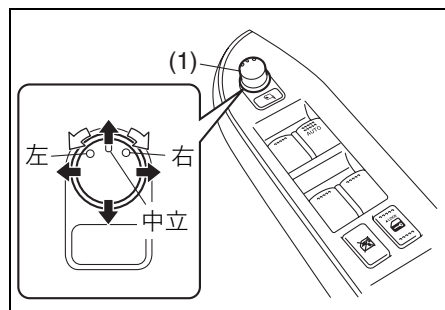
角度の調節

■ ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに使用できます。

1 角度調節スイッチ (1) を、調節したいミラーの側へまわします。

2 角度調節スイッチを押して、上下左右にミラーを動かします。



⚠ 警告

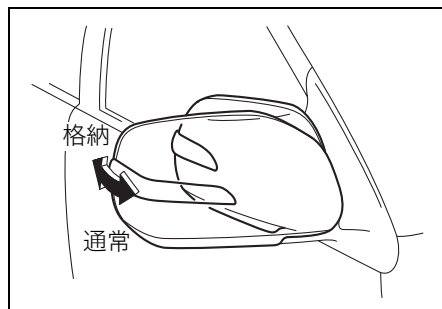
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

📌 アドバイス

調節後は、角度調節スイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に倒すことができます。



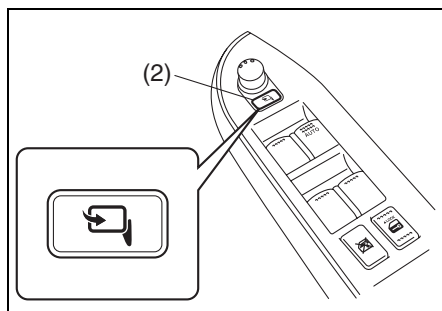
⚠ 注意

- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
- ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人や物に当たらないように気をつけてください。

■ ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに使用できます。

- 格納スイッチ (2) を押すことに、格納と通常の位置に切り替わります。



65J127

格納スイッチの状態

通常



格納



80J1023

⚠ 注意

- 動いているドアミラーに触れないでください。手などをはさんでけがのおそれがあります。また、ドアミラー故障の原因となります。
- 格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常的位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。その場合は、スイッチを通常的位置に押し、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** の位置にあるときは、手でドアミラーを操作しないでください。ドアミラー故障の原因となります。

🔊 アドバイス

- ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。
- 格納スイッチが通常的位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

3

ドアミラーヒータースイッチ

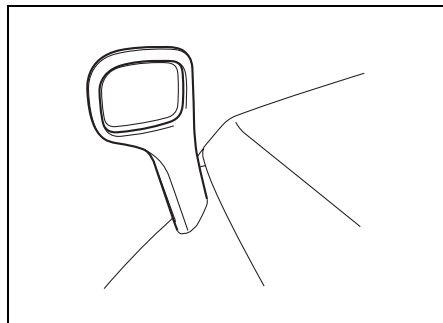
ドアミラーヒーターは、リヤデフォグと連動します。

→ 3-84ページ

(リヤデフォグスイッチ)

サイドアンダーミラー

停車時およびごく低速時に、車両左側助手席付近を確認するときに使用します。



65J128

⚠ 注意

- 後方の確認は、ドアミラーまたはルームミラーで行なってください。
- ミラーだけにたよらず車からおりて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。

🔧 アドバイス

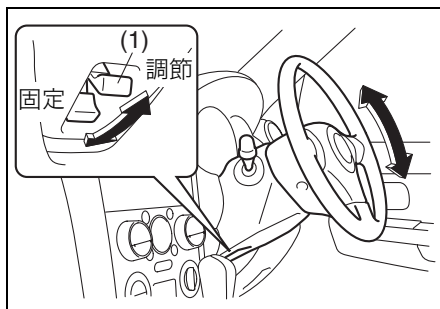
サイドアンダーミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

チルトステアリング

ハンドルの高さ調節

→ 2-9ページ (ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に)

- 1 ハンドルの固定を解除します。
 - 片手でハンドルをささえながら、ハンドル下のレバー (1) を手前に引きます。
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置に調節します。
- 3 調節後は、ハンドルを固定します。
 - その位置でハンドルをおさえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



65J043

⚠ 注意

調節後はハンドルを上下にゆずって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

⚠ 注意

- シートを調節するときは、手足をばさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。
→ 2-9 ページ（ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に）
- シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすき間のないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。

ひじが軽く曲がりハンドル操作が楽に行なえる

背中を背もたれに軽くつける



ひざが伸びきらずペダル類を踏むときに余裕がある

シートに深くすわる

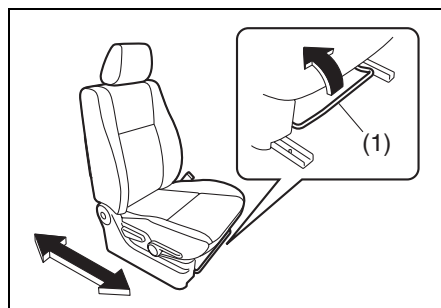
80J177

⚠ 警告

背もたれと背中の上にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

前後位置の調節

スライドレバー (1) を引き上げたまま、シートを前後に動かします。



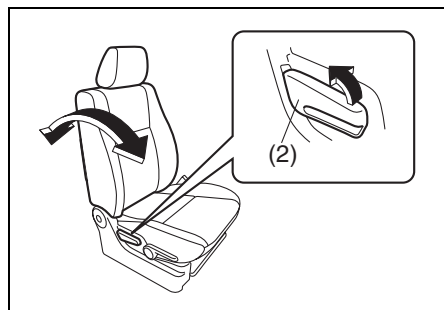
65J029

⚠ 警告

シートの下に物を置かないでください。物がはさまって、シートが固定されないおそれがあります。

背もたれの角度調節

- 後方へ倒すときは、リクライニングレバー (2) を引き上げたまま、背中であぐらを押します。
- 前方へ起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



65J030

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトやSRSエアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

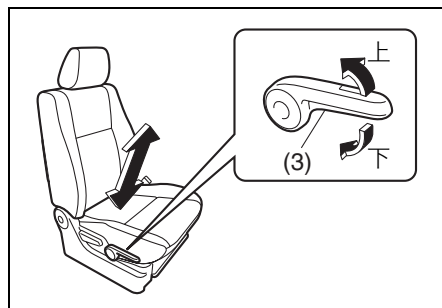
⚠ 注意

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方へ倒れることがあります。手などをそえて操作してください。

高さの調節 (運転席のみ)

運転席シート右横のレバー (3) をくりかえし操作します。

- レバーを引き上げると、シート全体が高くなるとともに前方へ動きます。
- レバーを押し下げると、シート全体が低くなるとともに後方へ動きます。



65J031

ヘッドレストの高さ調節と 取外し・取付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときには、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときには、ロックボタン (4) を押したままヘッドレストを押し下げます。

■ 取外しかた

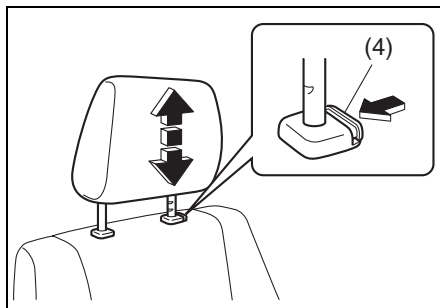
ロックボタン (4) を押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。



65J236

(4) ロックボタン

⚠ 警告

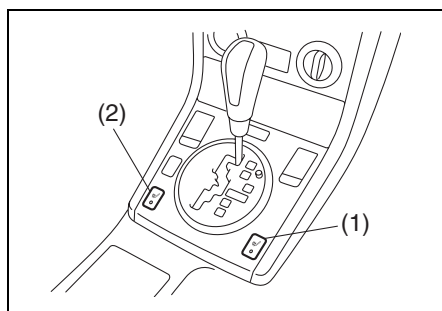
ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。

ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

運転席・助手席 シートヒータースイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

- スイッチを押すと、シート内にあるヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯が点灯します。
もう一度押すとヒーターが切れます。
- シートが適温になったら、スイッチを切ってください。



65J5012

- (1) 運転席シートヒータースイッチ
(2) 助手席シートヒータースイッチ

⚠ 注意

- 長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。
- 毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注 記

- シートの上に重い荷物を置いたり、針やくぎなどをシートに刺したりしないでください。
- シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。
→ 6-4ページ（内装のお手入れ）
- 水やジュースなどをこぼしたときは、すみやかに柔らかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。
- バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

⚠️ アドバイス

ヒーターには、自動的にスイッチが切れるタイマー機能がありません。また、スイッチを切らないと、エンジンスイッチを **ON** にするたびにヒーターが自動的に入ります。

後席シート

→ 5-29ページ（アームレスト）

⚠️ 注意

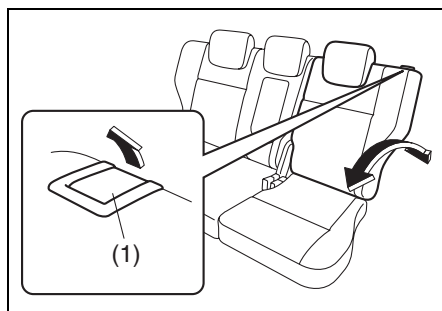
- シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないよう気をつけてください。
- シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

背もたれの角度調節

1 片方の手をクッションの端部にそえ、もう一方の手で背もたれ肩部のリクライニングレバー（1）をいっぱいに引き上げます。

- シートからおりて操作してください。シートにすわったままリクライニングレバーを引き上げると、背もたれが急に最大角度まで倒れこむことがあります。
- リクライニングレバーは、いっばいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

2 リクライニングレバー（1）を引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで倒します。



65J5013

- 3 リクライニングレバー (1) から手を離し、固定される位置まで背もたれを倒します。

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

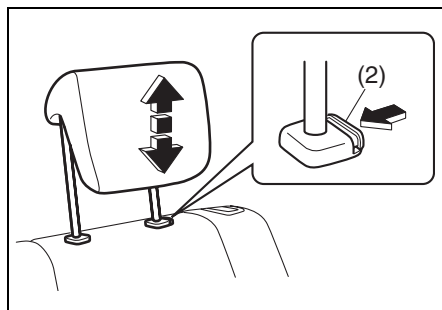
ヘッドレストの高さ調節と 取外し・取付け

■ 使用時の高さ調節

使用時の高さ調節は、前席シートと同じです。

3-26ページをお読みください。

使用時



65J5014

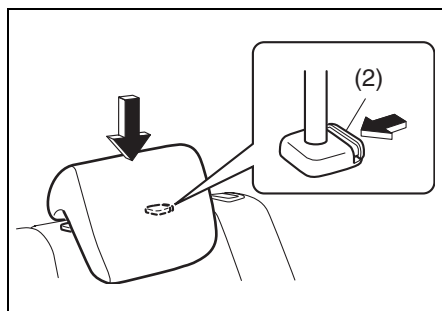
🔧 アドバイス

シート格納時の落下防止のため、ヘッドレストは収納時の位置でのロックが固まっています。収納時の位置からヘッドレストが持ち上がらない、または持ち上げにくい場合は、ロックボタンを押したままヘッドレストを持ち上げてください。

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタン (2) を押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。

収納時



65J5015

■ 取外しかた

ロックボタン (2) を押したまま引き抜きます。

⚠ 警告

ヘッドレストを外したまま、後席に人に乗せないでください。

⚠ 注意

取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取付けかた

3 ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠ 警告

- ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。
- お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX対応チャイルドシート
固定専用金具

後席の左右席には、ECE R44（※1）の基準に適合したISOFIX（※2）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれの間にある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれの裏側下方にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ECE R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。

※2 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※3）】の規格です。

※3 ISOとは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

＜スズキ純正用品の場合＞

	ISOFIX アンカー	テザー アンカー
ISOFIXタイプの ベビーシート （後ろ向きに固定）	○ （使用）	○ （使用）
ISOFIXタイプの チャイルドシート （前向きに固定）	○ （使用）	○ （使用）

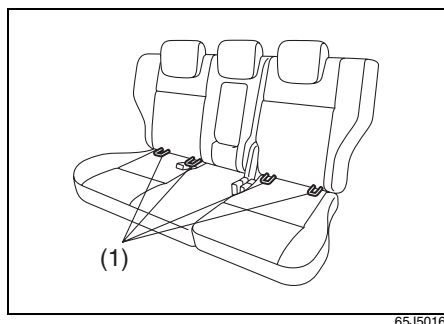
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
→ 3-43 ページ（お子さま用シートの選択について）

- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要があります。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-41**ページの「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

- 1** ラゲッジシェルフを外します。
→ **5-30**ページ
(ラゲッジシェルフ)

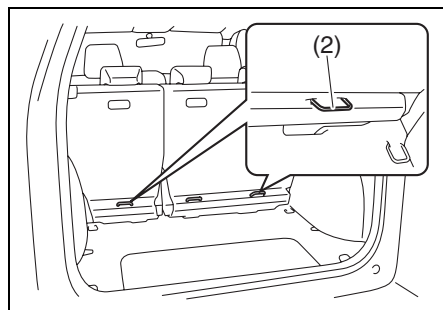
- 2** ISOFIX アンカー (1) の位置を確認します。
- 座面と背もたれのすき間にあります。



65J5016

(1) ISOFIXアンカー

- 3** テザーアンカー (2) の位置を確認します。
- 背もたれの裏側下方にあります。



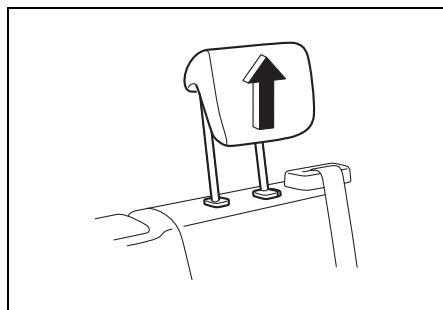
65J5055

(2) テザーアンカー

⚠ アドバイス

背もたれ裏側中央のテザーアンカーは使用しません。

- 4** 後席のヘッドレストは、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ **3-29** ページ (ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け)



65J5051

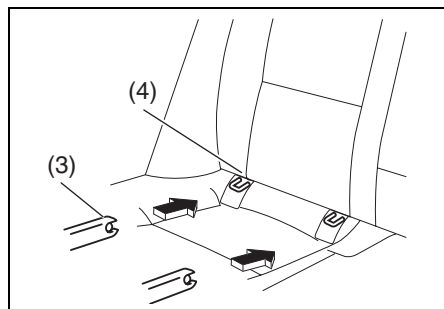
⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 5 お子さま用シートを後ろ向きに取り付けるときは、お子さま用シートと前席が干渉しないように、前席を前方へスライドさせます。(3-47ページ参照)

- 6 座席が確実に固定されているか確認します。

- 7 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクター (3) を ISOFIX アンカー (4) へ差し込みます。



65J5052

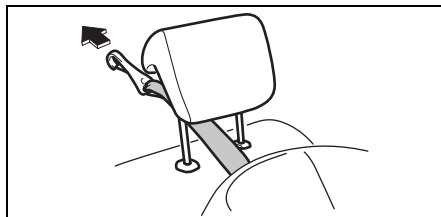
- (3) コネクター (4) ISOFIXアンカー

- 上図の後席は代表例です。お車のタイプにより異なります。

- 8 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

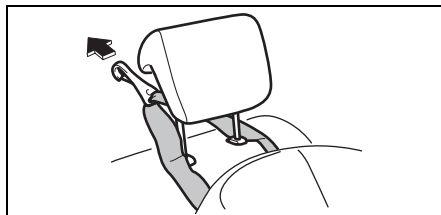
- ヘッドレストを取り付けているときは、図(代表例)のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

テザーベルト1本の場合



65J5017

テザーベルト2本の場合



65J5018

- 9 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

- 10 ラゲッジシェルフをもとにもどします。

⚠ 警告

- お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺にシートベルトや異物などがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

後席シートの格納のしかた

後席シートを格納すると、荷室が広く使えます。

⚠ 警告

倒した背もたれの上や荷室に人を乗せしないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

⚠ 注意

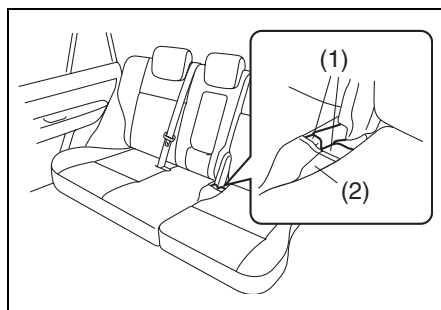
シートを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

注 記

格納前に、シートの下に物が落ちていないか確認してください。

■ 格納のしかた

- 1 ヘッドレストを一番低い位置へ調節します。
- 2 シートベルトのバックル (1) を左右シートの間にあるバックルポケット (2) に収納します。



65J5019

注 記

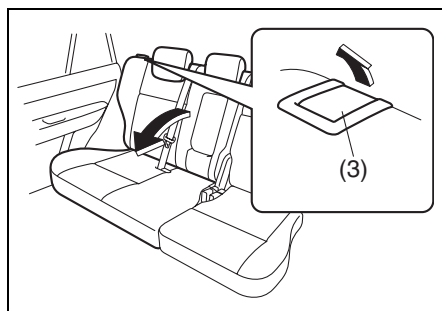
バックルはバックルポケットに収納してください。シートを動かすときに破損するおそれがあります。

- 3 片方の手を背もたれにそえ、もう一方の手で背もたれ肩部のリクライニングレバー (3) をいっぱいに引き上げます。

- リクライニングレバーはいっぱいに引き上げてください。ロックが解除されないうちに背もたれを倒そうとすると、レバーの動きが重くなります。

- 4 リクライニングレバー (3) を引き上げたまま、背もたれを前方へ倒します。

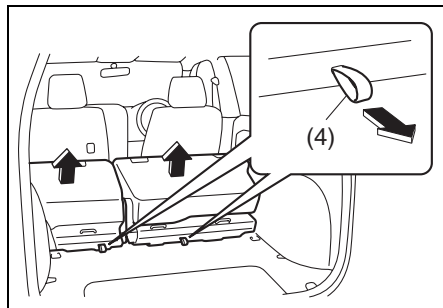
- 後席のヘッドレストが前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。



65J5020

- 5 ラゲッジシェルフを外します。
→ **5-30ページ**
(ラゲッジシェルフ)

- 6 シートの裏側にあるストラップ (4) を引きます。シートのロックが解除され、シートが浮き上がります。



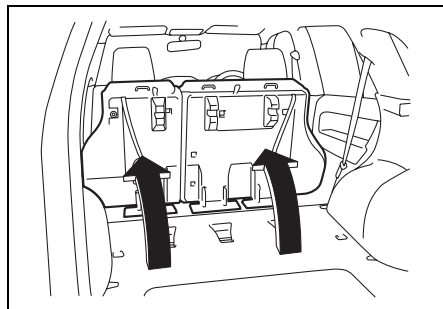
65J121

▲ 注意

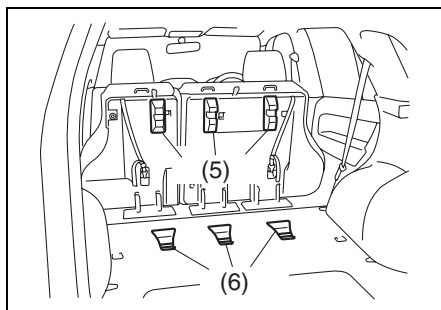
- 荷物の固定などに、ストラップを使わないでください。走行中に突然シートのロックが外れ、思わぬけがのおそれがあります。
- ストラップを引くときに、シートに手や頭など近づけないでください。シートが浮き上がるときに、けがをするおそれがあります。

- 7 シートを前方へ起こします。

- 後席シートが前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。



65J123



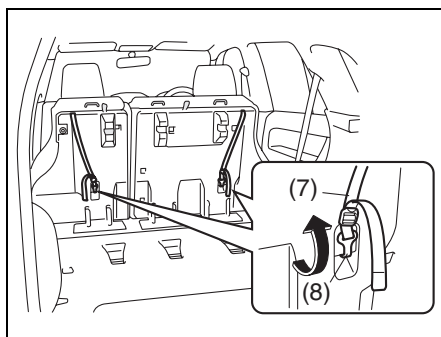
65J124

- (5) ロック部品
(6) シート固定用フック

▲ 注意

- シート裏のロック部品に指などを入れないでください。けがのおそれがあります。
- 荷物の固定などに、シート裏のロック部品やシート固定用フックを使わないでください。また、ロック部品やフックに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりフックが曲がったりして、シートが固定できなくなるおそれがあります。

- 8 シート裏側に格納されている固定用ベルトを取り外します。



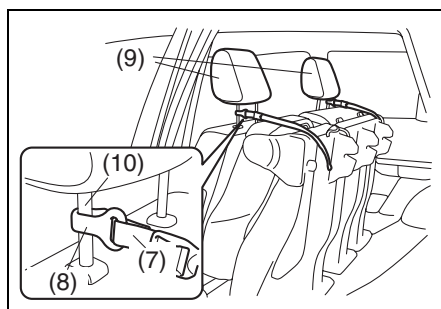
65J040

- (7) 固定用ベルト (8) フック

アドバイス

固定用ベルトのフックは、ベルトの長さを調節してゆるめると、取り外しやすくなります。

- 9 前席シートのヘッドレスト (9) を持ち上げ、固定用ベルトのフック (8) をヘッドレストの軸 (10) に引っかけます。
固定用ベルト (7) の長さを調節し、シートを固定します。



65J041

注記

- シートの固定以外に、固定用ベルトを使わないでください。ベルトが破損するおそれがあります。
- 固定用ベルトのフックが確実に引っかかるように、前席シートの位置やベルトの長さを調節してください。ベルトにゆるみがあると、走行中にシートが動き、荷室に収納した荷物などが傷つくおそれがあります。

■ もとにもどすときは

3-33 ページの「格納のしかた」と逆の手順で行ないます。

▲ 注意

- シートをもどす前に次のことを確認してください。シートが適切に固定できなくなり、けがにつながるおそれがあります。
 - 固定用ベルトは、もとの位置に格納してください。また、ベルトを格納したら、長さを調節してゆるみを取ってください。ベルトがシート裏のロック部にかみ込むと、ベルトやロック部品が損傷するおそれがあります。
 - シートをもどす場所に、物が落ちていないか確認してください。また、荷室床のシート固定用フックに砂などの異物が付着していたら取り除いてください。そのままシートをもどすと、シート裏のロック部品やフックが損傷するおそれがあります。
- シートをもどしたあとは、背もたれをゆすったり、座面を押したりして、シートが確実に固定されているか確認してください。固定が不確実な場合、走行中に突然シートのロックが外れ、思わぬけがのおそれがあります。

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトを着用するときは、次のことに注意してください。

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

→ 3-25ページ（正しい運転姿勢）

シートを調節し、上体を
起こして奥深くすわる

肩の中央にかけ、
たるみ、ねじれを取る



腰のできるだけ低い位置にかけ、
たるみを取る

70K216

警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

お子さまもシートベルトを着用

→ 2-5ページ

（お子さまを乗せるときは）

警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

警告

- 妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。
- 妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。

→ 3-65ページ

(シートベルト警告灯)

⚠️ アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** にするまで消灯しません。

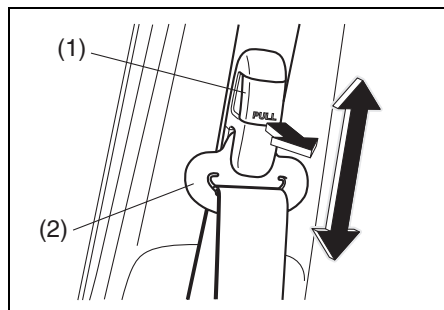
シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

肩ベルトの高さ調節 (前席のみ)

身体の高さにあわせて、ショルダアンカー (2) の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバー (1) を引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。

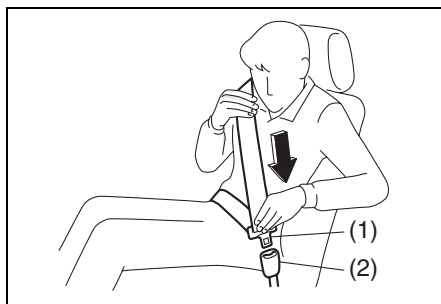


80J1146

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

- 1 タングプレート (1) とシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。



80J1148

ゆっくり引き出す

ねじれのないことを確認する



80J1147

⚠️ アドバイス

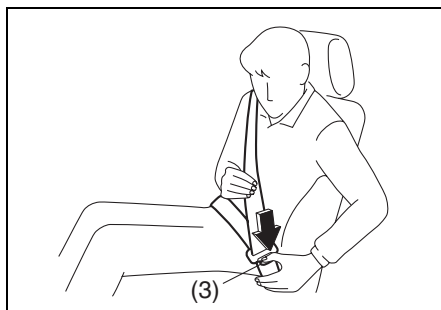
ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

- 2 タングプレート (1) をバックル (2) の差し込み口にまっすぐになるように合わせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。

- 3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。
- 5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタン (3) を押します。シートベルトが自動的に巻きもとされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



65J294

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

シートベルトを正しく着用する

警告

- シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが肩にしっかりとかかっていると、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。
- アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。ベルトは、アームレストの下をとおしてください。



65J4007

シートベルトの 取扱いとお手入れ

取扱い

警告

- シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。
- バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。
- バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。
- ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ 6-5ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）

警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー (前席のみ)

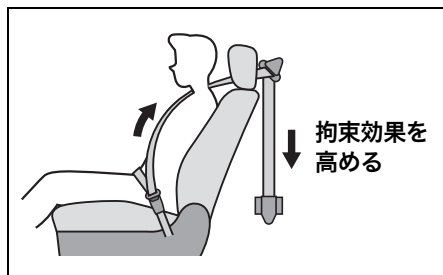
シートベルトプリテンショナー とは

エンジンスイッチが **[ON]** のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席 SRS エアバッグシステムと連動しています。

→ 3-55ページ

(SRSエアバッグシステムの作動)



80J1018

▲ 注意

プリテンショナーが一度でも作動すると、ベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。スズキサービス工場で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ 2-30 ページ (部品の取付け、取外し、修理をするときは)

SRSエアバッグ警告灯



80J111

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRS エアバッグの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。

→ 3-64ページ

(警告灯・表示灯の見かた)

廃棄や廃車

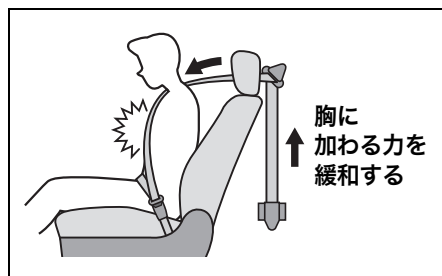
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

▲ 注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

シートベルトフォースリミッター（前席のみ）

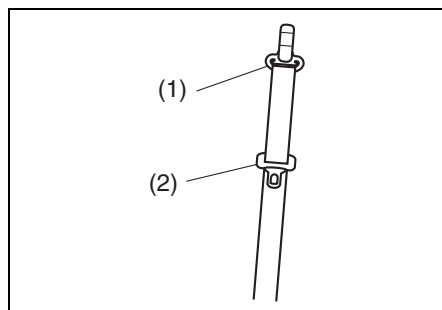
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルトフォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部（1）およびタングプレート部（2）の樹脂が強いままさつで溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。スズキサービス工場で交換してください。



82K179

お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。

→ **3-43 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-30 ページの「ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具」**をお読みください。

⚠ 警告

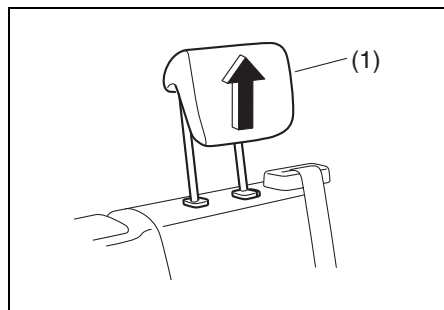
助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

固定のしかた

- 1 ヘッドレスト (1) は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ 3-29 ページ (ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け)

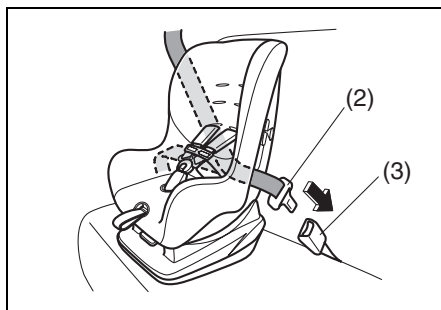


65J5021

⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

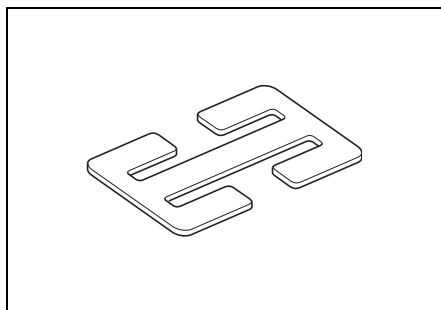
- 2 お子さま用シートと背もたれの間にすき間ができないように背もたれの角度を調節します。
- 3 座席が確実に固定されているか確認します。
- 4 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。
- 5 カチッと音がするまで、タングプレート (2) をバックル (3) にしっかりと差し込みます。



65J285

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

- 6 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロックングクリップもそなわっていない場合は、別売りのロックングクリップを使用してしっかりと固定します。



57L30152

- 上図のロックングクリップ (別売り) は代表例です。

⚠ 警告

シートベルト固定機構またはロックングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

7 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

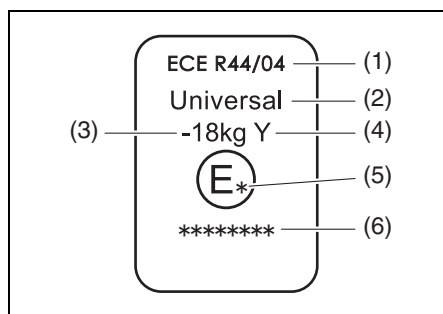
お子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。

- 2-5 ページの「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。
→ 3-30 ページ（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具）

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

ECE R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1022

- (1) 法規番号
- (2) お子さま用シートのカテゴリー（※2）
- (3) 対象となるお子さまの体重範囲
- (4) 装置の仕様
- (5) お子さま用シートを認可した国番号
- (6) お子さま用シートの認可番号

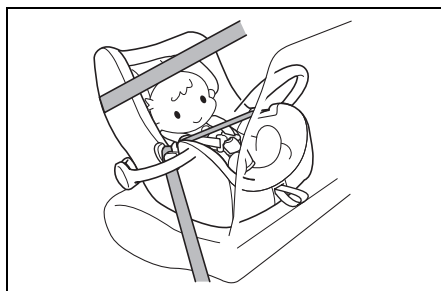
- 上図の認証マークは代表例です。

運転する前に/シートベルト

- ※1 ECE R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
- ※2 前図の「Universal」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、ECE R44 の基準に適合しています。



64L30810

チャイルドシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループⅠに相当します。



64L30820

ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。



64L30830

ECE R44 の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ 3-46ページ (ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表)

■ 質量グループについて

- ECE R44 の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ0、0+に相当します。

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (ISO/F2とは別形状)
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。

詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置		
	助手席	後席外側	後席中央
グループ0 (10kgまで)	X	U	U
グループ0+ (13kgまで)	X	U	U
グループⅠ (9～18kg)	X	U	U
グループⅡ (15～25kg)	X	UF	UF
グループⅢ (22～36kg)	X	UF	UF

<上表に記入する文字の説明>

- U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリのお子さま用シートに適しています。
- UF ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きお子さま用シートに適しています。
- X ：お子さま用シートの取付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-41 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。
- ISOFIX タイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次ページの「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定**」をお読みください。

 アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置		
			助手席	後席外側	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X	N.A.
	G	ISO/L2	N.A.	X	N.A.
グループ0（10kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL	N.A.
グループ0+（13kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL	N.A.
	D	ISO/R2	N.A.	IL	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	IL注1)	N.A.
グループⅠ（9～18kg）	D	ISO/R2	N.A.	IL	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	IL注1)	N.A.
	B	ISO/F2	N.A.	IUF	N.A.
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF	N.A.
	A	ISO/F3	N.A.	IUF	N.A.
グループⅡ（15～25kg）			N.A.	X	N.A.
グループⅢ（22～36kg）			N.A.	X	N.A.

<上表に記入する文字の説明>

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。

IL：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「スズキ純正ベビーシート」に適しています。

X：ISOFIX対応お子さま用シートの取付けには適していません。

N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIXタイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

注1) お子さま用シートと前席が干渉しないように前席をスライドさせ、最前端から7ノッチ分の約105 mmまでの間に調節します。

→ **3-25ページ（前後位置の調節）**

- チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-30ページの「ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具」**をお読みください。

🔧 アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

SRSエアバッグ車を 運転するときは

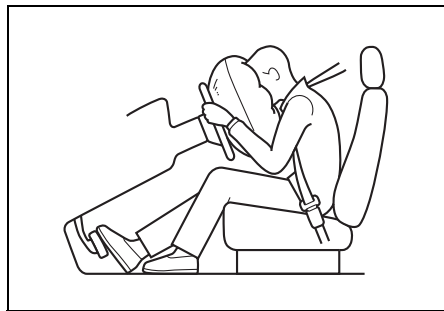
SRSエアバッグシステムとは

SRSとはSupplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席 SRS エアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。



80J090

- シートベルトは必ず着用してください。
→ **3-38ページ**
(シートベルトの着用のしかた)

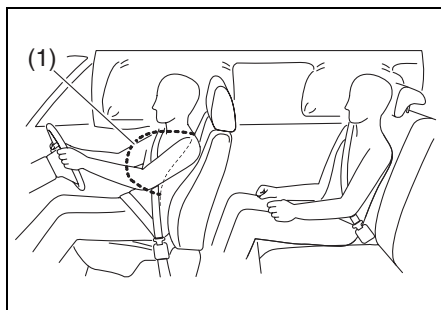
■ SRSサイドエアバッグシステム

タイプ別装備

エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席乗員の胸部などが衝突するようなときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）の SRS サイドエアバッグが SRS カーテンエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS サイドエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS サイドエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席乗員の主に胸部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→ **3-38ページ**
(シートベルトの着用のしかた)



71L30480

(1) SRS サイドエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを表しています。

■ SRSカーテンエアバッグシステム

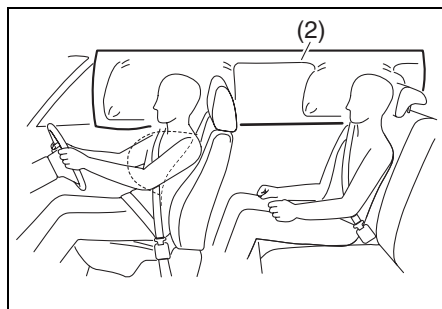
タイプ別装備

エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の側面（前席乗員付近）に横方向から強い衝撃を受けて、ドアと前席および後席外側乗員の頭部などが衝突するようになるときに、衝撃を受けた側（運転席側または助手席側）のSRSカーテンエアバッグがSRSサイドエアバッグと連動して瞬時にふくらむ構造となっています。

- SRS カーテンエアバッグシステムは、ふくらんだSRSカーテンエアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した前席および後席外側乗員の主に頭部にかかる衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。

→ 3-38ページ

（シートベルトの着用のしかた）



71L30490

(2) SRSカーテンエアバッグ

- 上図は、運転席側が作動したときを代表しています。

⚠ 警告

- SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRSエアバッグの効果が十分発揮できません。



51K0007

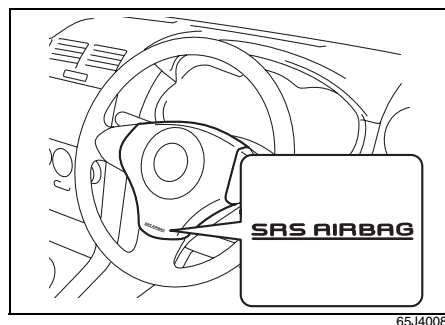
📌 アドバイス

- 助手席 SRS エアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。
- SRS サイド／カーテンエアバッグ装備車の場合、乗員の有無に関係なく、衝撃を受けた側の SRS サイド／カーテンエアバッグがふくらみます。

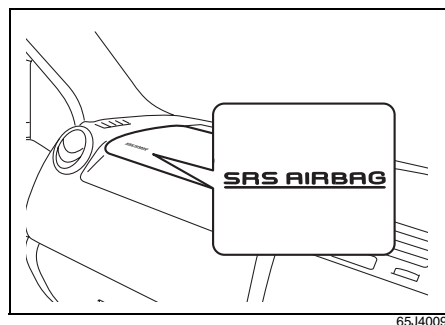
表示と収納場所

“SRS AIRBAG” の表示がある付近に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



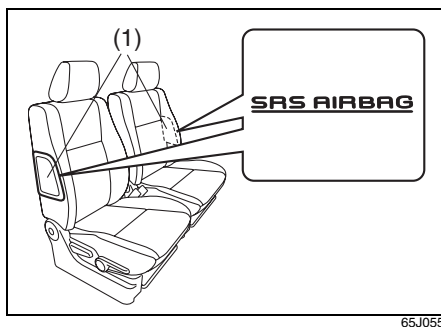
■ 助手席SRSエアバッグ



■ SRSサイドエアバッグ

タイプ別装備

前席背もたれのドア側に収納されています。前席シートには、図のような表示がっています。

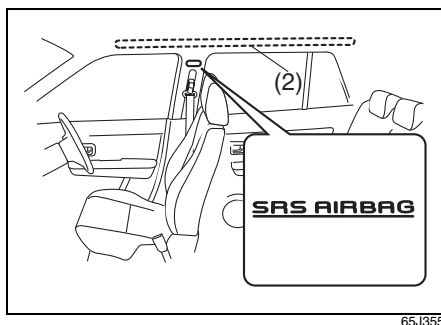


(1) SRSサイドエアバッグ

■ SRSカーテンエアバッグ

タイプ別装備

運転席側および助手席側のルーフサイドに収納されています。また、ピラーには図（運転席側を代表）のような表示がっています。



(2) SRSカーテンエアバッグ

⚠ 警告

- エアバッグの収納部分に傷がついたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。また、前席ドアを窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

着座姿勢

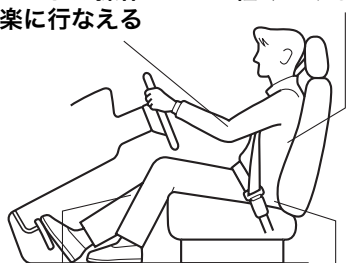
運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方へ出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。

とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方へ移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。

→ 3-25ページ (正しい運転姿勢)

ひじが軽く曲がりハンドル操作が楽に行なえる

背中を背もたれに軽くつける



ひざが伸びきらずペダル類を踏むときに余裕がある

シートに深くすわる

80J177

⚠ 警告

SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）が作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。窓から手を出したり、ドアにもたれかかったりしないでください。また、後席に乗るときは、前席の背もたれを抱えないでください。とくにお子さまには注意してください。



80J061



80J062

お子さま用シートの取付け

- 2-6 ページ (お子さま用シートの使用について)
- 3-41 ページ (お子さま用シートのシートベルトによる固定)
- 3-43 ページ (お子さま用シートの選択 について)

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲に物があると、物が飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

⚠ 警告

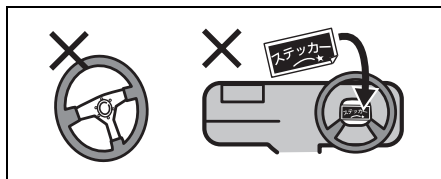
- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
- 車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。

- SRS エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRS エアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
 - ・ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
 - ・インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
 - ・オーディオ用品などの取付け
 - ・ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
 - ・前席シートの交換およびシートまわりの修理
 - ・フロントピラー、バックピラーおよびルーフサイドまわりの修理
 - ・センターピラーまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。万一のときにSRSエアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。

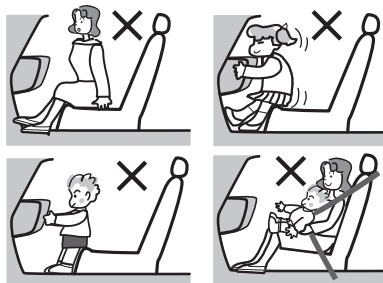


80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- インパネの SRS エアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。

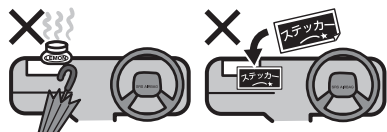


80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

⚠ 警告

- インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



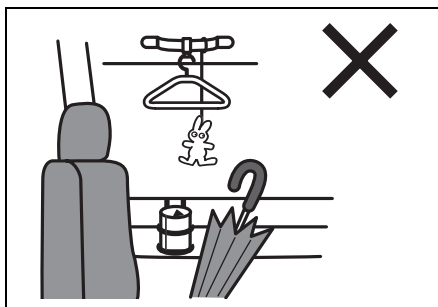
80J096

- フロントガラスやルームミラーにアクセサリ（スズキ純正用品を除く）などを取り付けしないでください。

■ SRS サイド／カーテンエアバッグ（タイプ別装備）について

⚠ 警告

- 前席にシートカバーを取り付けるときは、SRS サイドエアバッグ装備車専用のスズキ純正シートカバーを使用し、付属の取扱説明書をよくお読みください。正しい向きと位置に取り付けしないと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、純正の専用品以外の物を使用すると、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなる原因となります。
- ドア付近にカップホルダーやハンガーなどのアクセサリ用品を取り付けたり、傘などを立てかけたりしないでください。また、後席アシストグリップについているコートフックに服をかけるときは、ハンガーを使わずに直接服をかけてください。SRS サイド／カーテンエアバッグが作動したときに、これらの物が飛散したり正常にふくらまなくなったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。



65J268

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

注意

エアバッグが作動すると大きな音が生じ、白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。

ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

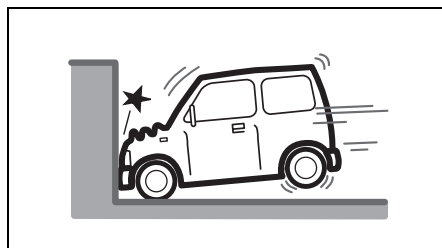
アドバイス

エアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

こんなとき作動します

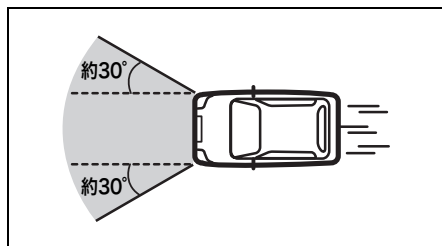
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約 30° 以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき

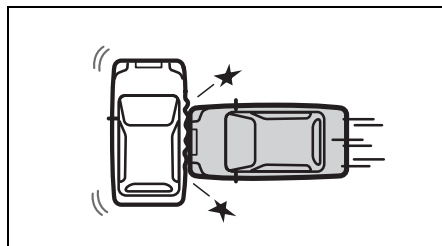


80J098

■ SRSサイド／カーテンエアバッグ

タイプ別装備

自車と同等の車が約25km/h以上の速度で横方向から客室部に衝突したとき、またはそれと同等以上の衝撃を受けたとき



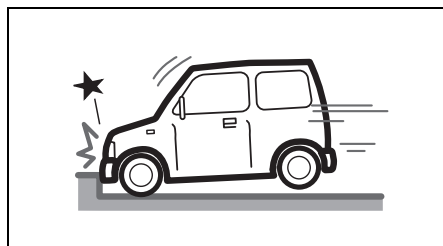
80J119

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

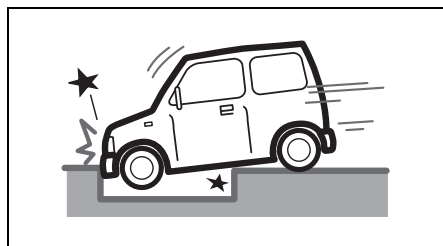
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



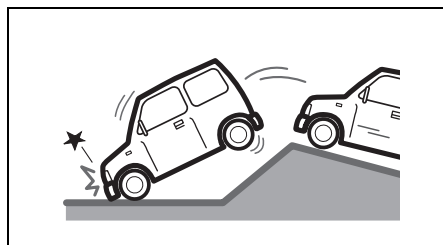
80J099

- 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



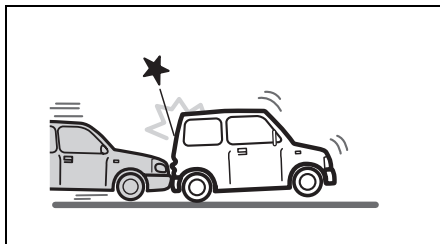
80J101

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

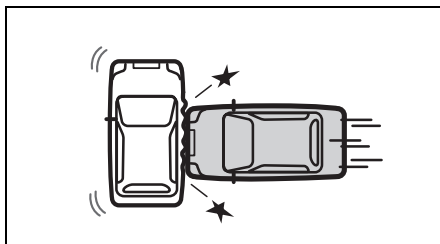
後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

- 後方からの衝突



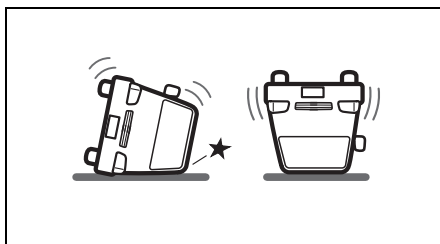
80J120

- 横方向からの衝突



80J119

- 横転や転覆をしたとき

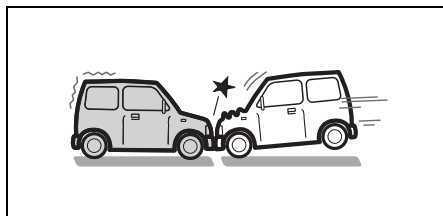


80J110

■ SRSサイド／カーテン エアバッグ

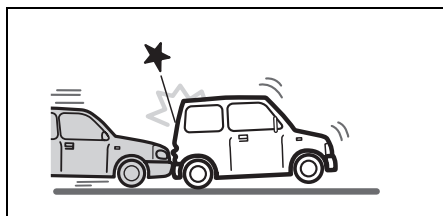
タイプ別装備

- 前方からの衝突



80J102

- 後方からの衝突



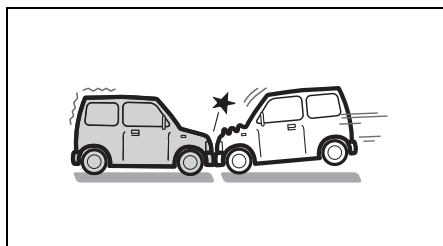
80J120

こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

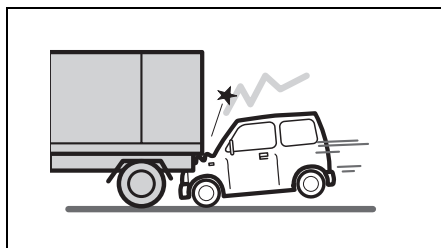
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約 30° を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、 50km/h 程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



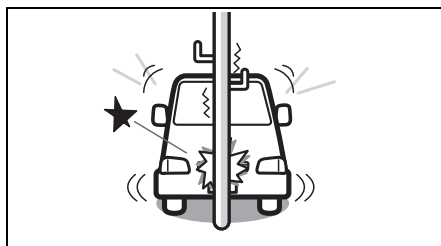
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



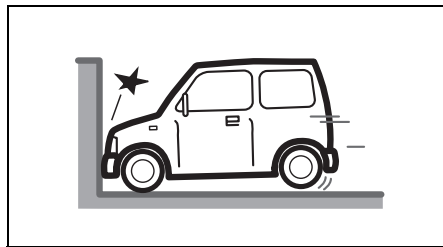
80J104

- 前方約 30° を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



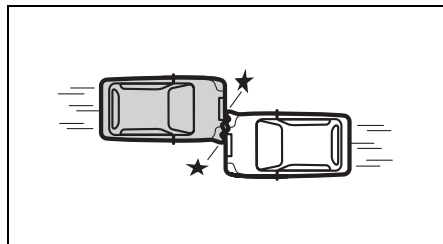
80J105

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約 25km/h 以下のとき



80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）

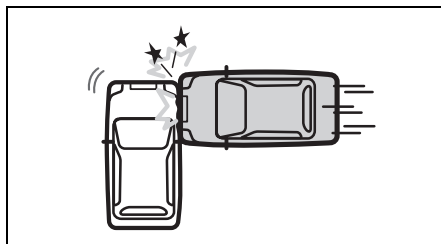


80J107

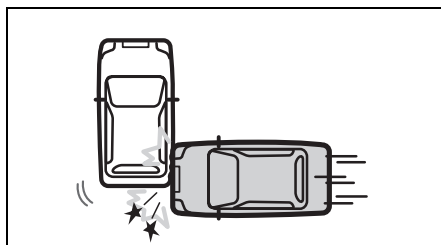
■ SRSサイド／カーテンエアバッグ

タイプ別装備

- 客室部以外（エンジンルームや荷室部）に側面から衝突されたとき

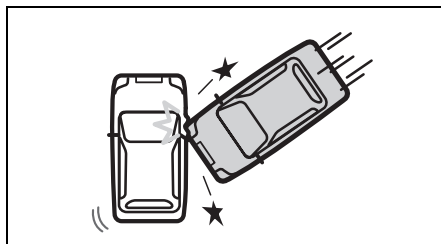


80J121



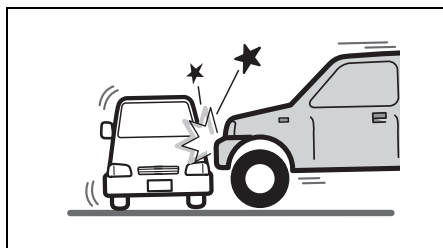
80J122

- 側面の斜め方向から衝突されたとき



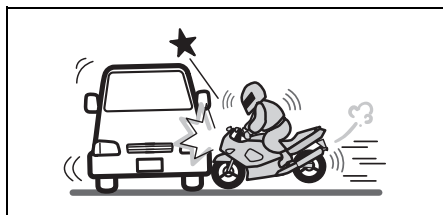
80J123

- 車高の高い車に側面から衝突されたとき



80J124

- 二輪車に側面から衝突されたとき



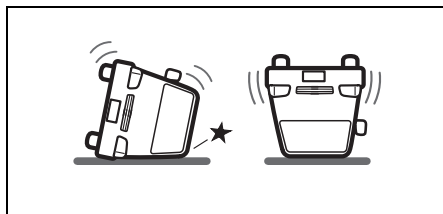
80J125

- 電柱、立ち木などに衝突したとき



80J126

- 横転または転覆したとき



80J110

SRSエアバッグ警告灯



80J111

メーターパネル内にあります。

- SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)

3

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。



80J112

▲ 注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー (EDR) とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー(EDR) システムを備えています。

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

EDRデータの開示について

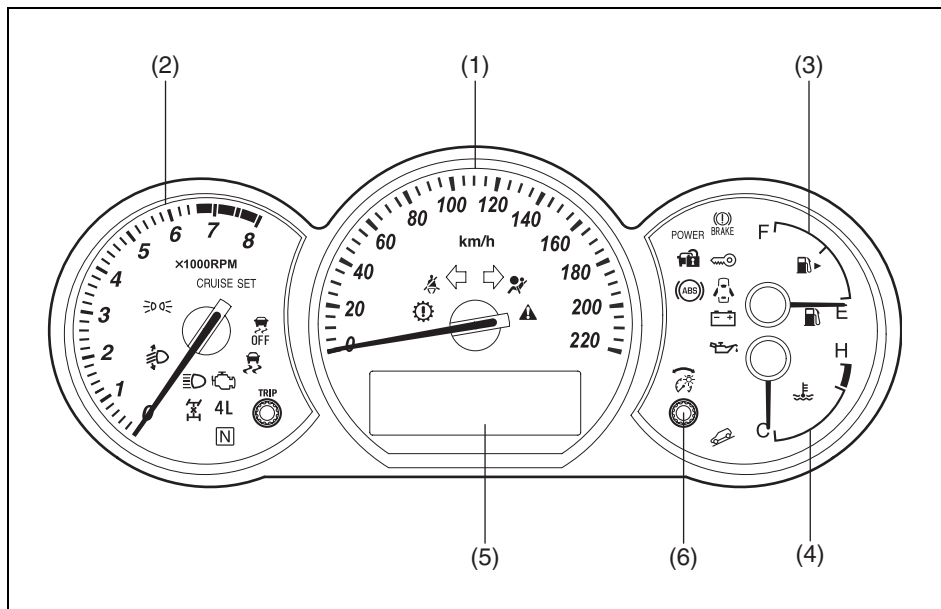
スズキおよびスズキが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65J4010

- (1) スピードメーター(速度計)
- (2) タコメーター(エンジン回転計)
- (3) 燃料計
- (4) 水温計
- (5) インフォメーションディスプレイ
→ 3-71ページ(インフォメーションディスプレイ)
- (6) 表示切替えノブ

(1) スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

(2) タコメーター (エンジン回転計)

1分間あたりのエンジン回転速度(回転数)が示されます。

注 記

- エンジン保護のため、指針がレッドゾーン(※)に入らないように運転してください。
※ エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲
- シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。
→ 4-10ページ
(シフトダウンの上限速度)

(3)燃料計

エンジンスイッチが **[ON]** のとき、燃料残量の目安が示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
→ **3-66ページ（燃料残量警告灯）**

🔧 アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを **[ON]** にしてから指針が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- 🛢 の左にある ▶ 印は、給油口（フューエルリッド）が運転席側の車両後方にあることを示します。

(4)水温計

エンジンスイッチが **[ON]** のときに、エンジン冷却水の温度が示されます。

注 記

指針が **[H]** 側に近づいたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

→ **7-29ページ（オーバーヒートしたときは）**

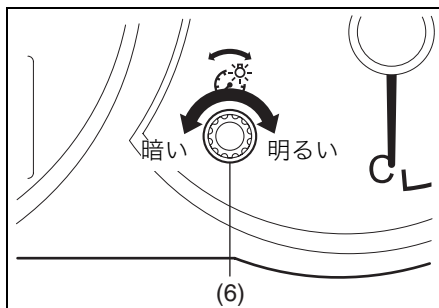
メーターの照明

エンジンスイッチを **[ON]** にすると点灯し、**[ACC]** または **[LOCK]** にすると消灯します。

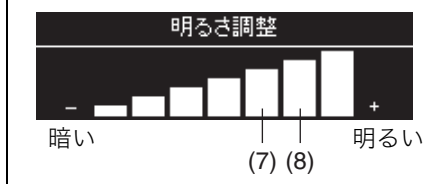
■ メーターの明るさ調整

ライト点灯時と消灯時のそれぞれで7段階に調整できます。

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、メーターの右側にある表示切替えノブ（6）を左右にまわします。調整の状態は、インフォメーションディスプレイに表示されます。
- 連続して調整するときは、ノブをまわしたままにします。



インフォメーションディスプレイの表示



(7) ライト点灯時の初期状態

(8) ライト消灯時の初期状態

⚠ 警告

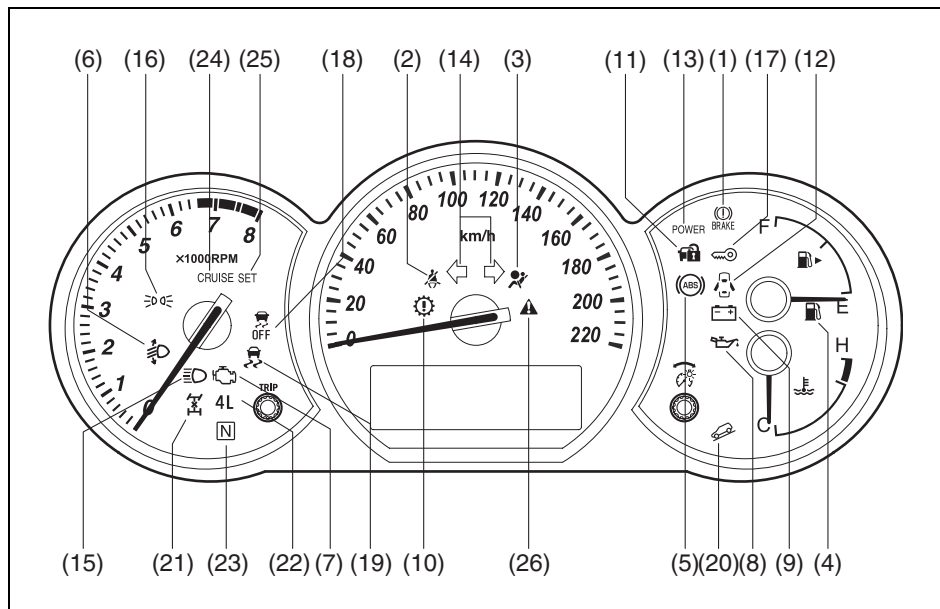
走行中は明るさ調整をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠️アドバイス

- 調整中に、表示切替えノブを 5 秒以上まわさないでいると、インフォメーションディスプレイはもとの表示にもどります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調整をやり直す必要があります。

警告灯・表示灯の見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



65J4011

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| (1) ブレーキ警告灯(※) | (15) ヘッドライト上向き表示灯 |
| (2) シートベルト警告灯 | (16) ライト点灯表示灯 |
| (3) SRSエアバッグ警告灯(※) | (17) キーレススタート表示灯 |
| (4) 燃料残量警告灯 | (18) ESP® OFF表示灯(※) |
| (5) ABS警告灯(※) | (19) ESP®作動表示灯(※) |
| (6) オートレベリング警告灯(※) | (20) ヒルディセントコントロール表示灯(※) |
| (7) エンジン警告灯(※) | (21) デフロック表示灯(※) |
| (8) 油圧警告灯(※) | (22) 4L表示灯(※) |
| (9) 充電警告灯(※) | (23) ニュートラル表示灯(※) |
| (10) AT警告灯(※) | (24) CRUISE表示灯 |
| (11) イモビライザー警告灯(※) | (25) SET表示灯 |
| (12) 半ドア警告灯 | (26) マスターウォーニング(※) |
| (13) POWER表示灯(※) | |
| (14) 方向指示器表示灯 | |

※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに初期点灯（点滅）するのが正常です。点灯（点滅）しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚡️アドバイス

警告灯（表示灯）が点灯すると、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ **3-76 ページ（インフォメーションディスプレイのメッセージ）**

(1) ブレーキ警告灯



80J220

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。
 - ブレーキ液が不足している
 - パーキングブレーキをかけている
 - ブレーキのシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠️ 警告

- 次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
 - パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

- ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したままのとき。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

(2) シートベルト警告灯



80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。

また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚡️アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約 95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを **[ACC]** または **[LOCK]** にするまで消灯しません。

(3) SRSエアバッグ警告灯



80J111

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約6秒間点滅したあと消灯します。

⚠ 警告

次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- 運転中に点灯
- エンジンスイッチを **ON** にしても点滅しない
- エンジンスイッチを **ON** にしたあと、約6秒間たっても消灯しない

(4) 燃料残量警告灯



80J225

燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。すみやかに給油してください。

→ 3-62ページ (燃料計)

ℳ アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

(5) ABS警告灯



80J127

ABS (アンチロックブレーキシステム) の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ABS に異常が発生しているだけでなく、ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。

ℳ アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

(6) オートレベリング警告灯

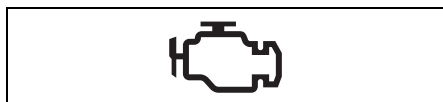


80J217

ディスチャージヘッドライト装備車で、オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。再びエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

(7) エンジン警告灯



80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。

- 枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する
- やむをえず走行する場合はアクセルペダルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する

(8) 油圧警告灯



80J223

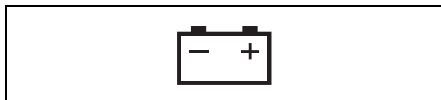
エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「メンテナンスノート」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けしないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

(9)充電警告灯



80J226

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

(10)AT警告灯

オートマチック車



80J219

AT（オートマチックトランスミッション）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。スズキサービス工場点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **[ON]** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

(11)イモビライザー警告灯



80J218

→ 4-6ページ
(イモビライザーシステム)

(12)半ドア警告灯



80J1273

いずれかのドアが完全に閉まっていないと点灯します。

⚠ 警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

🔑 アドバイス

バッテリー保護のため、次の条件をすべて満たすと、自動的に消灯します。

(バッテリーセーバー機能)

- エンジンスイッチが **[LOCK]** の位置で、キーを差していない
- 点灯したまま15分が経過

(13)POWER表示灯

オートマチック車



65J131

→ 4-13ページ
(走行モードの切替え操作)

(14)方向指示器表示灯



80J211

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

→ 7-22ページ
(電球を交換するときは)

(15)ヘッドライト上向き (ハイビーム)表示灯



80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

(16)ライト点灯表示灯



65J132

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

(17)キーレススタート表示灯



64L30690

→ 4-3ページ
(キーレススタートシステム)

(18)ESP® OFF表示灯

ESP®装備車



57L30045

→ 4-36ページ
(ESP®装備車の取扱い)
→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

(19)ESP®作動表示灯

ESP®装備車



79K019

→ 4-36ページ
(ESP®装備車の取扱い)
→ 4-40ページ
(ヒルディセントコントロール)

(20) ヒルディセントコントロール表示灯

タイプ別装備



79K050

→ 4-40ページ
(ヒルディセントコントロール)

(21) デフロック表示灯



65J133

→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

(22) 4L表示灯



65J134

→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

(23) ニュートラル表示灯



65J135

→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

(24) CRUISE表示灯



52D113

→ 4-30ページ
(クルーズコントロール)

(25) SET表示灯



65D474

→ 4-30ページ
(クルーズコントロール)

(26) マスターウォーニング



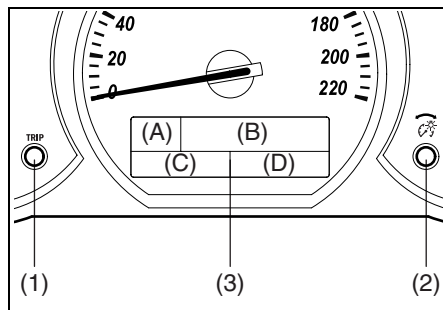
78K049

メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

→ 3-76 ページ (インフォメーションディスプレイのメッセージ)

インフォメーション ディスプレイ



65J288

- (1) トリップノブ
(2) 表示切替えノブ
(3) インフォメーションディスプレイ

- エンジンスイッチを **ON** にすると、インフォメーションディスプレイ (3) に少しの間、次のメッセージが表示されます。また、そのあと各表示位置に、次のいずれかが表示されます。

SYSTEM CHECK

79K063

表示位置	表示される内容
(A)	オートマチック車 ●セレクトレバー位置 → 3-71ページ
(B)	●メッセージ → 3-76ページ ●燃費、航続可能距離、平均車速 → 3-72ページ
(C)	●時計 → 3-73ページ
(D)	●オド/トリップメーター、外気温 → 3-73ページ

⚠️ アドバイス

メッセージの種類によっては、エンジンスイッチが **ACC** または **LOCK** のときでも表示される場合があります。

セレクトレバー位置表示

オートマチック車

エンジンスイッチが **ON** のときに、表示位置 (A) に表示されます。

→ 4-11 ページ (セレクトレバーの各位置のはたらき)



65J4012

- (4) セレクトレバー位置表示

燃費、航続可能距離、平均車速

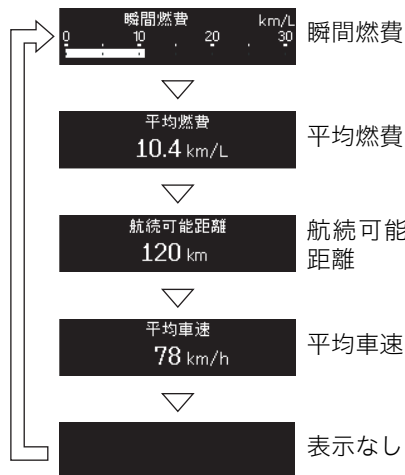
メッセージがない場合は、エンジンスイッチが **ON** のときに、表示位置 (B) に次のいずれかが表示されます。

- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- 表示なし

表示切替えノブ (2) を押すごとに、次のように表示が切り替わります。

- 表示される燃費や航続可能距離は目安です。実際とは異なる場合があります。

図の値は表示例です



65J382

⚠ 警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📌 アドバイス

- 表示は、ノブを離したときに切り替わります。
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。

→ **3-67ページ (エンジン警告灯)**

■ 瞬間燃費

走行中の瞬間燃費が表示されます。

📌 アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は30です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。

■ 平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

- リセット方法は、セッティングモードで次の3つから選択できます。

→ **3-75ページ (セッティングモード)**

📌 アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

⚠ 非連動 (工場出荷時)

平均燃費が表示されているときに、表示切替えノブ (2) を長押しすると、リセットされます。

⚠️ アドバイス

手動によるリセットは、「給油連動」、「TRIP A連動」を選択しているときでも可能です。

給油連動

給油することに自動的にリセットされます。

⚠️ アドバイス

給油量が少ないと、自動的にリセットされない場合があります。

TRIP A連動

トリップメーター [A] のリセットと連動してリセットされます。

→ 3-74 ページ (トリップメーター (区間距離計))

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

⚠️ アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。

- エンジンスイッチを [ON] のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。

- バッテリー接続後しばらくの間
- 燃料残量警告灯の点灯中

→ 3-66ページ

(燃料残量警告灯)

■ 平均車速

表示をリセットしてからの平均車速が表示されます。

- リセットするときは、平均車速の表示中に、表示切替えノブ (2) を長押しします。

⚠️ アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- バッテリーを外すと、平均車速の表示はリセットされます。

時計

エンジンスイッチが [ON] のときに、表示位置 (C) に時計が表示されます。

→ 3-75ページ (時計合わせ)

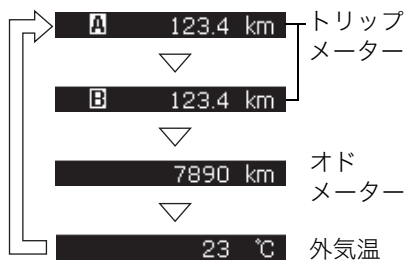
オド/トリップメーター、外気温

エンジンスイッチが [ON] のときに、表示位置 (D) に次のいずれかが表示されます。

- オドメーター (積算距離計)
- トリップメーター (区間距離計)
- 外気温

トリップノブ (1) を押すごとに、次のように表示が切り替わります。

図の値は表示例です



65J272

警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

表示は、ノブを離したときに切り替わります。

■ オドメーター（積算距離計）

新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

■ トリップメーター（区間距離計）

リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- **A** および **B** の2種類の走行距離を同時に計測できます。

<使いかたの例>

A：出発時にリセットして、出発後の距離を計測

B：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブ (1) を長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

■ 外気温

°C 単位で表示されます。

- 外気温が氷点下近くになると、次のメッセージが表示されます。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。

→ 6-10ページ

（雪道を走行するとき）



路面凍結注意

65J273

アドバイス

停車中や低速走行中に外気温が上昇すると、センサーがエンジンの熱の影響を受けていると判断して値を更新せず、正しい外気温を表示できない場合があります。

セッティングモード

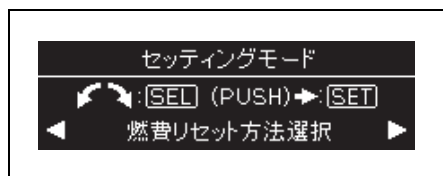
セッティングモードへ切り替えると、次の設定ができます。

- 平均燃費のリセット方法の切替え
- 時計合わせ
- 設定の初期化（工場出荷時の設定にもどす）

■ セッティングモードへの切替えのしかた

切り替えは、エンジンスイッチが **[ON]** のときの停車中にできます。（走行中はできません）

- 平均燃費または平均車速の表示中にセッティングモードにすると、同時に現在の値がリセットされます。リセットしたくないときは、先に表示切替えノブを短押しして他の表示に切り替えてください。
- 表示切替えノブ（2）を3秒以上長押しします。インフォメーションディスプレイ全体がセッティングモードに切り替わります。



65J274

■ セッティングモードの終了のしかた

表示切替えノブ（2）をまわして「戻る」を選択し、ノブを短押しします。

- セッティングモードは次のような操作でも終了できます。
 - エンジンスイッチを **[ACC]** または **[LOCK]** にする
 - 走行を開始する

■ 平均燃費のリセット方法の切替えのしかた

→ 3-72ページ（平均燃費）

- 1 セッティングモードに切り替えます。
- 2 表示切替えノブ（2）を左右にまわして、「燃費リセット方法選択」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
- 3 ノブを左右にまわして、「非運動」、「給油運動」、「TRIP A 運動」からリセット方法を選択します。ノブを短押しすると、切替えが完了します。

👉 アドバイス

現在選択されているリセット方法は、文字が反転（白字→黒字）して表示されます。

■ 時計合わせ

- 1 セッティングモードに切り替えます。
- 2 表示切替えノブ（2）を左右にまわして、「時刻設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。

- 3 ノブを左右にまわして、「時」を合わせます。ノブをまわしたままにすると、早送りされます。ノブを短押しすると、次に進めます。
- 4 ノブを左右にまわして、「分」を合わせます。ノブをまわしたままにすると、早送りされます。

■ 設定の初期化

工場出荷時の設定（初期状態）にもどせます。

- 平均燃費のリセット方法…非連動
→ **3-72ページ（平均燃費）**

- 1 セッティングモードに切り替えます。
- 2 表示切替えノブ（2）を左右にまわして、「工場出荷状態」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
- 3 ノブを左右にまわして、「YES」を選択し、ノブを短押しします。
 - 「NO」を選択してノブを短押しすると、初期化を途中でやめることができます。

インフォメーションディスプレイのメッセージ

各システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。

- メッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。詳しくは、次の「**インフォメーションディスプレイのメッセージ一覧**」をお読みください。また、一覧に案内されている参照ページも合わせてお読みください。

🔧 アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、一定時間ごとに表示が切り替わります。
- メッセージが表示されているときに、表示切替えノブ（2）を長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、ふたたび表示される場合があります。

■ インフォメーションディスプレイのメッセージ一覧

下記の操作をしているときに、次の表以外のメッセージが表示される場合があります。

- 4WDモード切替えスイッチの操作中
→ **4-22ページ**
（4WDモードの切替え操作）
- ESP® 装備車は、ESP® OFF スイッチの操作中
→ **4-39ページ**
（ESP® OFFスイッチ）

全車共通

メッセージ	マスター ウォーニング	室内 ブザー	原因と対処方法
 ドアが開いています	 点滅	ポーン	走行中に、いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → 3-68ページ (半ドア警告灯)
 ドアが開いています (※)	消灯	なし	停車中に、いずれかのドアが完全に閉まっていません。完全に閉めてください。
 ライト点灯中	 点滅	ピーー	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → 3-80ページ (ライト消し忘れ警告ブザー)
 4WDシステム要点検	 点滅	なし	4WD システムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → 4-22ページ (4WDモードの切替え操作)
 給油して下さい (※)	消灯	ポーン	燃料の残量が少なくなっています。すみやかに給油してください。 → 3-66ページ (燃料残量警告灯)
 路面凍結注意 (※)	消灯	なし	路面が凍結しているおそれがあります。とくに慎重に運転してください。 → 6-10ページ (雪道を走行するとき)

※印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間が過ぎると消えます。

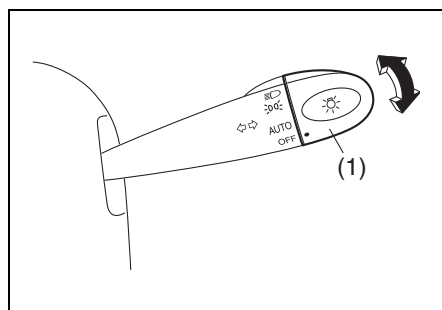
ESP®装備車のみ
→ 4-36ページ (ESP®装備車の取扱い)

メッセージ	マスター ウォーニング	室内 ブザー	原因と対処方法
ESPESPシステム要点検	 点滅	ポーン	ESP®システムに異常が考えられます。 スズキサービス工場で点検を受けてください。 → 4-37ページ (ESP®作動表示灯)
ESPヒルホールド 機能停止中	 点滅	ポーン	ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。 → 4-40ページ (ヒルディセントコントロール) → 4-43ページ (ヒルホールドコントロール)

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミ (1) をまわすと次のように点灯・消灯します。



65J4013

ライト スイッチ の位置	ヘッドライト (前照灯)	車幅灯、 尾灯、番号灯
☰	点灯	
☷	消灯	点灯
AUTO	自動点灯・消灯 (※)	
OFF	消灯	

※ オートライトシステムは、エンジンスイッチが **ON** のときだけ作動します。

注 記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。

→ 3-69ページ (ライト点灯表示灯)

■ オートライトシステム

エンジンスイッチが **ON** のときに使用でき、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯が自動的に点灯・消灯します。エンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** にすると、自動的に消灯します。

- ライトスイッチのツマミを AUTO の位置にまわすと、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ヘッドライト (前照灯)	車幅灯、 尾灯、番号灯
明るいとき	消灯	
薄暗いとき	消灯	点灯
暗いとき	点灯	

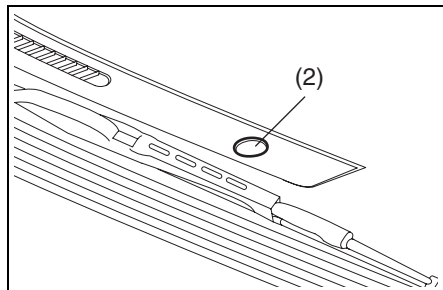
注 記

AUTO 位置のままエンジンスイッチを **ON** にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯します。そのまま長時間点灯させると、バッテリーあがりの原因となりますのでご注意ください。

⚠️アドバイス

オートライトセンサー (2) の上や周囲に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

インパネ助手席側



ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

- キーを抜いたあとも、ライトや車幅灯が点灯している
- エンジンスタートノブを **LOCK** 位置にもどしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

- 警告ブザーの作動中は、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

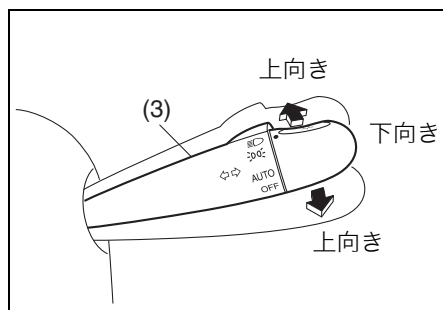
→ 3-76 ページ (インフォメーションディスプレイのメッセージ)

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き (ハイビーム) に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー (3) を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き (ハイビーム) 表示灯が点灯します。

→ 3-69 ページ (ヘッドライト上向き (ハイビーム) 表示灯)



⚠️アドバイス

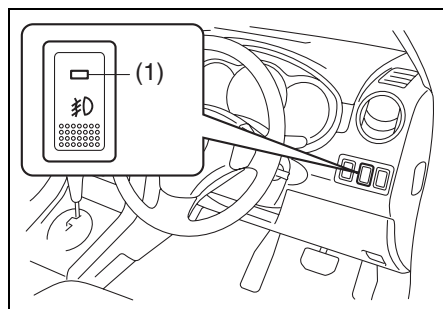
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スwitchを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。
もう一度押すと消灯します。



65J046

注記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

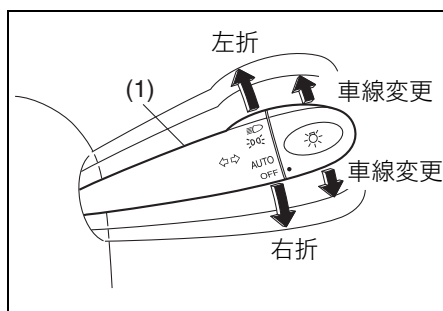
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー (1) を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもとどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



65J286

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもとどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

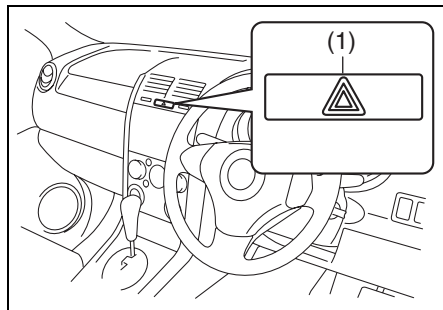
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



65J044

(1) 非常点滅表示灯スイッチ

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

▲ 注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。

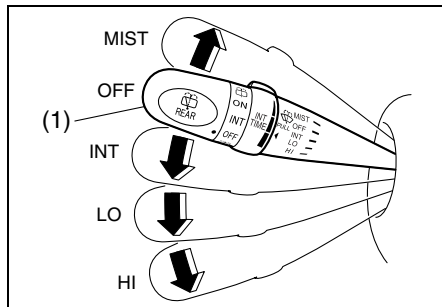
→ 5-2ページ (デフロスター)

注 記

- ウィンドーが乾いているときは、ウィンドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。
- ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。

フロントワイパースイッチ

レバー（１）を上下に操作します。

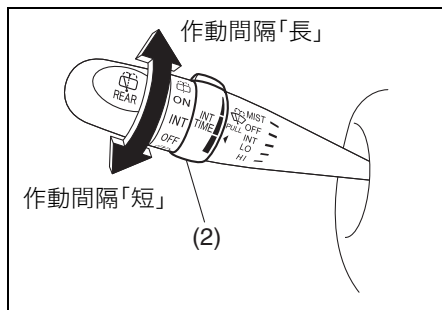


80J1279

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

■ 間欠ワイパーの時間調節のしかた

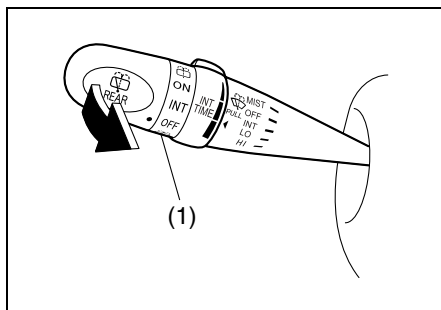
INT のときにリング（２）をまわすと、作動間隔を調節できます。



80J3027

フロントウォッシャースイッチ

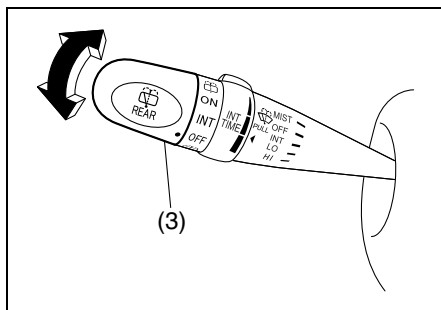
レバー（１）を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



80J1281

リヤワイパースイッチ

ツマミ（３）をまわします。

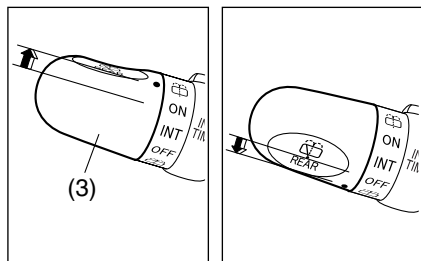


80J1282

ON	連続作動
INT	間欠作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

- 図の **▲** 方向にツマミ (3) をまわし、ONの上にある  (ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。ツマミから手を離すと ON にもどります。
- 図の **▼** 方向にツマミをまわし、OFFの下にある  (ウォッシャー) にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。ツマミから手を離すと OFF にもどります。



80J1286

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押しとホーンが鳴ります。



82K297

リヤデフォグガススイッチ

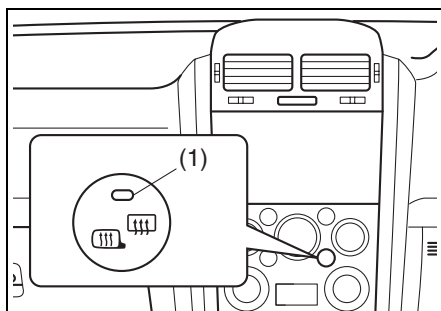
エンジン回転中に使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。

- スイッチを押すとバックウインドーガラスとドアミラーが同時に暖められ、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。もう一度押すとスイッチが切れます。
- ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。

→ **3-23ページ**

(ドアミラーヒータースイッチ)

- 約 20 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



65J102

注 記

- バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。
- 雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりすることには使用しないでください。
- バックウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

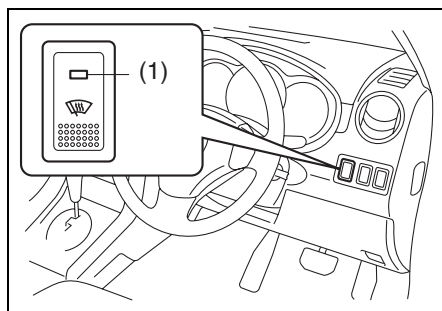
⚠️ アドバイス

エンジン停止中はスイッチが入りません。

デアイサースイッチ

エンジン回転中に使用でき、フロントウインドーガラスの下側にたまった雪を取り除きやすくします。

- スイッチを押すと、フロントウインドーガラスが暖められ、スイッチ内の表示灯 (1) が点灯します。
もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約 15 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを **ACC** または **LOCK** にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



65J045

注 記

バッテリー保護のため、雪が取れたらすみやかにスイッチを切ってください。

⚠️ アドバイス

エンジン停止中はスイッチが入りません。

MEMO

4. 運転するときは

● エンジン始動

エンジンスイッチの各位置のはたらき	4-2
キーレススタートシステム	4-3
イモビライザーシステム	4-6
エンジンのかけかた	4-6

● パーキングブレーキ

パーキングブレーキの操作	4-9
--------------------	-----

● チェンジレバー

チェンジレバーの操作	4-10
------------------	------

● オートマチック車

セレクトレバーの操作	4-11
走行モードの切替え操作	4-13
オートマチック車の特性	4-14
オートマチック車を運転するとき	4-15
オートマチック車の運転のしかた	4-17

● 4WD車

4WDモードの切替え操作	4-22
--------------------	------

● クルーズコントロール

クルーズコントロール	4-30
------------------	------

● ABS

ABS装備車の取扱い	4-33
------------------	------

● ESP®

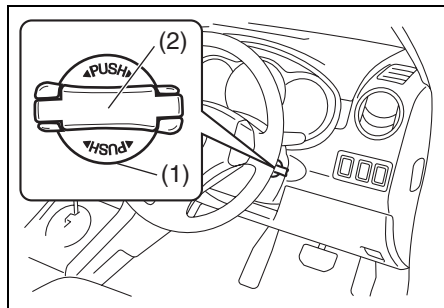
ESP®装備車の取扱い	4-36
ヒルディセントコントロール	4-40
ヒルホールドコントロール	4-43

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバックシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界がありません。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチの各位置のはたらき

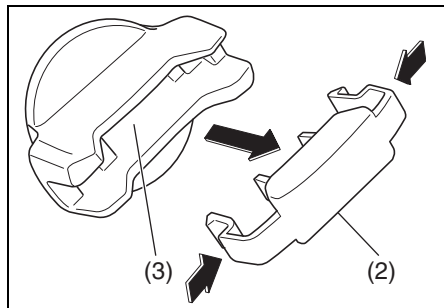
所持している携帯リモコンが「**車内の作動範囲**」(4-5 ページ参照)に入っていると、エンジンスタートノブ(1)によるエンジンスイッチの操作ができます。
→ 3-10ページ (携帯リモコン)



65J389

- (1) エンジンスタートノブ
(2) キャップ

- エンジンスタートノブ(1)には、ノブの操作をしやすいするためのキャップ(2)が付いています。キーによるエンジンスイッチの操作をするときは、キャップを外します。
- 外すときは、キャップ(2)の両側を指でつまみながら引き抜きます。



80J3042

- (3) キー差込み口

■ LOCK (ロック)

- 駐車するときの位置です。この位置でエンジンスタートノブを押すと、携帯リモコンが車両と電波で通信を開始します。照合がとれるとメーター内のキーレススタート表示灯が青色に点灯し、ノブをまわせるようになります。
- キーを抜き差しすることもできます。
- エンジンスイッチを **LOCK** にもどすと、ハンドルロックがかかります。

■ ACC (アクセサリ)

エンジンをかけずにオーディオやドアミラー、アクセサリソケットなどの電装品(タイプ別装備)を使用するときの位置です。

■ ON (オン)

● エンジン停止状態

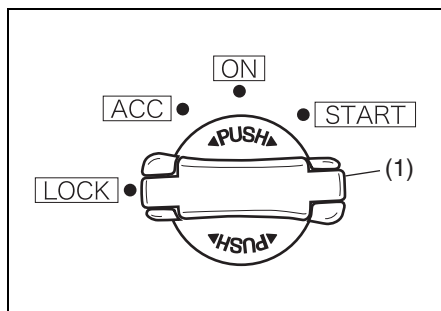
エンジンをかけずにパワーウィンドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。

● エンジン回転中

すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。

■ START (スタート)

エンジンをかけるときの位置です。始動したら、エンジンスタートノブまたはキーから手を離してください。ノブまたはキーは、自動的に **ON** にもどります。



80J3043

(1) エンジンスタートノブ

※ 上図のエンジンスタートノブ周囲の表記（●や **LOCK** など）は説明用です。実際の車両には、これらの表記はありません。

注 記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ラジオ（別売り）などを聞かないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- ハンドルロックは、エンジンスイッチを **LOCK** から **ACC** にしたときに解除されます。
- エンジンスタートノブは、押してすぐに **LOCK** から **ACC** にまわせません。メーター内のキーレススタート表示灯が青色に点灯するのを待ってから、ノブをまわしてください。

ハンドルロックが解除できないときは

エンジンスタートノブまたはキーが **LOCK** から **ACC** にまわせません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、ノブまたはキーをまわしてください。



64L40180

キーレススタートシステム

所持している携帯リモコンが「車内の作動範囲」（4-5 ページ参照）に入っていると、エンジンスタートノブの操作で始動が可能となります。

また、その他に次の機能があります。

- キーレスエントリー
→ 3-8ページ（キーレスエントリー）
- リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠
→ 3-10ページ（携帯リモコン）
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
→ 4-6ページ
（イモビライザーシステム）

アドバイス

エンジンスターートノブが **ACC** のときに、一定時間いずれかのドアを開けたままにしていると、エンジンの始動ができなくなる場合があります。

(キー使用時を除く)

その場合には、すべてのドアを閉めるか、エンジンスターートノブを **LOCK** にもどしてから、エンジンをかけてください。

キーレススタート表示灯



64L30690

メーターパネル内にあります。

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスターートノブを **LOCK** 位置で押して青色に点灯すると、ノブがまわせます。赤色に点灯すると、ノブはまわせません。
- 青色の点灯がしばらく続くと、装置保護のため消灯し、エンジンスターートノブがまわせなくなります。この場合は、一度ノブから手を離し、再度ノブを押してください。
- 赤色に点灯する場合は、携帯リモコンが「車内の作動範囲」(4-5 ページ参照) で検知されていません。運転者はリモコンを身につけてください。それでも赤色に点灯する場合は、電池切れが考えられます。リモコンに格納されているキーをご使用のうえ、電池を交換してください。

→ **6-7ページ**

(携帯リモコンの電池交換)

- 赤色に点滅したときは、警告が作動しています。

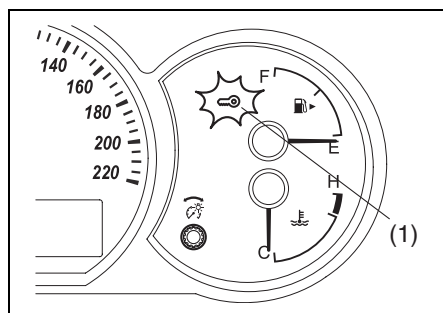
→ **4-4 ページ (携帯リモコン車外持ち出し警告)**

→ **4-8 ページ (エンジンスターートノブもどし忘れ警告)**

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内ブザーが約 2 秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のキーレススタート表示灯 (1) が赤色に点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- エンジン回転中、またはエンジンスターートノブが **LOCK** の位置へ完全にもどされていない状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内にない場合
- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 10km/h 以上になったときに、携帯リモコンが車内にない場合



65J4014

(1) キーレススタート表示灯 (赤色点滅)

警告が作動したときは、すみやかに安全な場所に停車し、携帯リモコンを車内にもどしてください。

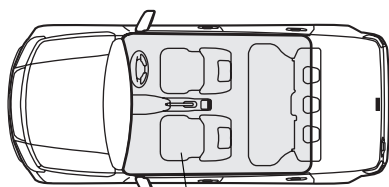
- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。
- キーレススタート表示灯の赤色点滅は、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジン始動機能/携帯リモコン車外持ち出し警告の作動範囲（車内）

「車内の作動範囲」は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。



車内の作動範囲

65J5022

アドバイス

- 「車内の作動範囲」に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジンの始動ができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動することがあります。
 - 携帯リモコンの電池が消耗している
 - 携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
 - 携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
 - 携帯リモコンがグローブボックスやドアポケットなどの小物入れの中にある
 - 携帯リモコンがメーターパネルの手前やサンバイザー、床にある
- 「車内の作動範囲」に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジンの始動ができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
 - 車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
 - 携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、キーや携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたキーやリモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

- 次のような場合は、キーからの信号を車両が正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。
 - キーグリップが金属製のものと接触しているとき
 - キーが他のキーと近いときや重なっているとき
- 3-2ページ (キー)

4

イモビライザー警告灯



80J218

メーターパネル内にあります。

→ 3-64ページ

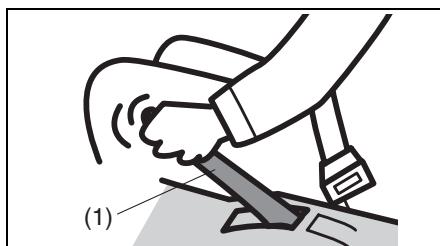
(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチを **[ON]** にしたときに点灯すると、エンジンの始動が可能です。点滅すると、エンジンの始動ができません。
- 点滅した場合は、一度エンジンスイッチをもどして、再度エンジンスイッチを **[ON]** にしてください。また、携帯リモコンに格納してあるキーをご使用ください。それでも点滅する場合は、システムの異常が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

エンジンのかけかた

2-11 ページの「エンジンをかけるときは」もあわせてお読みください。

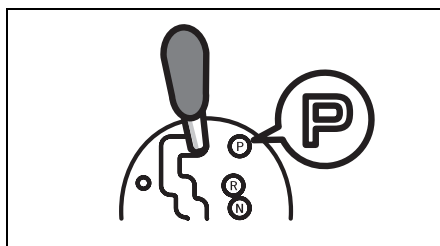
- 1 パーキングブレーキ (1) がしっかりかかっていることを確認します。



80J1141

- 2 **[マニュアル車]** は、チェンジレバーがN (ニュートラル) になっていることを確認します。

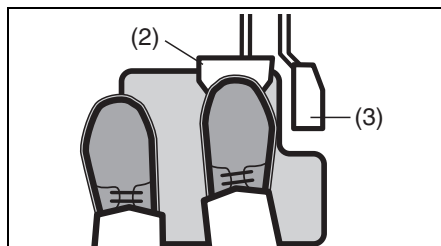
[オートマチック車] は、セレクトレバーが **[P]** になっていることを確認します。



65J234

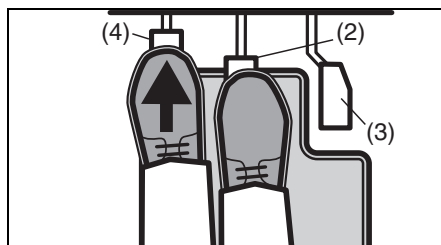
- 3 右足でブレーキペダル (2) をしっかり踏み込み続けます。

●アクセルペダル (3) は踏まないでください。



64L40060

- 4 マニュアル車 は、左足でクラッチペダル (4) をいっぱいまで踏み込みます。



64L40160

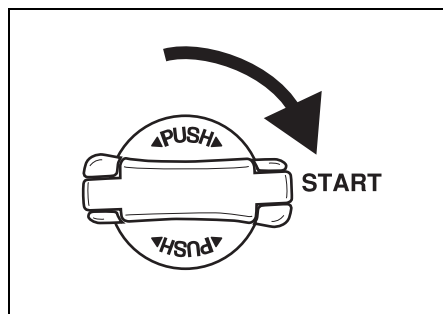
(2) ブレーキペダル

(3) アクセルペダル

■ クラッチスタートシステム

マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

- 5 エンジンスタートノブまたはキーを **START** までまわします。



80J3029

- エンジンがかかったら、すみやかにエンジンスタートノブまたはキーから手を離します。

※ 前記の手順を何度繰り返してもエンジンがかからないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

バッテリー保護のため、エンジンスタートノブまたはキーを **START** にまわした状態を8秒以上続けないでください。エンジンがかからないときは、ノブまたはキーを一度 **ACC** にもどし、10 秒以上待ってから再びかけてください。

⚠️ アドバイス

- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。
→ 4-3ページ (ハンドルロックが解除できないときは)

エンジンを止めるときは

エンジンスイッチを **ACC** にもどします。

⚠ 警告

- 緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
 - ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。
 - パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。
 - ABS、ESP®（タイプ別装備）が作動しません。
- **マニュアル車** は走行中、絶対にエンジンスイッチを **LOCK** にもどさないでください。キーの有無にかかわらず、ハンドルがロックされてまわせなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッション（タイプ別装備）が損傷するおそれがあります。

エンジンスタートノブをもどすときは

エンジンスタートノブを **LOCK** にもどすと、ハンドルロックがかかります。

■ オートマチック車

セレクトレバーを **P** 位置に入れ、エンジンスタートノブを **LOCK** にもどします。

- 誤操作防止のため、セレクトレバーが **P** 位置のときだけノブを **LOCK** にもどせます。
→ 4-20ページ（駐車）

■ マニュアル車

エンジンスタートノブを **LOCK** にもどします。

- **ACC** → **LOCK** は、エンジンスタートノブを押し込んでまわします。

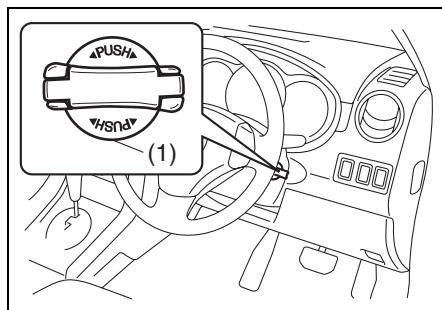
■ エンジンスタートノブもどし忘れ警告

エンジンスタートノブが **LOCK** の位置へ完全にもどっていないと、次のような警告が作動します。

- エンジンスタートノブが **ACC** と **LOCK** の間にあると、室内ブザーが2回鳴り、メーター内のキーレススタート表示灯が赤色に点滅します。
- 運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴りま

エンジンスタートノブを **LOCK** の位置に完全にもどすと、キーレススタート表示灯が消灯し、室内ブザーが止まります。

- **LOCK** の位置にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。



65J368

(1) エンジンスタートノブ

アドバイス

マニュアル車の場合、**ACC** → **LOCK** はエンジンスタートノブを押し込んでまわす必要があります。

キーを抜くときは

キーを **LOCK** にもどすと、ハンドルロックがかかります。

■ オートマチック車

セレクトレバーを **P** 位置に入れ、キーを **LOCK** にもどしてキーを抜きます。

- 誤操作防止のため、セレクトレバーが **P** 位置のときだけキーが抜けます。
→ 4-15ページ
(キーインターロック)
→ 4-20ページ (駐車)

■ マニュアル車

キーを **LOCK** にもどしてキーを抜きます。

- **ACC** → **LOCK** は、キーを押し込んでまわします。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

- キーを **ACC** または **LOCK** にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- キーを抜くと、室内ブザーが止まります。

パーキングブレーキの操作

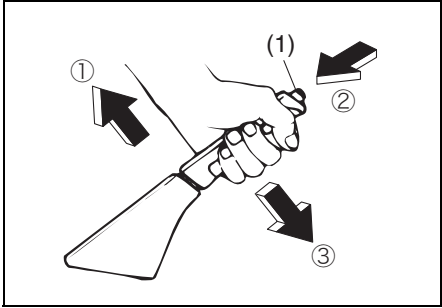
パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

駐車するときは

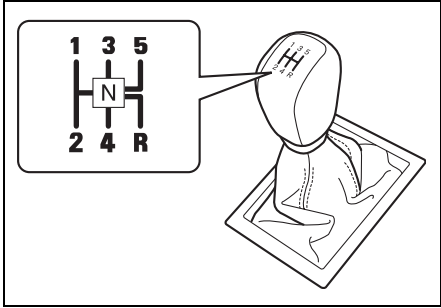
ボタン (1) を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら (①) レバー先端のボタン (1) を押し込み (②)、そのまま下まで完全におろします (③)。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動きだす感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



71L40081



65J137

⚠ 警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が点灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。
→ 3-65ページ（ブレーキ警告灯）

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

- 誤作動防止のため、5 速から R（リバース）に直接入れることはできません。一度 N（ニュートラル）に入れてから R へ操作してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

（単位：km/h）

シフト ダウン	4WDモードの位置	
	(4H) (4H LOCK)	(4L LOCK)
2速→1速	50	25
3速→2速	95	45
4速→3速	135	65
5速→4速	180	90

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

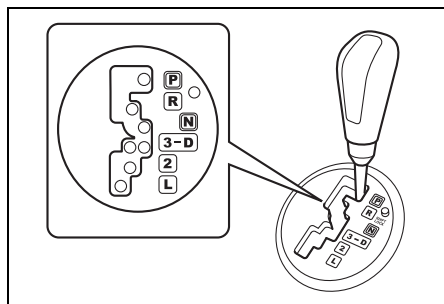
注 記

上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。
→ 3-61ページ（タコメーター）

セレクトレバーの操作

オートマチック車

セレクトレバーの各位置のはたらき

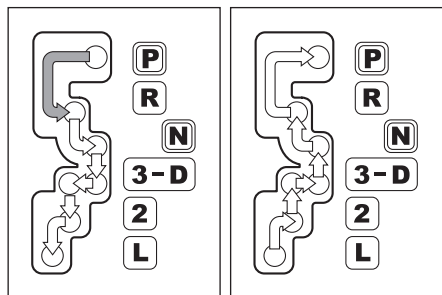


65J050

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するとき、キーを抜くときの位置 ●車輪が固定されます。（4WDモードの切替え操作をして、駆動状態が〔N〕のときを除く）
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが〔R〕に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため〔P〕の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
3 サード	軽いエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは1速から3速までの間で自動的に切り替わります。坂道や山間路を走行するときなどに使用します。
2 セカンド	エンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは1速と2速の間に自動的に切り替わります。坂道を走行するときなどに使用します。
L ロー	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な坂道を走行するときなどに使用します。

- 次のようなときは、4速ギヤ（トップギヤ）に入らない制御をしています。
 - AT油温、エンジン水温が低いとき
 - 4WDモードの切替え操作をして、駆動状態が〔4L LOCK〕のとき
→ 4-22ページ（4WDモードの切替え操作）

セレクトレバーの動かしかた



65J139

4



ブレーキペダルを踏み、セレクトレバーをゲートにそって動かします。



セレクトレバーをゲートにそって動かします。

注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によっては膝などが当たって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注記

完全に停車させてから、セレクトレバーを **R** に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約 7km/h 以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが **ON** でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを **P** から他の位置に動かせます。
- エンジンスイッチが **ACC** または **LOCK** のときは、ブレーキペダルを踏んでも、セレクトレバーを **P** から他の位置に動かせません。
- セレクトレバーを助手席側に倒してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを **ON** にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを **P** から他の位置へ動かせない場合は、次のページの手順でシフトロックを解除してください。
この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

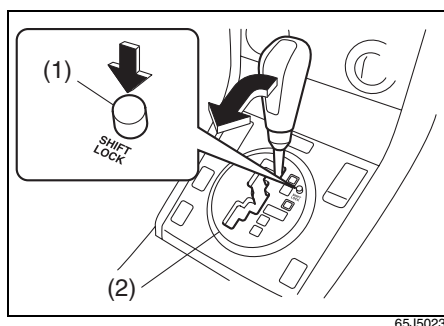
注意

発進するときには、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障やバッテリーあがりなどで、セレクトレバーを[P] から他の位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

- 1 安全のため、エンジンスイッチを[ACC]にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。
- 2 セレクトレバーパネル(2)にあるシフトロック解除ボタン(1)を押しながら、セレクトレバーを操作します。



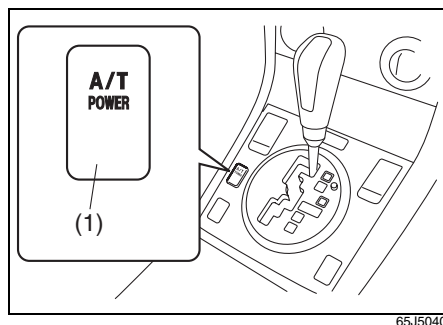
走行モードの切替え操作

走行条件や使用目的にあわせて、走行モードを選択できます。

走行モード切替えスイッチ

走行モード切替えスイッチ(1)を押すと、メーター内のPOWER表示灯が点灯し、パワー走行・雪道発進モードに切り替わります。

- もう一度押してスイッチをもどすと、通常走行モードになるとともに、POWER表示灯が消灯します。



■ パワー走行モード

セレクトレバーが[D]または[3]のときに、通常走行モードよりも高い速度で変速します。坂道や山間路を走行するときに、力強い走行が得られます。

■ 雪道発進モード

セレクトレバーを[2]に入れると、ギヤは2速に固定され、発進のときでも1速に変速しません。雪道やじゃり道などの滑りやすい路面で、タイヤが空転しにくい、なめらかな発進ができます。

- 発進後に速度を上げたいときは、セレクトレバーを[3]または[D]に切り替えてください。

POWER表示灯

POWER

65J131

メーターパネル内にあります。

→ 3-64ページ

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチが **ON** のときに、走行モード切替えスイッチを押すと点灯し、パワー走行・雪道発進モードに切り替わります。
- システムが正常で、走行モードスイッチが押されていない通常走行モードのときは、エンジンスイッチを **ON** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠ 注意

- セレクトレバーを **P** **N** 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどをするときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

▲ 注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱい踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登坂変速制御

セレクトレバーが **[D]** の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断すると、4 速へのシフトアップを制限し、エンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

キーインターロック

誤操作防止のため、セレクトレバーが **[P]** 位置のときだけキーが抜けます。これをキーインターロックといいます。

→ 4-9ページ（キーを抜くときは）

オートマチック車を運転するとき

AT警告灯



80J219

メーターパネル内にあります。

- AT（オートマチックトランスミッション）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。

→ 3-64ページ

（警告灯・表示灯の見かた）

[R]（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを **[R]** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが **[R]** に入っていることを運転者に知らせます。

🔊 アドバイス

[R]（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

ペダルの踏み間違いに注意

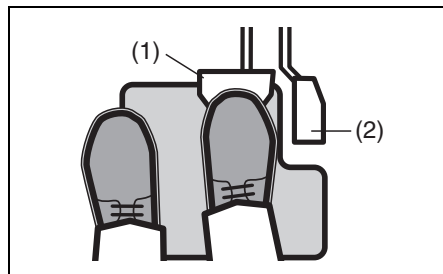
ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠ 警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

4

ブレーキペダルは右足で踏む



- (1) ブレーキペダル
- (2) アクセルペダル

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

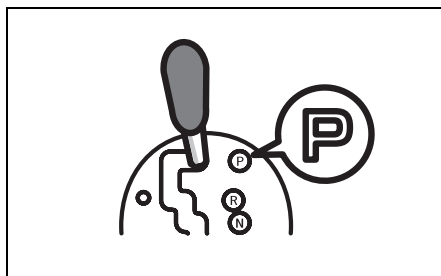
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は **[P]**、前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



65J234

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが **P** 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

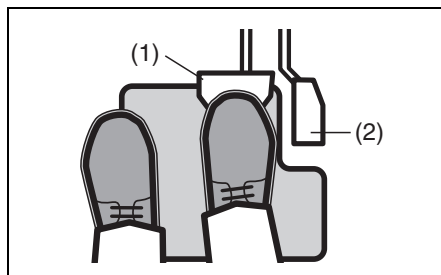
オートマチック車の運転のしかた

4-11 ページの「セレクトレバーの操作」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

- 1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートやハンドルを調節します。
 - 3-25ページ (前席シート)
 - 3-24ページ (チルトステアリング)

- 2 アクセルペダルとブレーキペダルの位置を右足で確認します。



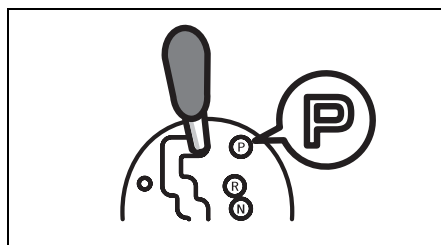
64L20140

- (1) ブレーキペダル
- (2) アクセルペダル

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は、4-6 ページの「エンジンのかけかた」をお読みください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- 2 セレクトレバーが **P** にあるか確認します。



65J234

アドバイス

セレクトレバーが **[N]** の位置でもエンジンがかかりますが、安全のため **[P]** でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

4 発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

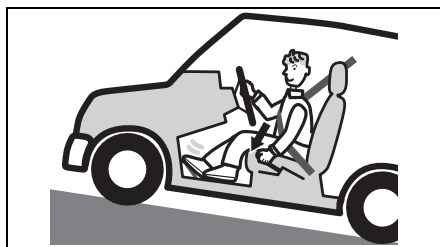
4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1、**2** は「通常の発進」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動きだす感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。



80J255

アドバイス

ヒルホールドコントロール装備車の場合、急な上り坂での発進時に、車が後退することを一定時間防ぐ機能があります。

→ **4-43ページ**
(ヒルホールドコントロール)

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを **[D]** に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠ 警告

高速走行中は、セレクトレバーを **[2]** や **[L]** に入れないでください。急激なエンジンプレーキがかかって、スリップ事故を起こすおそれがあります。また、エンジンの回転が上がりすぎて故障の原因となります。

⚠ 注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを **[N]** にしないでください。エンジンプレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を **[D]** で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめセレクトレバーを **[3]** または **[2]** に入れておくと、エンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

- 急な上り坂で、1 速と 2 速の変速を繰り返すようなときには **[L]** に入れます。

■ 下り坂走行

下り坂を **[D]** のままで走行すると、エンジンプレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめセレクトレバーを **[3]** または **[2]** に入れてエンジンプレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンプレーキが必要なときには **[L]** に入れます。

⚠ 警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンプレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

📌 アドバイス

ヒルディセントコントロール装備車の場合、急な下り坂などで車速を一定に保ち、走行を補助する機能があります。

→ **4-40ページ**
(ヒルディセントコントロール)

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを **[N]** に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションオイルが過熱し、故障の原因となります。

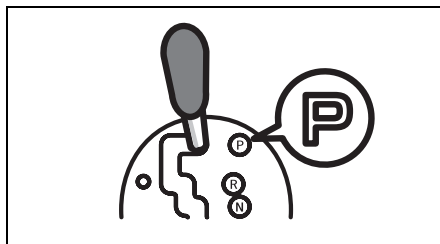
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを **[P]** に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- セレクトレバーが **[P]** の位置になっているか目で確かめます。



65J234

警告

駐車するときは、セレクトレバーを **[P]** に入れてからエンジンを止めてください。**[P]** 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 エンジンスタートノブを **[LOCK]** の位置にもどします。また、キー使用時は、エンジンスイッチからキーを抜きます。

→ 4-8 ページ (エンジンスタートノブをもどすときは)

→ 4-9 ページ (キーを抜くときは)

警告

駐車中は、駆動状態を **(N)** (ニュートラル) にしないでください。セレクトレバーを **[P]** に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

→ 4-22 ページ

(4WDモードの切替え操作)

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

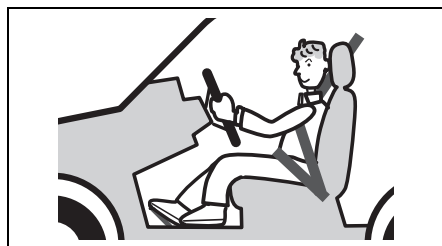
🔊 アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入る習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠️ 注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（**[D]** **[3]** **[2]** **[L]**）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（**[R]**）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

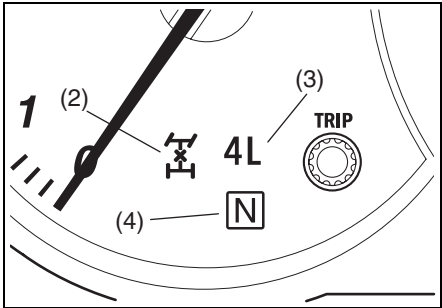
📝 注記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを **[P]** に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

4WDモードの切替え操作

2-26ページの「4WD車を運転するとき」もあわせてお読みいただき、センターデフ式フルタイム 4WD 車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

- センターデフ式フルタイム 4WD とは、前輪と後輪を特殊な連結装置で接続し、前後輪に駆動力を配分する装置です。

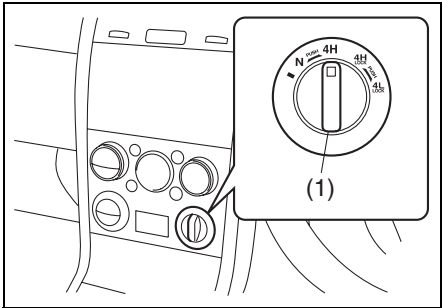


65J143

- (2) デフロック表示灯
- (3) 4L表示灯
- (4) ニュートラル表示灯

4 4WDモード切替えスイッチ

駆動状態の切替えに使用します。



65J142

- 駆動切り替え中は、メーター内の表示灯が点滅したり、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたりします。
- 駆動状態は、表示灯の点灯・消灯で確認できます。

■ 各表示灯の点灯状態

スイッチ位置 および切替え後の 駆動状態	メーター内の 表示灯
4H	(消灯)
4H LOCK	
4L LOCK	4L
N	

- デフロック表示灯 (2)、4L 表示灯 (3)、ニュートラル表示灯 (4) のすべてが点滅し、メーター内のインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示される場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。



65J276

4WDモード切替えスイッチの各位置のはたらき

■ (4H) (通常走行モード)

一般道路、高速道路などを走行するときの位置です。通常はこの位置で走行します。

- センターデフが作動し、前後輪に駆動力を振り分けます。(通常のフルタイム4WDの状態)

⚠️ アドバイス

ESP® 非装備車の場合、センターデフにLSD (リミテッドスリップデフ) が装備されています。センターデフが作動する(4H)で急旋回をすると、LSDの作動により振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

■ (4H LOCK) (直結ハイモード)

(4H) では十分な駆動力が得られないような悪路、砂地、積雪路などの滑りやすい路面を走行するときの位置です。

- センターデフがロックされ、前後輪が直結の状態になります。

■ (4L LOCK) (直結ローモード)

(4H LOCK) でも十分な駆動力が得られないような急な坂路、砂地、ぬかるみなど、とくに大きな駆動力を必要とするときの位置です。

- センターデフがロックされ、前後輪が直結の状態になります。また、(4H) や (4H LOCK) のときと比較して、より低速なトランスファーギヤが選択されます。

⚠️ アドバイス

ESP® 装備車の場合、駆動力補助のため、駆動状態を(4L LOCK)に切り替えると、メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するとともに、トラクションコントロールのエンジン出力抑制およびスタビリティコントロールが作動しなくなります。

ただし、ABS およびブレーキトラクションコントロール(※)は作動します。発進時や加速時にブレーキトラクションコントロールが作動すると、メーター内のESP® 作動表示灯が小刻みに点滅します。

なお、ブレーキトラクションコントロールが作動すると、ブレーキの作動により音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

→ **4-36ページ (ESP® 装備車の取扱いについて)**

アドバイス

※ブレーキトラクションコントロールとは、滑りやすい路面で駆動輪の片側が空転した場合、その空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、反対側の駆動輪の駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ (N) (ニュートラルモード)

エンジンの動力が伝わらない位置です。この位置での走行はできません。

4

4WDモード切替えスイッチの操作

エンジンスイッチが **[ON]** のときに、駆動状態の切替えが可能です。

→ 2-17 ページ (スタック (立ち往生) したときは)

- 4WDモードの切替え時や、異常があるときなどに、お知らせしたい情報があると、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ 4-28 ページ (4WD システムのメッセージ)

注 記

タイヤの摩耗程度が4輪で著しく異なると、駆動装置に悪影響をあたえたり、駆動状態の切替えができなくなったりするおそれがあります。タイヤがかたよって摩耗するのを防ぐために、タイヤのローテーションを行なってください。

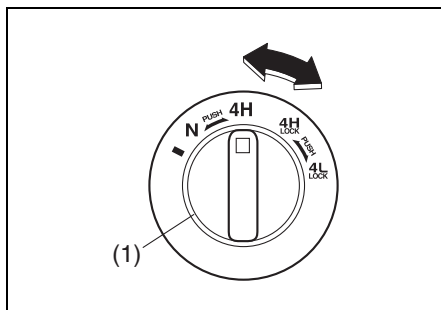
→ 6-6ページ

(タイヤのローテーション)

■ (4H) ⇄ (4H LOCK)

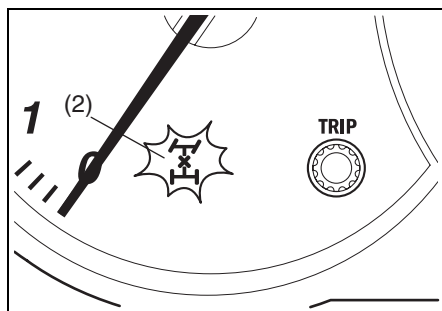
停車中でも走行中でも切替えが可能です。走行中に切り替える場合は、ハンドルが直進状態で、タイヤが空転していないときに行なってください。旋回走行中または、雪道などで車輪を空転させたまま行なうと、駆動状態が切り替わらない場合があります。

- 4WD モード切替スイッチ (1) を押さずにまわします。



65J144

- 駆動切替え中はメーター内のデフロック表示灯 (2) が点滅します。
- 切替え操作後、デフロック表示灯が点滅したままのときは、前後の車に十分注意しながら、加減速するか停車して車を後退させてください。



65J231

(2) デフロロック表示灯

▲ 注意

走行中の切替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。

■ (4H LOCK) ⇄ (4L LOCK)

停車中のみ切替えが可能です。

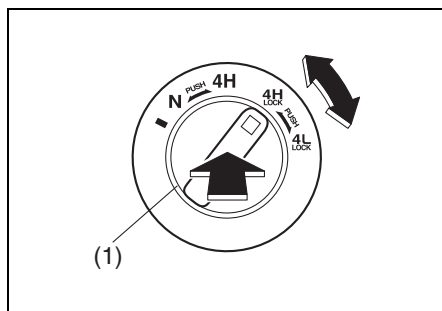
なお、スイッチ操作をするときは、次の条件をみたしてください。

① アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んだままにして車を完全に止める

② オートマチック車 はセレクトレバーを **N** に入れる

マニュアル車 はチェンジレバーを **N**(ニュートラル) にし、クラッチペダルを完全に踏み込む

● 4WD モード切替えスイッチ (1) を押しながらかわします。



65J146

● 切替え操作と同時に、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合は、その指示に従ってください。

→ 4-28ページ

(4WDシステムのメッセージ)

● 切替え操作後、スイッチ位置と表示灯が一致していない場合は、駆動状態が切り替わっていません。

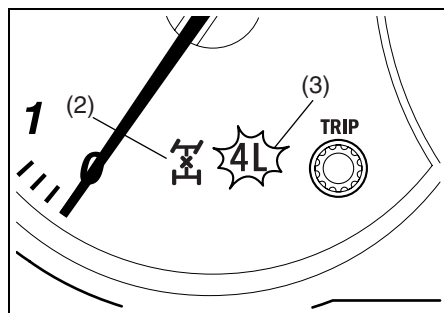
その場合は、次の操作をしてください。

- スイッチをもとの位置にもどし、前記 ①、② の条件をみたしてから切替え操作をやり直す
- 一度エンジンを切って、ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを **ON** にする

注 記

4L 表示灯が点滅している駆動切替え中は、発進操作を行なわないでください。駆動装置の保護のため、強制的に駆動状態が **(N)** に切り替わる(ニュートラル表示灯は点灯しません)とともに、室内ブザーが断続的に鳴る場合があります。

その場合は、前記 ①、② の条件をみたす操作をしてください。それでも4L 表示灯が点滅している場合は、スイッチをもとの位置にもどしてから、切替え操作をやり直してください。



- (2) デフロロック表示灯
(3) 4L表示灯

4

⚠️ アドバイス

駆動切替え時に、ショックが出ることがありますが異常ではありません。

■ (4H) ⇄ (N)

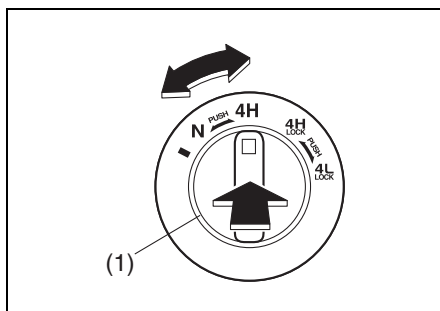
停車中にのみ切替えが可能です。
なお、スイッチ操作をするときは、次の条件をみたしてください。

- Ⓐ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んだままにして車を完全に止める

- Ⓑ **オートマチック車** はセレクトレバーを **[N]** に入れる

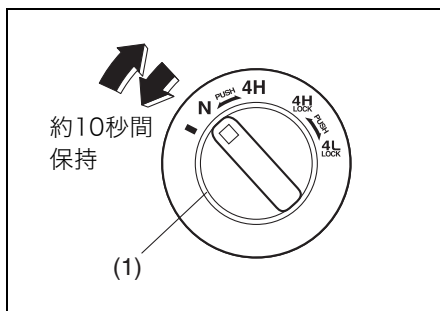
マニュアル車 はチェンジレバーをN(ニュートラル)にし、クラッチペダルを完全に踏み込む

- ① 4WDモード切替えスイッチ (1) を押しながらまわします。



※ (4H) → (N) の場合は、①の手順に追加して、②の操作を行いません。

- ② 4WDモード切替えスイッチ (1) をN位置からさらに左の **■** 位置までスイッチを押さずにまわし、約10秒間保持します。メーター内のニュートラル表示灯が点滅したら、スイッチから手を離し、N位置にもどします。



- 切替え操作と同時に、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合は、その指示に従ってください。

→ **4-28ページ**

(4WDシステムのメッセージ)

- 切替え操作後、スイッチ位置と表示灯が一致していない場合は、駆動状態が切り替わっていません。

その場合は、次の操作をしてください。

- スイッチをもとの位置にもどし、前記 **①**、**②** の条件をみたしてから切替え操作をやり直す
- 一度エンジンを切って、ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを **[ON]** にする

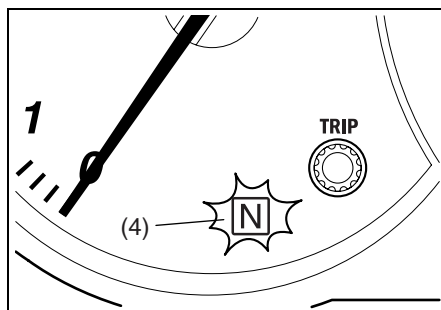
警告

駐車中は、駆動状態を (N) にしないでください。

- **オートマチック車** は、セレクトレバーを **[P]** に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。
- **マニュアル車** は、チェンジレバーを R または 1 速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

注記

ニュートラル表示灯が点滅している駆動切替え中は、発進操作を行なわないでください。駆動装置が損傷するおそれがあります。



65J290

(4) ニュートラル表示灯

- 注意を促すため、エンジンスイッチが **[ON]** で駆動状態が (N) のときは、室内ブザーが断続的に鳴り続けるとともに、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

→ **4-28 ページ (4WD システムのメッセージ)**

デフロック表示灯



65J133

メーターパネル内にあります。

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、駆動状態が (4H LOCK) および (4L LOCK) の場合に点灯します。
- (4H) ⇄ (4H LOCK) の駆動切替え中は点滅します。
- エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯し、そのあと駆動状態により点灯または消灯します。
- 次のような場合は、**4-22 ページ**の「**4WD モードの切替え操作**」をお読みください。
 - 点滅したままのとき
 - 4L表示灯、ニュートラル表示灯とともに点滅したとき

4L表示灯

A rectangular indicator lamp with the text "4L" inside.

65J134

メーターパネル内にあります。

→ 3-64ページ

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、駆動状態が〔4L LOCK〕の場合に、デフロック表示灯とともに点灯します。
- 〔4H LOCK〕 ⇄ 〔4L LOCK〕の駆動切替え中は点滅します。
- エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯し、そのあと駆動状態により点灯または消灯します。
- 次のような場合は、4-22 ページの「4WD モードの切替え操作」をお読みください。
 - 点滅したままのとき
 - デフロック表示灯、ニュートラル表示灯とともに点滅したとき

ニュートラル表示灯

A rectangular indicator lamp with the letter "N" inside.

65J135

メーターパネル内にあります。

→ 3-64ページ

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、駆動状態が〔N〕の場合に点灯します。
- 〔4H〕 ⇄ 〔N〕の駆動切替え中は点滅します。

- エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯し、そのあと駆動状態により点灯または消灯します。
- 次のような場合は、4-22 ページの「4WD モードの切替え操作」をお読みください。
 - 点滅したままのとき
 - デフロック表示灯、4L表示灯とともに点滅したとき

警告

駐車中は、駆動状態を〔N〕にしないでください。

- **[オートマチック車]** は、セレクトレバーを **[P]** に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。
- **[マニュアル車]** は、チェンジレバーをRまたは1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

4WDシステムのメッセージ

4WD モードの切替え時や、異常があるときなどに、お知らせしたい情報があると、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

■ 4WDシステムのメッセージ一覧

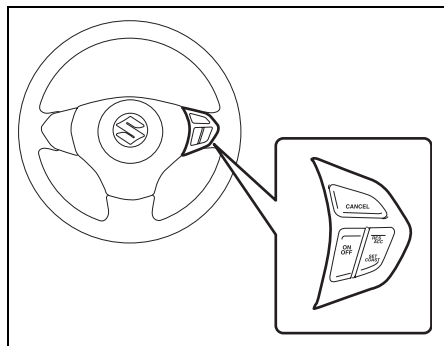
スイッチ位置	メッセージ	マスターウォーニング	室内ブザー	原因と対処方法
いずれかの位置	 4WDシステム要点検	点滅 	なし	4WD システムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
(N)	 駐車時は禁止です	点滅 	ピピッ、 ピピッ、 ピピッ、 ピピッ、	注意を促すため、駆動状態が (N) のときに表示されます。駐車中は (N) 以外に切り替えてください。
(4H)	 4HL にして下さい	点滅 	なし	スタックなどでタイヤが空転しています。(4H LOCK) に切り替えてください。
(4H) ⇄ (4H LOCK) の切り替え時	 切替中 (※)	消灯	なし	表示されたままのときは、前後の車に十分注意しながら、加減速するか停車して車を後退させてください。
(4H LOCK) ⇄ (4L LOCK) の切替え時 (4H) ⇄ (N) の切替え時	オートマチック車  ブレーキ ON アクセル OFF ギアシフト N (※)	消灯	ピー、 ピー、 ピー、 ピー、	駆動状態が切り替わっていません。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーを N に入れてください。
	マニュアル車  ブレーキ ON アクセル OFF クラッチ ON (※)	消灯	ピー、 ピー、 ピー、 ピー、	駆動状態が切り替わっていません。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルとクラッチペダルを踏んでください。
	 スイッチを戻して下さい (※)	消灯	ピー、 ピー、 ピー、 ピー、 または なし	駆動状態が切り替わっていません。スイッチをもとの位置にもどし、 Ⓐ 、 Ⓑ の条件 (4-25ページ 参照) をみたしてから切替え操作をやり直してください。
	 発進操作を しないで下さい (※)	消灯	なし	駆動切替え中は発進操作をしないでください。

※印のメッセージは、要因が解消されていない場合でも、一定時間を過ぎると消えます。

クルーズコントロール

アクセルペダルから足を離しても、一定の速度で走行できます。加減速の繰り返しの少ない高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

- 目標車速は、約 45～約 100km/h の間でセットできます。
- **オートマチック車** は、セレクトレバーが **D** または **3** のときに使用できます。
- **マニュアル車** は、チェンジレバーが 4 速または 5 速のときに使用できます。



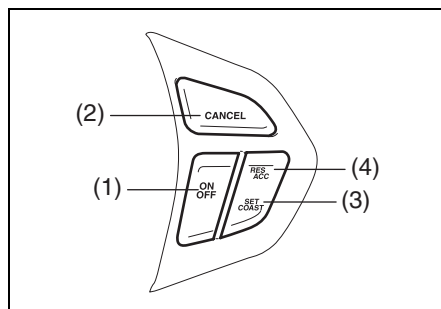
65J5024

警告

次のような場所では使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道。
- 急カーブのある道。
- 凍結や積雪などで滑りやすい道。
- 急な下り坂。エンジンプレーキが十分に効かず、セットした目標車速をこえることがあります。

クルーズコントロールスイッチ



79K049

- (1) ON/OFF スイッチ
- (2) キャンセルスイッチ
- (3) SET/COAST スイッチ
- (4) RES/ACC スイッチ

セット（定速走行）のしかた

- 1** ON / OFF スイッチ (1) を押します。
 - メーター内の CRUISE 表示灯が点灯すると、目標車速がセットできる状態（待機状態）になります。
- 2** アクセルペダルの加減で、希望の速度に調節します。
- 3** SET / COAST スイッチ (3) を押します。
 - メーター内の SET 表示灯が点灯すると、アクセルペダルから足を離しても定速走行ができます。

警告

クルーズコントロールを使用しないときは、ON / OFF スイッチ (1) を押して CRUISE 表示灯を消灯させてください。誤ってクルーズコントロールを作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

駆動状態が〔4L LOCK〕のときは、目標車速がセットできません。

→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

CRUISE表示灯

CRUISE

52D113

メーターパネル内にあります。

- ON / OFF スイッチ (1) を押して、目標車速がセットできる状態 (待機状態) になると点灯します。

→ 3-64ページ
(警告灯・表示灯の見かた)

SET表示灯

SET

65D474

メーターパネル内にあります。

- 目標車速がセットされると点灯します。
→ 3-64ページ
(警告灯・表示灯の見かた)

一時的に加減速したいときは

■ 加速したいとき

アクセルペダルを踏んでください。通常走行と同様に加速できます。

- アクセルペダルから足を離すと、自動的にもとの定速走行にもどります。

■ 減速したいとき

ブレーキペダルを踏んでください。定速走行が解除され、SET 表示灯が消灯します。(待機状態)

もとの定速走行にもどすときは

RES / ACC スイッチ (4) を押して、SET 表示灯を再点灯させてください。

注意

オートマチック車 の場合、セレクトレバーを **D** から **3** にしても定速走行が解除されないため、エンジンプレーキが効きません。ブレーキペダルまたはクルーズコントロールスイッチの操作で減速してください。

目標車速の変えかた

■ アクセルペダルを使って

希望の速度まで加速し、SET / COAST スイッチ (3) を押します。

■ ブレーキペダルを使って

希望の速度まで減速し、SET / COAST スイッチ (3) を押します。

📌 アドバイス

ブレーキペダルを踏んでから再セットするまではSET表示灯が消灯します。(待機状態)

■ クルーズコントロールスイッチを使って

- 加速するときは RES / ACC スイッチ (4) を押し続けます。
- 減速するときは SET / COAST スイッチ (3) を押し続けます。

希望の速度になったら、スイッチから手を離します。

📌 アドバイス

スイッチを短押しすると、目標車速の微調整 (約1.5km/h) ができます。

定速走行の解除のしかた

■ 一時的な解除

同時にSET表示灯が消灯します。(待機状態)

- キャンセルスイッチ (2) を押す
- ブレーキペダルを踏む
- 目標車速より、速度が約 20km/h 以上低下したとき
- 速度が約40km/h以下になったとき
- オートマチック車 は、セレクトレバーを **2** または **L** にする
- マニュアル車 は、クラッチペダルを踏む
- ESP® の場合、車が横すべりしそうになったとき (ESP®作動時を含む)

もとの定速走行にもどすときは

RES/ACCスイッチ (4) を押して、SET表示灯を再点灯させてください。

■ システムの解除

同時にCRUISE表示灯が消灯します。

- ON/OFFスイッチ (1) を押す
- メーター内のエンジン警告灯が点灯または点滅したとき
→ **3-67ページ (エンジン警告灯)**

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠ 警告

- 常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABSによる制御には限界があります。
- ABSは、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。
- ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠ 注意

- 急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABSがついていない車と同等です。

- 次のようなときは、ABSのついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにし、車間距離を十分にとってください。
 - 凸凹道や石だみなどの悪路
 - じゃり道、新雪路
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - マンホールなど鉄板の上を通過するとき
 - タイヤチェーンの装着時
- 急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。
- ※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた
- 路面の状況によりますが、約 10km/h 以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

🔊 アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

タイヤについて

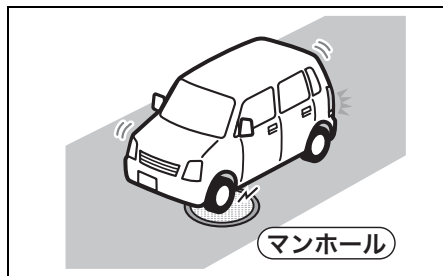
⚠ 警告

ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能なくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

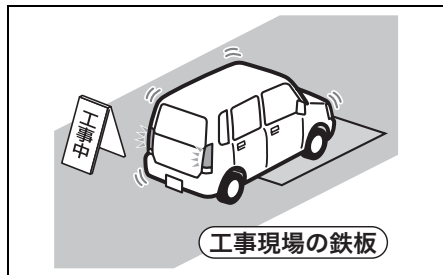
4

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

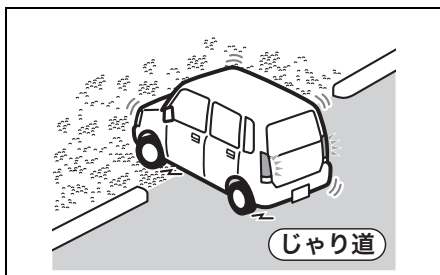
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

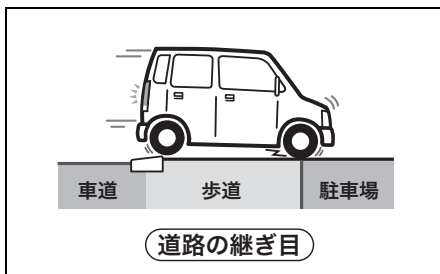


80J1041

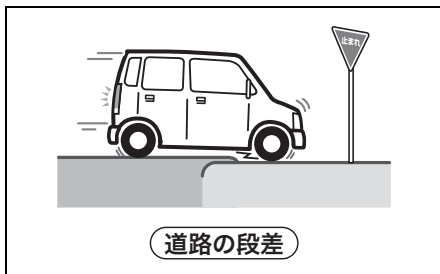


65J354

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき

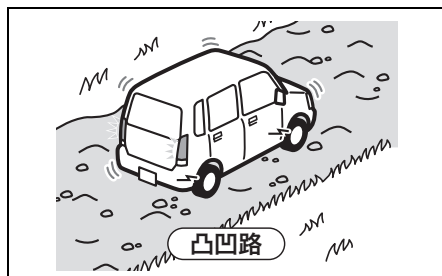


80J1043

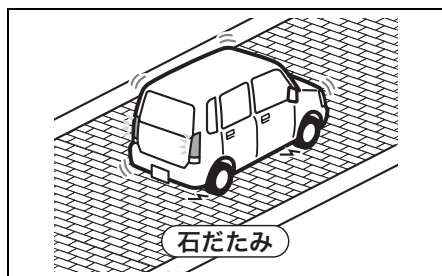


80J1044

- 悪路を走行しているとき



80J1045



80J1046

ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

ABS警告灯



80J127

メーターパネル内にあります。

- ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **ON** のときに点灯します。
→ **3-64ページ**
(警告灯・表示灯の見かた)

ESP®装備車の取扱い

タイプ別装備

ESP® (※) は、ABS、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AGの登録商標です。

4

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

4-33ページをお読みください。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP® による制御には限界があります。

⚠ 注意

- 次のことをお守りください。
守らないと ESP® が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する
→ 8-4ページ（タイヤの空気圧）
- タイヤ交換時は指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する
- 著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない
- サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）
- サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない
- エンジンを改造しない（マフラーの改造など）
- LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、ESP® が正常に作動しない場合があります。

アドバイス

- 次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
 - エンジンスイッチを **[ON]** にしたとき
 - ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを **[ON]** にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
 - エンジンをかけたとき
 - エンジンをかけ、最初の発進時
- エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- 駆動力補助のため、4WDモードの切替え操作をして駆動状態を〔4L LOCK〕にすると、トラクションコントロールのエンジン出力制御およびスタビリティコントロールが作動しなくなります。ただし、ABSおよびブレーキトラクションコントロールは作動します。

→ **4-22ページ**
(4WDモードの切替え操作)

ESP®作動表示灯



79K019

メーターパネル内にあります。

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)

- ESP® の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが **[ON]** のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
 - ABSは作動します。
- 次のような状況になると、0.2 秒間隔で小刻みに点滅します。
 - 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
 - 急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している
 - 下り坂などでヒルディセントコントロールが作動している

→ **4-40ページ**
(ヒルディセントコントロール)
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを **[ON]** にしたときに、約2秒間点灯したあとで消灯します。

⚠ 注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

🔊 アドバイス

- 点灯すると、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示される場合があります。

→ 3-76ページ

(インフォメーションディスプレイのメッセージ)

- 点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。
- 駆動力補助のため、4WDモードの切替え操作をして駆動状態を〔4L LOCK〕にすると、メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するとともに、トラクションコントロールのエンジン出力制御およびスタビリティコントロールが作動しなくなります。ただし、ABSおよびブレーキトラクションコントロールは作動します。発進時や加速時にブレーキトラクションコントロールが作動すると、ESP®作動表示灯が小刻みに点滅します。

→ 4-22ページ

(4WDモードの切替え操作)

ESP®の初期設定が必要なとき

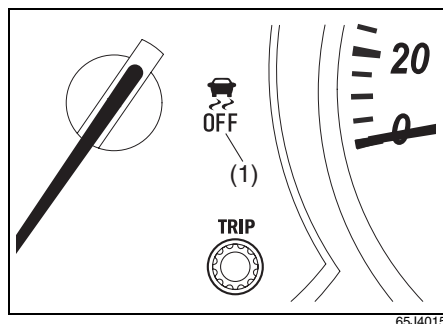
バッテリー端子やヒューズ(7-17ページ参照)を外すなどして、ESP®システムへの電源供給を一度絶ってしまうと、センサーの記憶が消去されてしまうため、ESP®の初期設定が必要になります。

その場合、初期設定が終了するまで、エンジンスイッチが[ON]のときに、メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するとともに、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しません。

初期設定のしかたは、次のとおりです。

- 前後の車に十分注意しながらハンドルを直進状態にし、タイヤをスリップさせないようにして車速約15km/h以上で数秒間走行する

初期設定が終了すると、ESP® OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。



(1) ESP® OFF表示灯

🔊 アドバイス

- 路面状態によっては、初期設定が終了するまでの時間が長くなる場合があります。
- ESP® OFF表示灯が点灯しているときでも、ABSは作動します。

ESP® OFFスイッチ

トラクションコントロールは、スタックからの脱出などに適さない場合があります。そのようなときは、次の操作をしてください。

- 1 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を〔4H LOCK〕（直結ハイモード）にします。

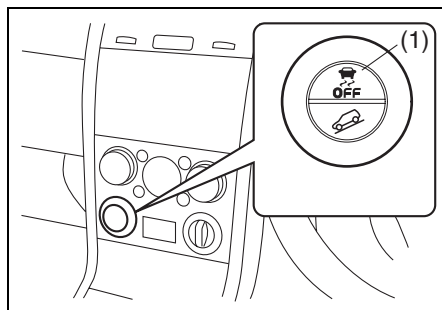
→ 4-22ページ

（4WDモードの切替え操作）

- 2 メーター内のESP® OFF表示灯が点灯するまで、ESP® OFFスイッチ(1)を長押しします。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。

次のような操作または状況になると、ESP® OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。

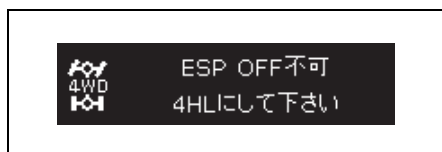
- もう一度ESP® OFFスイッチを押す
- 車速が約30km/hを超えたとき
- 一度エンジンを止め、再始動する



65J4017

アドバイス

- 安全のため、ESP® OFFスイッチを操作しても、ABSは作動停止の状態になりません。
- 駆動状態が〔4H〕（通常走行モード）のときにESP® OFFスイッチを押すと、メーター内のインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示され、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動停止の状態になりません。



65J277

ESP® OFF 表示灯



メーターパネル内にあります。

→ **3-64ページ**

(警告灯・表示灯の見かた)

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、次のような操作または状況になると点灯します。

- 駆動状態が〔4H LOCK〕のときに、ESP® OFF スイッチを長押ししたとき。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
- ブレーキ装置が過熱している状態で、タイヤがスリップしたとき。ブレーキ装置保護のため、トラクションコントロールのブレーキ制御が作動しません。しばらくして装置の温度が下がると、表示灯が消灯してブレーキ制御が作動可能な状態にもどります。
- 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を〔4L LOCK〕にしたとき。駆動力補助のため、トラクションコントロールのエンジン出力制御およびスタビリティコントロールが作動しなくなります。ただし、ABSおよびブレーキトラクションコントロールは作動します。
- ESP®の初期設定が終了するまで
→ **4-38ページ (ESP®の初期設定が必要なとき)**

- システムが正常で、駆動状態が〔4L LOCK〕以外のときは、エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。

→ **4-22ページ**

(4WDモードの切替え操作)

ヒルディセントコントロール

タイプ別装備

ヒルディセントコントロールは、エンジンブレーキだけでは十分減速できないような急な坂道や凸凹が激しい路面、オフロードのような滑りやすい坂道などを下るときに、一定の低車速を保ち、走行を補助するシステムです。このため、ブレーキやアクセル操作に気をつかうことなく、ハンドル操作に集中することができます。

⚠ 警告

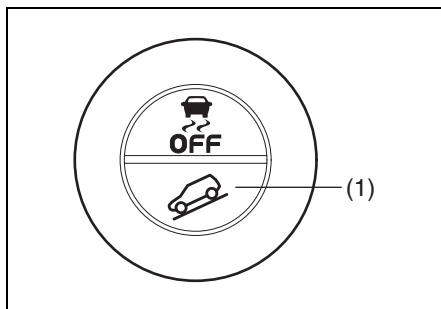
ヒルディセントコントロールを過信しないでください。極端に急な坂道、凍結路、泥道を下るときや、積載重量によっては、下り坂走行で一定の低車速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏み、安全運転に心がけてください。

ヒルディセントコントロールの使いかた

- 1 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を〔4H LOCK〕（直結ハイモード）または〔4L LOCK〕（直結ローモード）にします。
→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)

- 2 セレクトレバーを前進または後退の位置に入れます。

- 3 車速が約25km/h以下のときにヒルディセントコントロールスイッチ (1) を押します。メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点灯するとともに、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になります。



65J4018

- 作動中は、メーター内のESP®作動表示灯が小刻みに点滅します。また、同時に制動灯も点灯します。
- 駆動状態が〔4H LOCK〕のときは、車速を約10km/hに保ちます。
- 駆動状態が〔4L LOCK〕のときは、車速を約5km/hに保ちます。
→ 4-37ページ
(ESP®作動表示灯)

- 作動中にアクセルペダルやブレーキペダルを踏むと、一時的に作動停止します。アクセルペダルやブレーキペダルから足を離すと、再び作動します。
- 車速が約 25km/h 以上になると、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに、自動的に作動停止します。

⚠ 注意

- 長時間連続して使うと、ブレーキ装置が過熱する場合があります。この場合は装置保護のため、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅するとともに自動的に作動停止します。ブレーキペダルを踏んで安全な場所に停車してください。
しばらくしてブレーキ装置の温度が下がると、ヒルディセントコントロール表示灯が点滅から点灯に切り替わるとともに作動可能な状態にもどります。
- セレクトレバーが **N** 位置でも、ヒルディセントコントロールが作動する場合がありますが、エンジブレーキが効きません。セレクトレバーを前進または後退の位置に入れてください。

🔊 アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ システムを解除するときは

もう一度ヒルディセントコントロールスイッチ (1) を押し、ヒルディセントコントロール表示灯を消灯させます。

ヒルディセントコントロール 表示灯



79K050

メーターパネル内にあります。

- エンジンスイッチが **[ON]** のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押し、ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になると点灯します。点滅した場合は、ヒルディセントコントロールが作動しません。次の作動条件が満たされているか確認してください。
 - 駆動状態が〔4H LOCK〕または〔4L LOCK〕
 - セレクトレバーが前進または後退の位置（**[P]** **[N]** 以外）
 - 車速が25km/h以下
 - ブレーキ装置が過熱していない
- システムが正常で、ヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときは、エンジンスイッチを **[ON]** にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 次のような場合はシステムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - エンジンスイッチを **[ON]** にしても点灯しない
 - ヒルディセントコントロールスイッチが押されていないときに、エンジンスイッチを **[ON]** にし、約2秒間たっても消灯しない
 - エンジンスイッチが **[ON]** のときに、ヒルディセントコントロールスイッチを押しても点灯または点滅しない

ヒルディセントコントロール のメッセージ

メーター内のインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

ESP

ヒルホールド
機能停止中

65J278

アドバイス

メッセージの表示中は、ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールは使用できません。

ヒルホールドコントロール

タイプ別装備

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に車が後退することを一時的に（約2秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。

⚠ 警告

- 常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。
- 極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。ブレーキペダルから足を離したまま2秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべて満たしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間、車が後退することを防ぎます。

- 駆動状態が〔N〕（ニュートラル）以外
→ **4-22ページ**
（4WDモードの切替え操作）
- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

🔊 アドバイス

作動中にエンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ヒルホールドコントロールのメッセージ

メーター内のインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたときは、ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

ESP

ヒルホールド
機能停止中

65J276

🔊 アドバイス

メッセージの表示中は、ヒルディセントコントロールおよびヒルホールドコントロールは使用できません。

[illegible]

5. 装備の取扱い

● エアコン、ヒーター

吹出し口	5-2
オートエアコン	5-3
エアコンの上手な使いかた	5-9

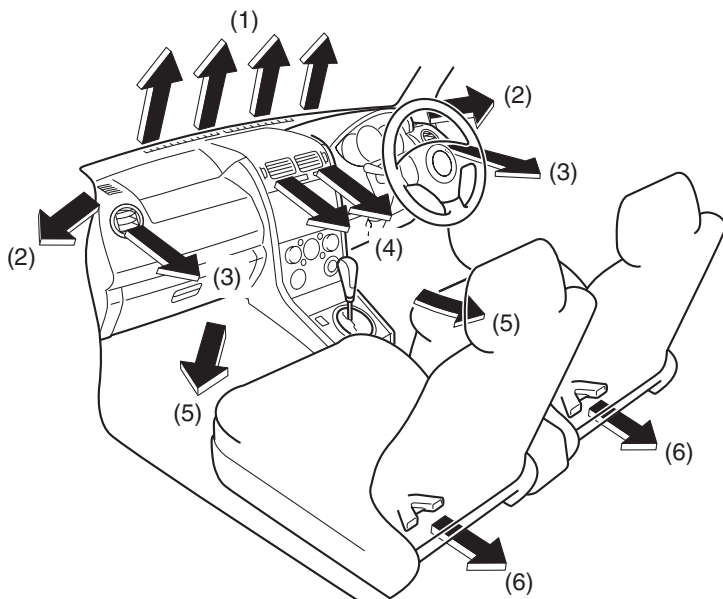
● オーディオ

オーディオの上手な使いかた	5-10
アンテナ	5-10
ステアリングオーディオスイッチ	5-11

● その他の装備

燃料給油口	5-12
ボンネット	5-13
サンバイザー	5-15
室内灯	5-16
ルームスポットランプ	5-18
カーテシランプ	5-18
アクセサリーソケット	5-19
コートフック	5-20
電動サンルーフ	5-20
グローブボックス	5-24
オーバーヘッドコンソール	5-24
リッド付インパネボックス	5-25
センターコンソールトレイ	5-25
ドリンクホルダー	5-26
フロントドアポケット	5-27
ラゲッジポケット	5-27
バックドアポケット	5-27
シートバックポケット	5-28
フットレスト	5-28
ショッピングフック	5-28
アームレスト（ひじ掛け）	5-29
コンソールボックス	5-30
ラゲッジシェルフ（荷室カバー）	5-30
ラゲッジアンダーボックス	5-32
ラゲッジフック	5-32
ルーフ	5-33

吹出し口

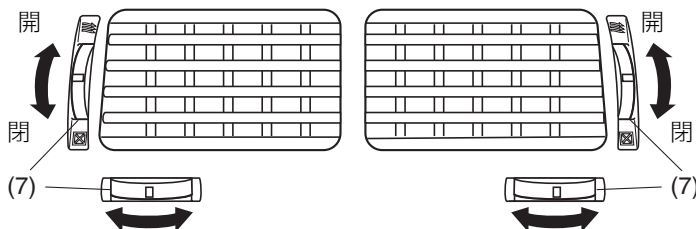


65J052

- (1) デフロスター (2) サイドデミスター (3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口 (5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口 (リヤヒーターダクト)

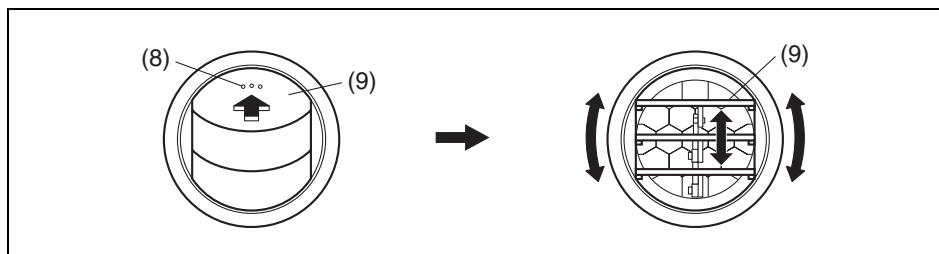
- 中央吹出し口(4)は、ダイヤル(7)を上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口(3)は、凸部(8)を押して開いたルーバー(9)を上下または回転させると、風の向きが調節できます。
- 中央吹出し口およびサイド吹出し口は、開閉できます。

中央吹出し口



65J155

サイド吹出し口



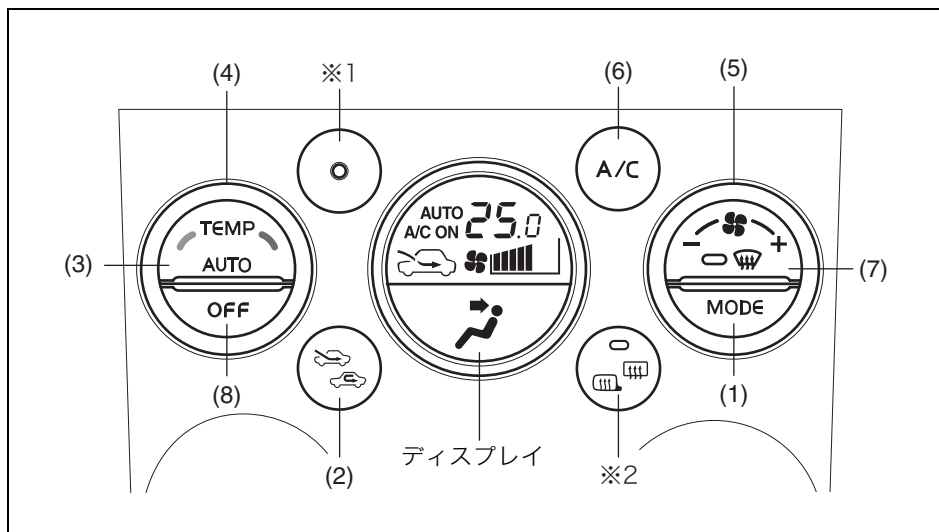
65J156

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

オートエアコン

5



65J4019

- | | |
|----------------------|----------------|
| (1) モード（吹出し口）切替えスイッチ | (2) 内外気切替えスイッチ |
| (3) オートスイッチ | (4) 温度調節ダイヤル |
| (6) エアコンスイッチ | (7) デフロスタースイッチ |
| (5) ファン（風量）調節ダイヤル | (8) OFFスイッチ |

※1セキュリティアラームインジケーターについては、**3-14ページ**をお読みください。

※2リヤデフォグガススイッチについては、**3-84ページ**をお読みください。

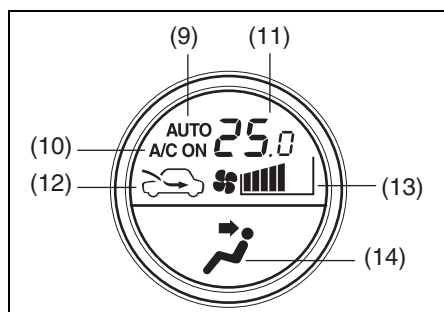
オートエアコンの使いかた

■ 通常の使いかた（自動で使うとき）

オートスイッチ（3）を押して温度調節ダイヤル（4）で希望の温度を設定すると、各機能が自動制御されます。

→ 5-7ページ（オートスイッチ）

- 1 エンジンをかけ、オートスイッチ（3）を押します。ディスプレイに次のように表示（代表例）されます。



65J4020

- (9) AUTO表示
(10) A/C ON表示
(11) 設定温度
(12) 内外気切替え表示
(13) 風量 (14) 吹き出し口

- 冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチ（6）を押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。

- 2 温度調節ダイヤル（4）をまわして希望の温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

- 25℃を基準に、希望の温度に設定してください。ただし、外気温によっては、希望の設定温度にならないことがあります。

- 3 作動を停止するときは、OFFスイッチ（8）を押します。

⚠️アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン（風量）調節ダイヤル（5）、モード（吹出し口）切替えスイッチ（1）のいずれかを操作すると、操作したダイヤルやスイッチの機能が優先されてディスプレイの**AUTO**表示が消えます。ただし、操作したダイヤルやスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中に、デフロスタースイッチ（7）を押すと、ディスプレイの**AUTO**表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし、外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
- エンジンスイッチが **ON** のときに、ディスプレイの**AUTO**表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

好みにあわせてダイヤルやスイッチを操作してください。

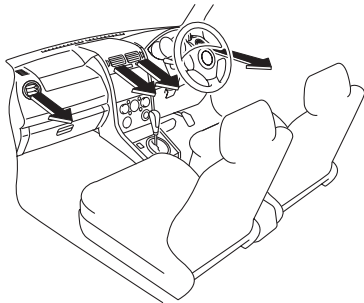
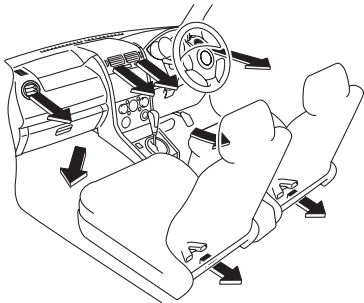
- AUTO 作動中でも、操作したダイヤルやスイッチの機能が優先され、操作したダイヤルやスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチ（3）を押します。
- 止めるときは、OFFスイッチ（8）を押します。

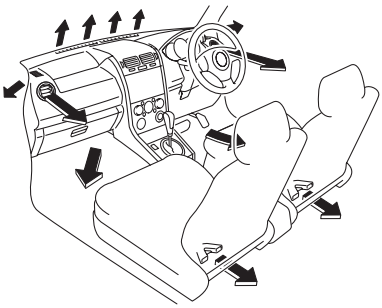
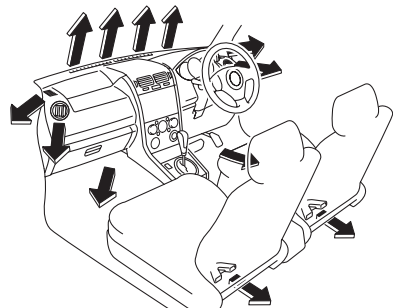
各スイッチ、ダイヤルの使いかた

(1) モード (吹出し口) 切替えスイッチ

モード (吹出し口) 切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

5

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
表示		
吹出し口	 65J056	 65J057

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示		
吹出し口	 65J058	 65J059

⚠️ アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

(2) 内外気切替えスイッチ

内外気切替えスイッチを押すごとに、内気循環と外気導入が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

表 示	状 態
 (外気導入)	外気を導入しています。 ●通常はこの位置でお使いください。
 (内気循環)	外気をしゃ断しています。 ●トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

⚠️ アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、内外気切替えスイッチを押して切り替えてください。

(3) オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに **AUTO A/C ON** が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え

頭寒足熱暖房

AUTO 作動中、吹き出し口切替え表示が  のときに、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

(4) 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルをまわすと、LO、18℃～32℃、HI の間で設定温度を変えます。設定温度は、ディスプレイに表示されます。

- ダイヤルを 18℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイに **LO** が表示され、最大冷房となります。また、ダイヤルを 32℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに **HI** が表示され、最大暖房となります。

⚠️ アドバイス

LO または **HI** が表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

(5) ファン(風量)調節ダイヤル

ファン(風量)調節ダイヤルをまわすと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- ファンを停止するときは、OFF スイッチ (8) を押します。

(6) エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、こころよい暖房になります。

⚠️ アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

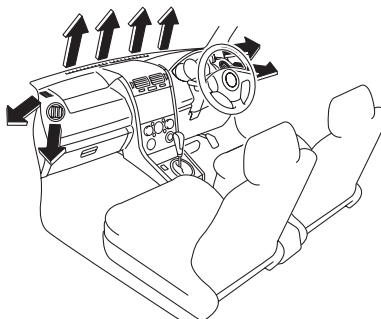
(7) デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹き出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹き出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節ダイヤルをまわして、好みの風量にも調節できます。

- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
表示	
吹き出し口	 65J060

⚠️ アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- 外気温が低いときは、エアコンが作動しないこともあります。
- スイッチ内の表示灯は吹き出し口がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹き出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

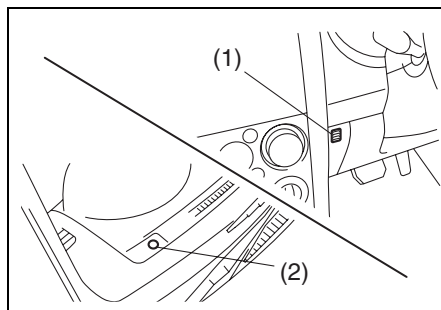
(8) OFFスイッチ

OFFスイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

エアコンの上手な使いかた

温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー、室温センサー、外気温センサーなどによって周囲の状況感知し、自動制御しています。



65J061

- (1) 室温センサー
(2) 日射センサー（運転席側）

⚠️アドバイス

日射センサーの上や周囲に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼ってふさがないようにください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充てんするときは

エアコンガスは、冷媒 HFC134a (R134a) を使用してください。

- エアコンガスを充てんするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ

販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にオイルを循環させてください。油ぎれを防ぐことにより寿命をのばします。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

- エアフィルターの清掃と交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

地域	清掃時期 の目安	交換時期 の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000kmごと、または12か月ごと	車検ごと

オーディオの上手な使いかた

オーディオは別売り

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- オーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- オーディオの操作については、オーディオに付属の取扱説明書をお読みください。

5

⚠ 警告

走行中はオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

エンジンを停止したまま長時間オーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

アンテナ

🔧 アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

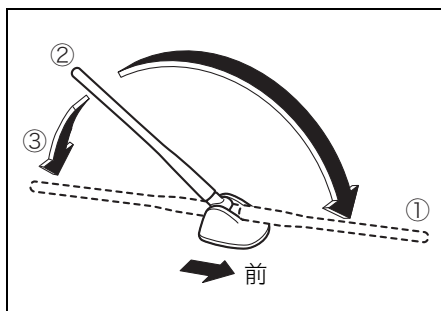
ルーフアンテナ

車両後部にあります。

■ アンテナの調節

アンテナの位置は3段階（①、②、③）に調節できます。

- 調節は手でアンテナを動かして行ないます。
- ラジオを聞くときは、アンテナを②の位置に固定してください。アンテナが①または③の位置に倒れていると、ラジオの受信が正常にできないことがあります。

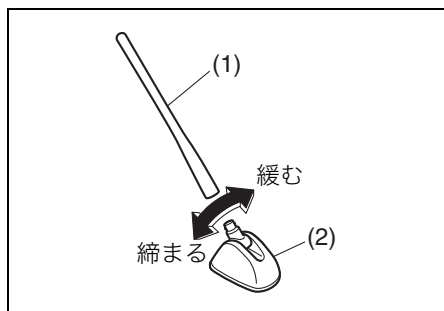


注 記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、手でアンテナを①または③の位置に倒してください。

■ アンテナの脱着

- 取り外すときは、アンテナ（1）を反時計回りにまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部（2）にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



65J064

注 記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。

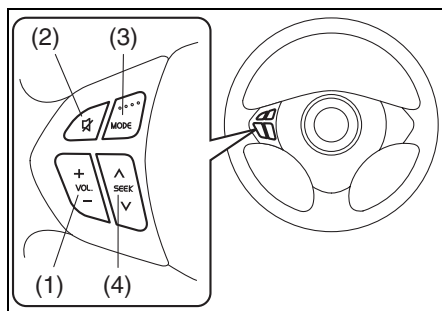
- 自動洗車機にかけるとき
- ボディカバーをかけるとき
- 降雪時に長時間駐車するとき

ステアリング オーディオスイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに、手でオーディオまたはナビゲーションの操作ができます。

- ご使用のオーディオまたはナビゲーション本体による操作については、付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、操作内容が異なる場合があります。



65J002

- (1) 音量調節スイッチ
- (2) ミュートスイッチ
- (3) モードスイッチ
- (4) 選局(選曲)スイッチ

音量調節スイッチ (1)

音量が調節できます。

- 大きくするときは、**+**側を押します
- 小さくするときは、**-**側を押します
- 連続調節するときは、**+**または**-**側を長押しします

ミュートスイッチ (2)

ミュートスイッチを押すと、ラジオを消音できたり、CDやUSBなどの演奏を一時停止できたりします。

- もう一度押すと、消音が解除されたり、演奏が再開されたりします。

モードスイッチ (3)

モードスイッチを押すたびに、モード(ラジオやCDなど)が切り替わります。

- オーディオまたはナビゲーション本体の電源が切れているときにスイッチを押すと、電源が入ります。

選局（選曲）スイッチ（4）

次の表のように、各モードの操作ができます。

使用モード	スイッチの短押し	スイッチの長押し
ラジオ	プリセット選局（P.CH）（※1）	自動選局（SEEK）（※2）
CD USB （iPod®）	トラック（曲）の選択	早送り／早戻し（※3）

※1 プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、オーディオまたはナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。

※2 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局スイッチをもう一度押してください。

※3 ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、長押ししても早送り／早戻しされないことがあります。

燃料給油口

2-20 ページの「給油するときは」もあわせてお読みください。

⚠ 警告

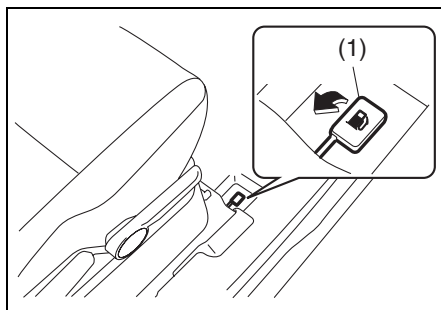
必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

フューエルリッド

運転席側の車両後方にあります。

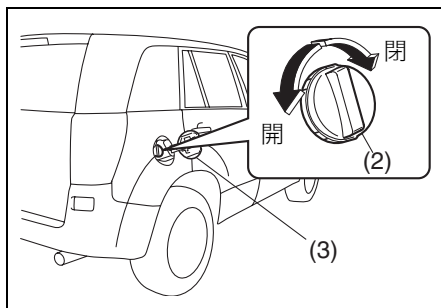
- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナー（1）を引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。



65J025

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が2回以上するまで締めます。



65J5025

(2) フューエルキャップ

(3) フューエルリッド

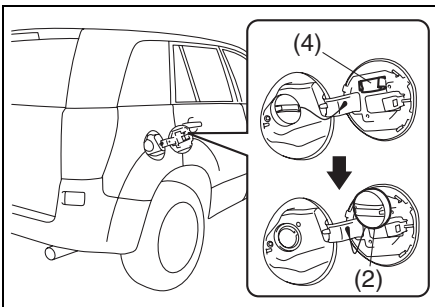
⚠ 警告

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかない布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。

キャップホルダー (4)

フューエルリッドの裏側にあります。

- 給油中は外したキャップ (2) が車体に当たらないように、ホルダーに置いてください。



65J5026

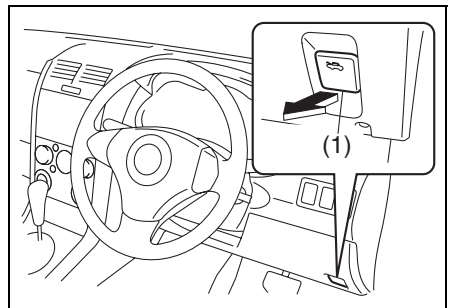
ボンネット

⚠ 警告

- お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
- ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
- 点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

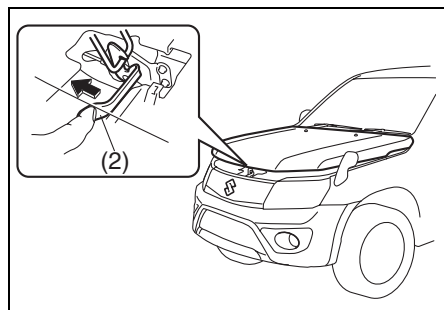
開けかた

- 1 運転席足元のボンネットオープナー (1) を引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



65J021

- 2** 浮き上がったボンネットのすき間に手を入れ、ロックレバー (2) を左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



65J5027

▲ 注意

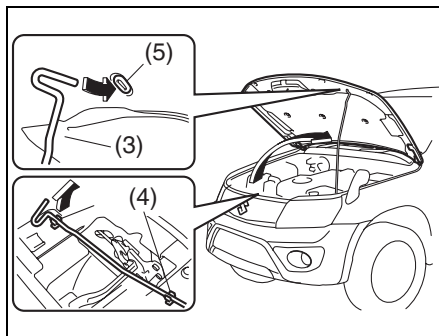
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

- 3** ボンネットを固定します。

- 車体側にあるステー (3) をホルダー (4) から外し、ボンネット側の固定穴 (5) に差し込みます。



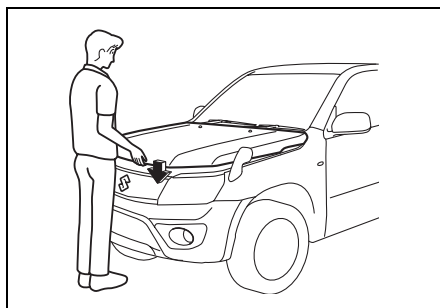
65J5028

▲ 注意

- エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。
- ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。
- ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。

閉めかた

- 1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。
- 2 ボンネットを閉めます。
 - ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



65J5029

▲注意

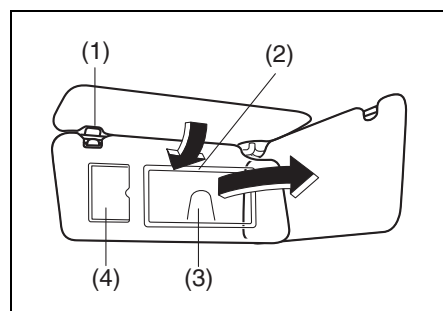
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

チケットホルダー、カードホルダー

サンバイザーの裏側（チケットホルダーはミラーカバーの外側）にあります。有料道路の通行券などがはさめます。



65J065

- (1) フック (2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー
(4) カードホルダー（運転席側のみ）

注 記

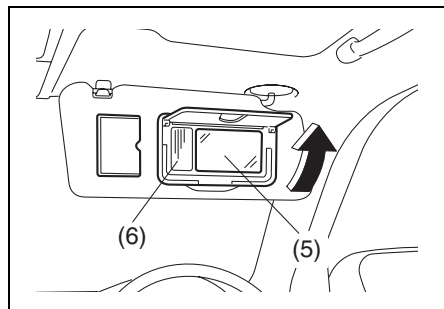
炎天下で駐車するときは、チケットホルダーやカードホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-20 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

照明付きバニティーミラー

ミラーカバーを開けた場所にあります。

- 照明は、ミラーカバーを開けている間、点灯します。



65J168

(5) バニティーミラー

(6) 照明

5

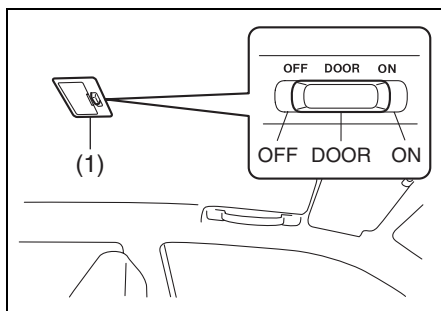
⚠ 警告

- 走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。

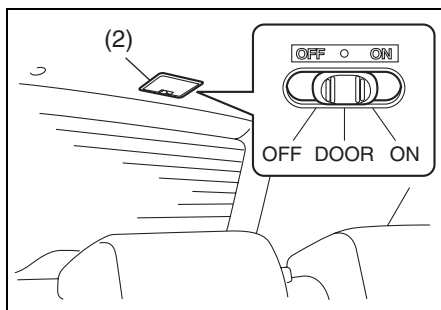
注 記

エンジン停止中に、ミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、バッテリーあがりの原因となります。

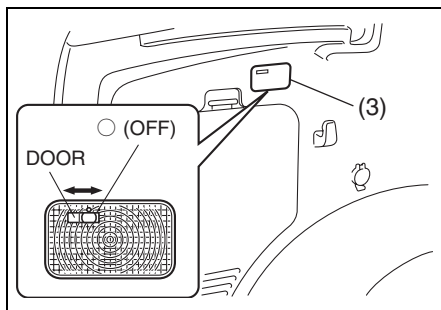
室内灯



65J160



65J161



65J162

(1) 中央室内灯

(2) 後部室内灯

(3) 荷室内室内灯

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯します。
また、次の操作をすると約 15 秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。

- すべてのドアを閉める
- エンジンスタートノブを **LOCK** にもどして手を離す
- キー使用時は、エンジンスイッチからキーを抜く

また、点灯中であっても次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。

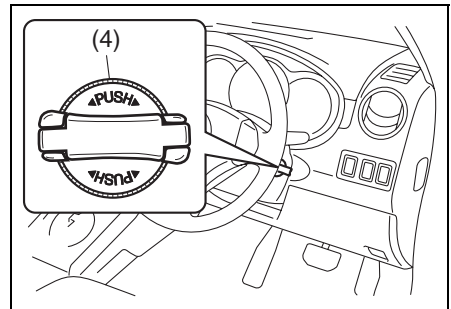
- エンジンスタートノブを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- リクエストスイッチ、キーレスエントリーまたはキーによる施錠

OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

アドバイス

- バッテリー保護のため、次の条件をすべて満たすと、室内灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）
 - エンジンスイッチが **LOCK** の位置で、キーを差していない
 - 室内灯スイッチが DOOR 位置
 - 点灯したまま15分が経過
- 室内灯スイッチが DOOR 位置のときに、リクエストスイッチまたはキーレスエントリーを作動させると、室内灯が点灯または点滅します。
→ **3-9ページ**
(アンサーバック機能)
- エンジンスイッチ照明 (4) は、室内灯が DOOR 位置にあるときの点灯と連動します。



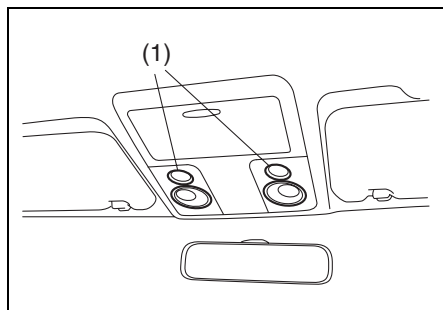
65J372

(4) エンジンスイッチ照明

ルームスポットランプ

フロント

スイッチ (1) を押すと点灯します。もう一度押すと消灯します。



65J093

注 記

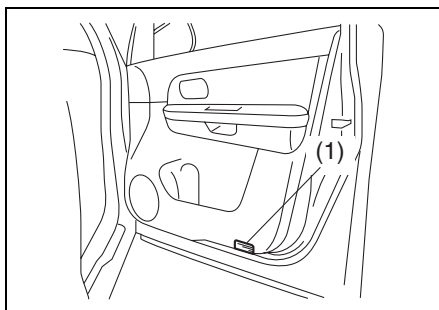
エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

カーテシランプ

ドアの内側の下部にあります。

前席ドア

ドアを開けている間、点灯します。



65J165

(1) カーテシランプ

注 記

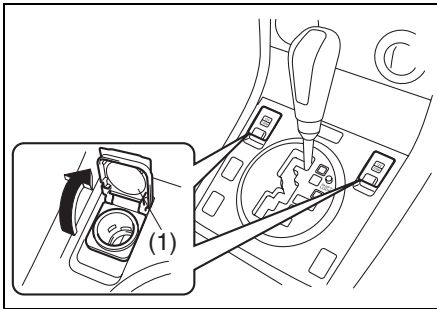
エンジン停止中に、前席ドアを開けたまま放置しないでください。ランプが点灯したままとなり、バッテリーあがりの原因となります。

アクセサリソケット

センターコンソールに2か所、荷室に1か所あります。

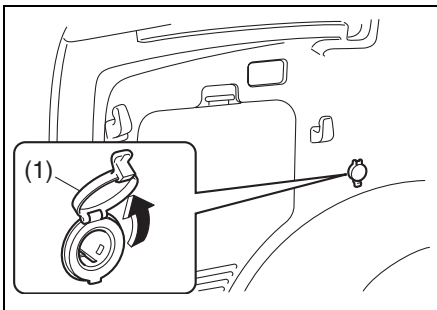
- エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに、電気製品の電源（規定容量12V 120W以下）として使用できます。
- 使用するときは、ふた（1）を開けます。

センターコンソール



65J5030

荷室



65J4022

⚠ 警告

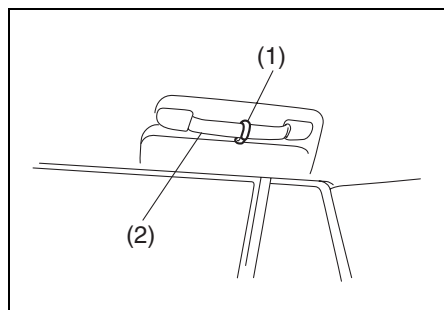
- 使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。
- 事故防止のため、スズキ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。

注 記

- 規定容量は、両方のソケット合計で120W までとなります。規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。
- エンジン停止中に長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。また、エンジンがかかっている状態でもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

コートフック

後席左右のアシストグリップについています。洋服など軽いものをかけるときにご使用ください。



65J179

- (1) コートフック
(2) アシストグリップ

5

⚠ 警告

SRS サイド／カーテンエアバッグ装備車の場合、フックにハンガーやとがったものをかけないでください。また、フックに服をかけるときは、ハンガーを使わずに直接服をかけてください。SRSカーテンエアバッグが作動したときに、正常にふくらまなかったり、ハンガーなどが飛散したりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

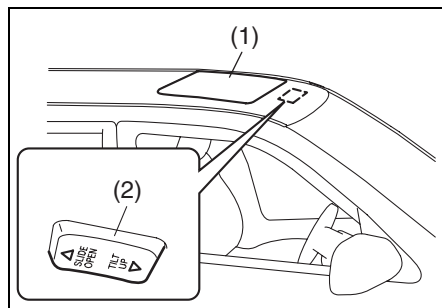
注 記

フックにかける物は、4kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

電動サンルーフ

限定車特別装備

エンジンスイッチが **ON** のときにサンルーフスイッチ (2) を操作すると、電動サンルーフ (1) の開閉 (スライド開閉またはチルトアップ／ダウン) ができます。



65J226

⚠ 警告

- 走行中や一時停止中に電動サンルーフの開口部から、手や頭などの身体や物を出さないでください。車外の物に当たったり、転落したり、急ブレーキ時に重大な傷害を受けたりするおそれがあります。



65J227

警告

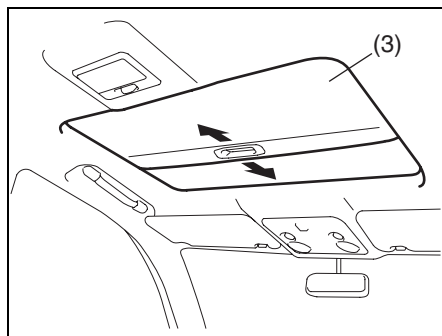
- 電動サンルーフは強い力で開閉します。閉めるときは手や頭などの身体をはさまないように注意してください。
- お子さまにはサンルーフスイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。

注記

- 電動サンルーフの開口部に腰をかけたり、ぶらさがったりしないでください。ルーフがへこんだり、装置が破損したりするおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車をするときは、電動サンルーフが完全に閉まっているか確認してください。また、電動サンルーフの上に水や雪がないことを確認してから開けてください。水や雪が室内に入って、インパネやコンソール、フロアカーペット下の電気部品などにかかると、故障の原因となります。
- 凍結時や降雪時には、無理に開閉操作をしないでください。装置が破損するおそれがあります。
- バッテリー保護のため、サンルーフスイッチの操作はエンジンがかかっているときに行なってください。

サンシェード（日よけ）の開閉

- サンシェードは手で開閉できます。ただし、電動サンルーフが後方ヘスライドしているときは、サンシェードを全閉にできません。
- 電動サンルーフを後方ヘスライドさせると、サンシェードも連動して開きます。ただし、電動サンルーフを前方ヘスライドさせても、サンシェードは連動して閉じません。



65J228

(3) サンシェード

電動サンルーフのスライド開閉（オート機構付）

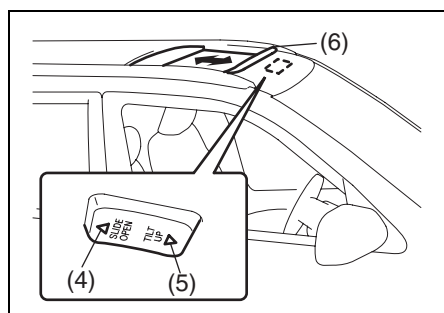
後方へスライドさせるときは、サンルーフスイッチの **SLIDE OPEN** 側 (4)（車の後ろ方向側）を押します。

前方へスライドさせるときは、サンルーフスイッチの **TILT UP** 側 (5)（車の前方側）を押します。

- サンルーフスイッチを押してすぐに手を離すと、少しだけスライドします。
- サンルーフスイッチを約 1 秒押すと、オート機構が作動し、スイッチから手を離しても自動で全開または全閉までスライドします。

途中で止めたいときは、スイッチ（**SLIDE OPEN** 側でも **TILT UP** 側でも可）を再度押します。

- チルトアップしている状態から後方へスライドさせるときは、サンルーフスイッチの **SLIDE OPEN** 側を押して一度完全にチルトダウンさせてから、再度 **SLIDE OPEN** 側を押し直す必要があります。



⚠️ アドバイス

電動サンルーフの開閉と連動して、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクター (6)（整流板）が作動します。

電動サンルーフのチルトアップ/ダウン（オート機構付）

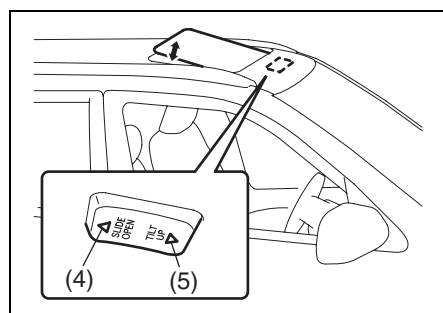
チルトアップするとき、サンルーフスイッチの **TILT UP** 側 (5)（車の前方側）を押します。

チルトダウンするとき、サンルーフスイッチの **SLIDE OPEN** 側 (4)（車の後ろ方向側）を押します。

- サンルーフスイッチを押してすぐに手を離すと、少しだけチルトします。
- サンルーフスイッチを約 1 秒押すと、オート機構が作動し、スイッチから手を離しても自動でチルトアップの全開またはチルトダウンの全閉になります。

途中で止めたいときは、スイッチ（**SLIDE OPEN** 側でも **TILT UP** 側でも可）を再度押します。

- スライドしている状態からチルトアップするとき、サンルーフスイッチの **TILT UP** 側を押して一度全閉（スライド方向）にしてから、再度 **TILT UP** 側を押し直す必要があります。



はさみ込み防止機構

電動サンルーフには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で前方へスライドさせているときに、異物をはさみ込むなどして電動サンルーフに一定以上の負荷がかかると、サンルーフの動く方向が反転し、大きく開いたあと停止します。(過負荷検知方式)
- はさみ込み防止機構は、チルトダウンしているときには作動しません。

⚠ 警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行ってください。

⚠ 注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。また、閉まり切る直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

🔧 アドバイス

- 電動サンルーフの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、サンルーフスイッチを押し続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中に電動サンルーフを自動で前方へスライドさせると、衝撃や荷重がサンルーフに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

オート機構の初期設定のしかた

バッテリー端子やヒューズ(7-17 ページ参照)を外すなどして、電動サンルーフシステムへの電源供給を一度絶てしまうと、オート機構が解除され、電動サンルーフの自動開閉ができなくなります。

この場合、次の手順でオート機構の初期設定を行なってください。

- 1 エンジンを始動します。
- 2 サンルーフスイッチの **TILT UP** 側(車の前方向側)を押し続け、完全にチルトアップします。
- 3 そのままスイッチを2秒以上押し続けます。
- 4 電動サンルーフが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順 ①～③ を実施しても電動サンルーフが自動開閉できない場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

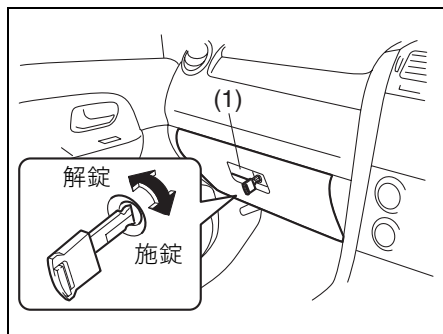
電動サンルーフが閉まらないとき

すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

グローブボックス

レバー (1) を手前に引いてふたを開けます。

- 施錠するときは、キーを差し込んで時計方向にまわしたままキーを抜きます。



- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

▲ 注意

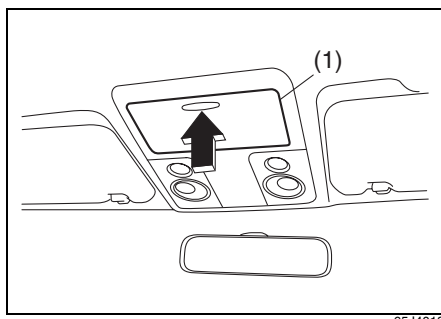
ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中の物が飛び出したりするおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール

タイプ別装備

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

- 開けるときは、ふた (1) の矢印部分を押しします。



- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

▲ 注意

- ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、中の物が飛び出すおそれがあります。
- コンソールに入れる物は、合計300g以下としてください。走行中の衝撃でふたが開いて、中の物が飛び出すおそれがあります。また、コンソール破損の原因となります。

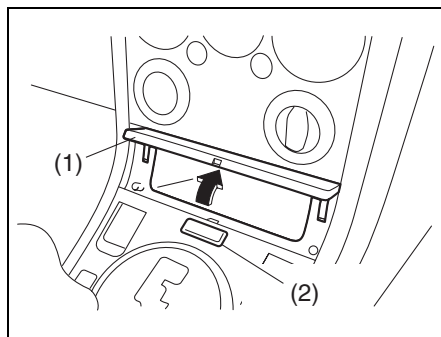
注 記

- 炎天下で駐車するときは、コンソール内などにプラスチック素材のメガネを放置しないでください。車内が高温になるため、メガネの変形、ひび割れを起こすおそれがあります。
→ 2-20ページ（ライターやメガネなどを放置しない）
- ふたを無理に閉めないでください。中の物やコンソールが破損するおそれがあります。
- メガネを収納するときは、ケースなどに入れてください。レンズに傷がつくおそれがあります。

リッド付インパネボックス

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

- オープナー(2)を押すとリッド(1)が開きます。



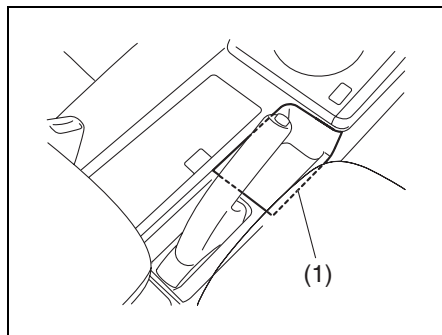
65J067

⚠ 警告

走行中に転がり落ちるような物を入れるときは、リッドを閉めてください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

センターコンソールトレイ

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



65J169

(1) センターコンソールトレイ

⚠ 警告

走行中に転がり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドリンクホルダー

缶ジュースやカップが置けます。

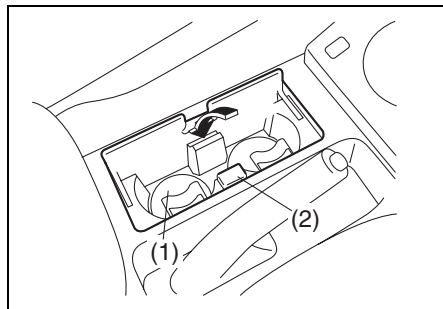
⚠ 警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物がオーディオ（別売り）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

5

前席側

使用するときは、オープナー（2）を押してふたを開けます。



65J068

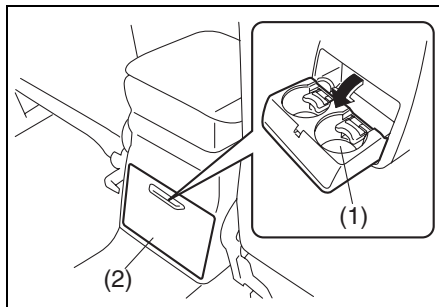
(1) ドリンクホルダー

(2) オープナー

- 使用後は、ふたを閉めておきます。

後席側

使用するときは、ふた（2）を手前に引きます。



65J069

(1) ドリンクホルダー

(2) ふた

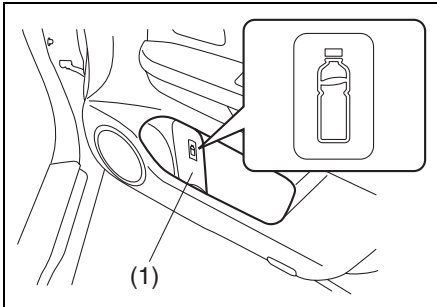
- 使用後は、ふたを閉めておきます。

⚠ 注意

缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがのおそれがあります。

フロントドアポケット

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



65J182

(1) ペットボトルホルダー

ペットボトルホルダー

ポケットの中にあります。

⚠ 警告

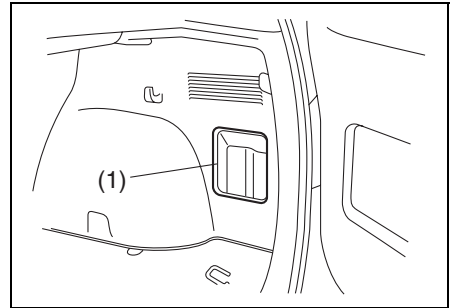
飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物がオーディオ（別売り）やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかる、火災や故障につながったり、SRS エアバックシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

🔧 アドバイス

ペットボトルの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

ラゲッジポケット

手回り品などの収納にご使用ください。

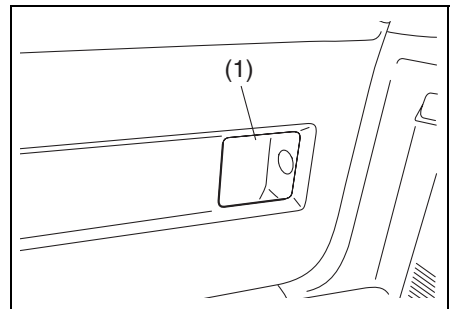


65J195

(1) ラゲッジポケット

バックドアポケット

手回り品などの収納にご使用ください。

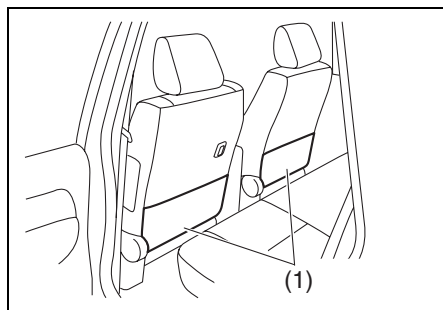


65J196

(1) バックドアポケット

シートバックポケット

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。

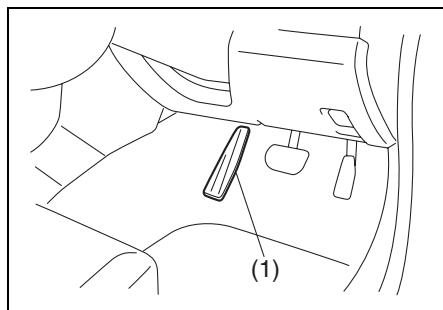


(1) シートバックポケット

5

フットレスト

左足のささえとして使用します。



(1) フットレスト

ショッピングフック

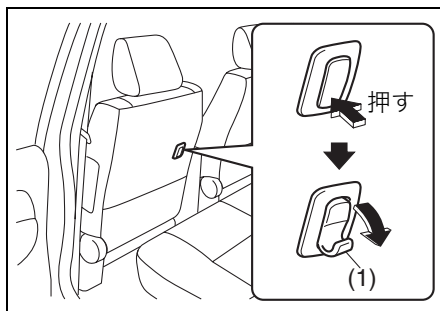
買い物袋などを引っかけるときにご使用ください。

注 記

フックにかける物は、3kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

助手席シートバック

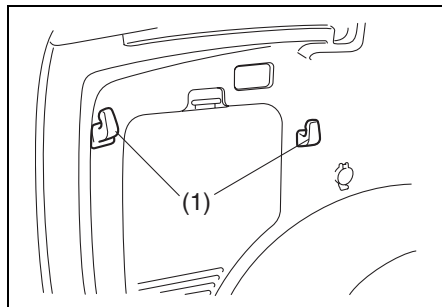
- 使用するときには、フック (1) の下部を押しながら回転させます。



- 使用後は、反転させてフックを格納します。

荷室

荷室の左右側面にフック (1) が計4個あります。



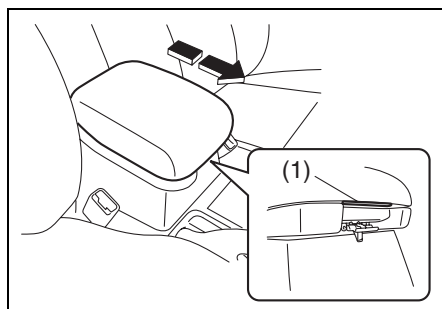
65J180

アームレスト (ひじ掛け)

フロントセンター

コンソールボックスの上にあります。

- レバー (1) を引き上げると、前方へ2段階動かします。
- 動かしたあとは、アームレストが固定されているか確認してください。



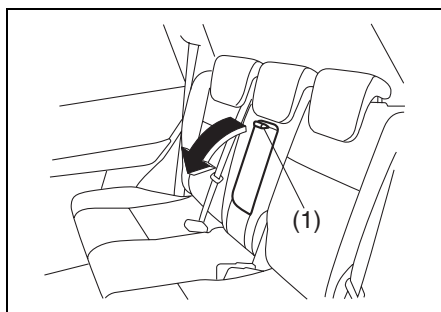
65J183

⚠ 注意

アームレストを後ろに動かすときは、レバーの奥に指を入れないでください。指をはさんでけがのおそれがあります。

後席

ストラップ (1) を引いて、手前に倒して使用します。

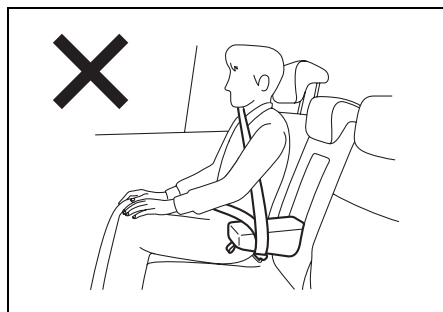


65J5031

- 使用後、またはお子さま用シートを取り付けるときにアームレストが当たる場合は、持ち上げて収納します。

⚠ 警告

シートベルトは、アームレストの下をとおしてください。アームレストにベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。



65J4007

注 記

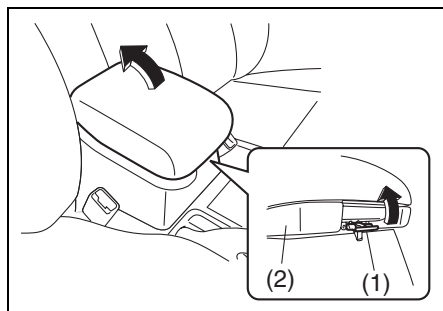
アームレストに腰をかけたり、荷物をのせたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

5

コンソールボックス

手回り品や小物などの収納にお使いください。

- 開けるときは、レバー（１）を引き上げたまま、ふた（２）を持ち上げます。



65J184

- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

ラゲッジシェルフ (荷室カバー)

後席の後ろにあります。

⚠ 注意

ラゲッジシェルフに物をのせないでください。後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキのときなどに物が飛び出して、身体に当たるおそれがあります。

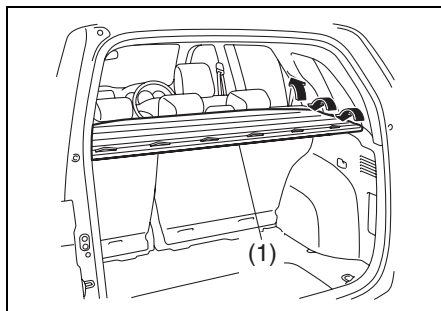
取り外しかた

- 1 取り外すときのさまたげにならないよう、後席の背もたれを一番起こした状態にします。

→ 3-28ページ

(背もたれの角度調節)

- 2 ラゲッジシェルフ（１）を折り目にそって前方へ3回折りたたみます。

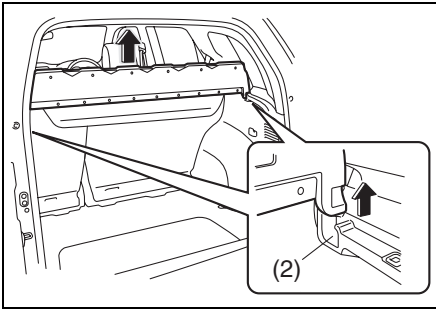


65J186

注 記

折り目にそって折りたたまないと、ラゲッジシェルフが内装と当たり、傷つきの原因となります。

- 3 ラゲッジシェルフを両手で持ち上げて、受け軸 (2) から外します。

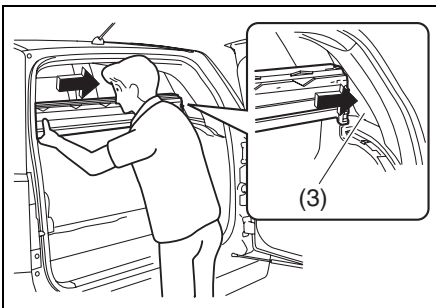


65J187

注意

取り外すときは、人や内装に当たらないように気をつけてください。

- 4 ラゲッジシェルフを運転席側のクォーターウィンドー (3) へよせます。

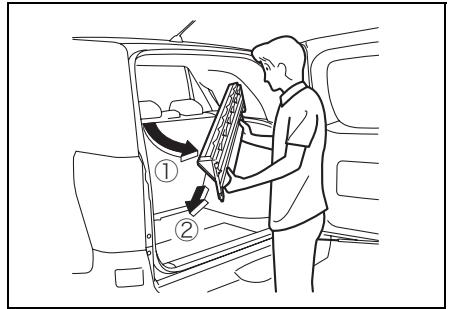


65J188

注記

クォーターウィンドーにラゲッジシェルフが当たらないように気をつけてください。ガラスが割れるおそれがあります。

- 5 ラゲッジシェルフの助手席側を内装に当たらないよう、斜めに下げながら手前に引き、ラゲッジシェルフを荷室から取り外します。

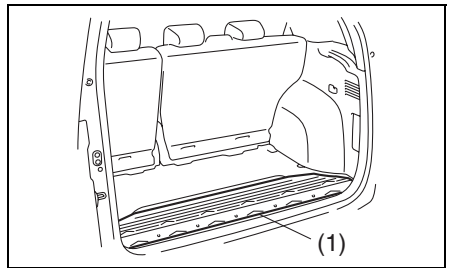


65J189

アドバイス

取り外したラゲッジシェルフ (1) は、次の図のように折りたたんで荷室に置くことができます。

5



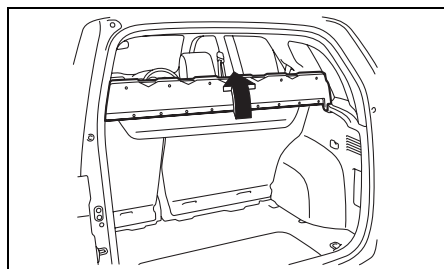
65J190

■ もとにもどすときは

「取り外しかた」と逆の手順で行ないます。

アドバイス

荷室から荷物などを取り出すときは、ラゲッジシェルフを起こすと、取り出しやすくなります。

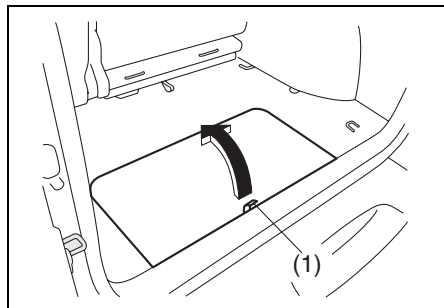


65J191

ラゲッジアンダーボックス

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

- 開けるときは、ふたのストラップ (1) を引き上げます。



65J193

- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

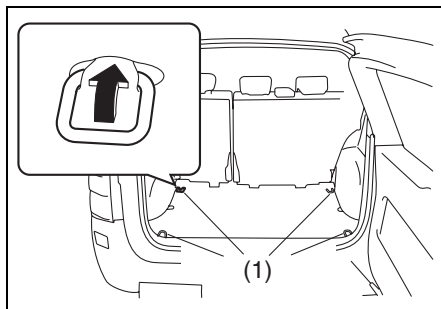
注 記

ふたを無理に閉めないでください。中の物やふたが破損するおそれがあります。

ラゲッジフック

荷室の床面に4個あります。

- ラッシングベルト (別売り) などがかかるときに使います。



65J194

(1) ラゲッジフック

- 使用後は、フックを倒しておきます。

注 記

フックは、ラッシングベルトなどで軽い物を固定するときに使ってください。

ルーフ

スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は 30kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取付けおよび使用上の注意については、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

注 記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

ルーフモールカバー

タイプ別装備

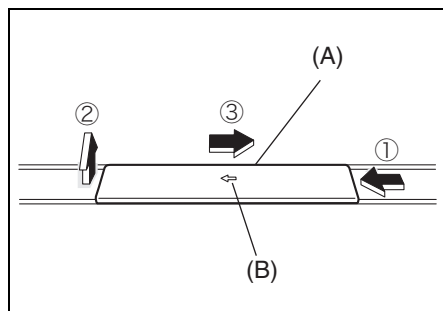
ルーフの左右にあるルーフモールカバー（計4個）を外すと、別売りのベースキャリアを固定するためのブラケットがあります。

注 記

手順以外の方法で外したり、もとにもどしたりすると、カバーが破損するおそれがあります。

■ 外しかた

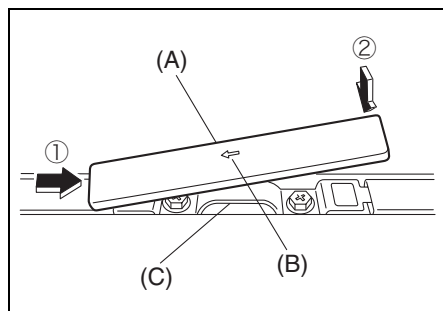
カバー（A）の右端を矢印（B）の方向に押しながら、カバーの左端をつまみ上げます。（①、②）
つまみ上げたカバーを矢印と反対方向にスライドさせると外れます。（③）



65J028

■ もとにもどすときは

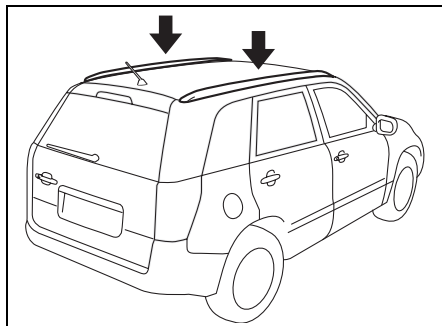
カバー（A）の左側のツメだけをブラケット（C）の穴にはめます。
カバーの左端を矢印（B）の反対方向に押しながら、右側のツメをブラケットの穴にはめ込みます。（①、②）



65J115

ルーフレール

限定車特別装備



65J5032

ルーフレールに別売りのベースキャリアおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーや自転車などの荷物が積めます。

6. お車との上手なつきあいかた

● お手入れ

外装のお手入れ	6-2
内装のお手入れ	6-4
タイヤの交換	6-6
携帯リモコンの電池交換	6-7

● 寒冷時の取扱い

冬期に入る前の準備	6-8
出発の前に	6-9
雪道を走行するとき	6-10
駐車するとき	6-11
タイヤチェーンを装着するとき	6-13

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
 - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
 - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールトールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
 - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に1回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明に従ってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

▲ 注意

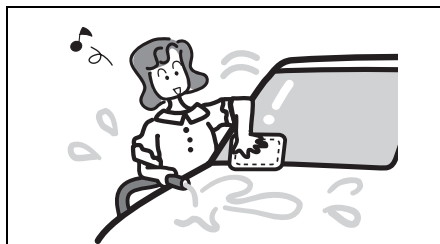
- 車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。
- 洗車したあとはブレーキの効きが悪くなる場合があります。
→ 2-16ページ
(水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認)

注 記

エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするときは

- 1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。
- 2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。
- 3 柔らかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- ドアミラーを格納し、アンテナを取り外してください。洗車機に引っかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。
- ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機に引っかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。
- 自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

- 洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。
- 洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。

ガラスの手入れ

■ フロントウインドーガラス

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

■ 前席ドアガラス（撥水機能付き）

運転席および助手席ドアの外側ガラス面には撥水膜があり、雨天時などに付着した水滴をはじき、見やすい視界を確保します。

また、汚れや氷がつきにくく、付着しても取れやすくなっています。

手入れのしかた

6-2 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

注 記

撥水機能付きガラスは消耗品です。車両の使用状況によっては、手入れを行っても、水滴のはじきが回復しない場合があります。撥水効果の持続およびガラスの傷つき防止のため、次のことをお守りください。

- コンパウンド入りのケミカル用品（ワックス、油膜取り剤、ガラスクリーナーなど）は使わないでください。
- 鳥のふんなどが付着したときは、すみやかに取り除いてください。
- 泥や砂などで汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、ウインドーを開閉してください。

親水機能付きドアミラーの手入れ

ドアミラーの鏡面には親水膜があり、雨天時などに付着した水滴を膜状に拡散し、見やすい視界を確保します。

■ 手入れのしかた

6-2 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

- 洗車後は、日当たりのよい場所にしばらく駐車し、鏡面に太陽の光を当ててください。光触媒作用で鏡面の微細な汚れが自動浄化され、親水効果が回復します。
- 次のような場合、一時的に親水効果が低下しますので、手入れを行なってください。
 - シリコン入りのケミカル用品（ワックス、油膜取り剤、ガラスクリーナー、撥水剤など）が付着したとき
 - 鏡面を素手でさわったり、油脂類が付着した布でふき取ったりしたとき
 - 長時間、地下駐車場などの日の当たらない場所に駐車したとき

注 記

親水効果の持続および鏡面の傷つき防止のため、次のことをお守りください。

- コンパウンド入りのケミカル用品（ワックス、油膜取り剤、ガラスクリーナーなど）は使わないでください。
- 鏡面が凍結しているときは、プラスチックの板などで削り落とさないでください。ドアミラーヒーターを動作させるか、ぬるま湯をかけて、氷を溶かしてください。

- 鏡面を水道水で洗ったあとは、ドアミラーヒーターやドライヤーなどで強制乾燥させないでください。水道水のカルキ成分が焼き付くと、鏡面の親水膜が損傷し、親水機能を失うおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

6-2 ページの「手洗い洗車をするときは」をお読みください。

注 記

- 酸性、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼった柔らかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーや柔らかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠ 警告

車内に水などをかけないでください。
オーディオ（別売り）やスイッチ類、
フロア下の配線や電気部品などにかか
ると、火災や故障につながったり、
SRS エアバッグシステムが正常に作
動しなくなったりするおそれがありま
す。

注 記

- 次のような成分が含まれているケミ
カル用品は使用しないでください。
しみ、変色、変形、強度低下などの
原因となります。
 - ・ ベンジン、ガソリン、シンナー、
ステッカーはがし剤などの溶剤
 - ・ 酸性、アルカリ性の洗剤
 - ・ 漂白剤や染料
- 色物の革製品・毛皮・ビニールなど
を長時間、放置しないでください。
内装の変色や変質の原因となります。

🔧 アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を
固定するか、固形タイプのもののご使
用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂 部品などの手入れ

- 1 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽
く含ませ、汚れをふき取ります。
- 2 真水を含ませた柔らかい布で、残っ
た洗剤分をふき取ります。
- 3 残った水分をふき取り、風通しの良
い日陰で乾燥させます。

バックウインドーガラスの室 内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含
ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいて
ください。

ラックススエード®（限定車特 別装備）の手入れ

ぬるま湯を固くしぼった柔らかい布で汚
れをふき取り、風通しのよい日陰で乾燥
させます。

注 記

洗剤（とくに原液）の使用はできるだ
け避けてください。洗剤分のふき取り
が不十分な場合、ラックススエード®
（※）の素材強度が低下し、変質する
おそれがあります。
※ラックススエードは、セーレン株式
会社の登録商標です。

🔧 アドバイス

- ラックススエード® とはシート表皮
のひとつで、セーレン株式会社の起
毛調人工皮革のことです。
- ラックススエード® 部分は、パンチ
ング（穴あけ）加工が施されていま
す。

タイヤの交換

タイヤのローテーション

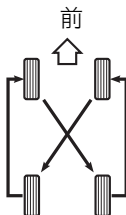
タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約 **5,000km** 走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、スペアタイヤ（市販品）などを使用して1輪ずつ交換します。

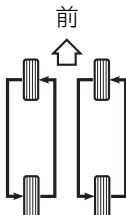
→ **7-10ページ（ジャッキアップ）**

- タイヤパンク応急修理セット装備車には、応急用スペアタイヤが装備されていないため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

回転方向指定のないタイヤ



回転方向指定のあるタイヤ



65J198

⚠ 注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

📌 アドバイス

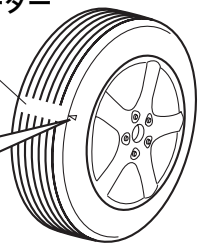
回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、他のタイヤと交換してください。

ウェアインジケーター
（摩耗限度表示）

△
ウェアインジ
ケーター位置
を示すマーク



80J306

⚠ 警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です）

- ABS および ESP®（タイプ別装備）の場合、正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。
- 4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

携帯リモコンの電池交換

⚠ 警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないように注意してください。

注 記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 濡れた手で電池交換をしない
- 電池以外の端子や電子部品に触れない
- 端子を曲げない
- 油や異物を付着させない

🔧 アドバイス

- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

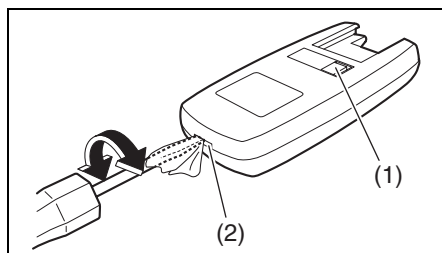
使用電池	リチウム電池CR2032
------	--------------

1 携帯リモコンからキーを取り出します。

→ 3-2ページ（キー）

2 携帯リモコンのケースを分割します。

- ケースは、ロック解除レバー（1）側を上 に します。（内部ユニットの落下防止のため）
- 傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。リモコンの側面にある溝（2）へ差し込み、ケースを分割します。



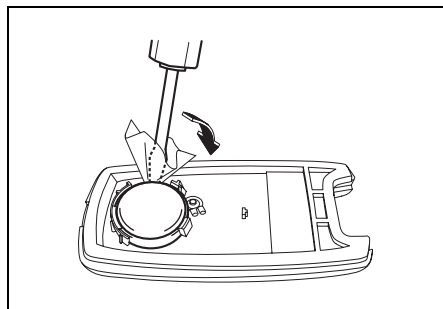
65J378

注 記

- ケースを分割するときは、ロック解除レバー（1）側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。
- ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。

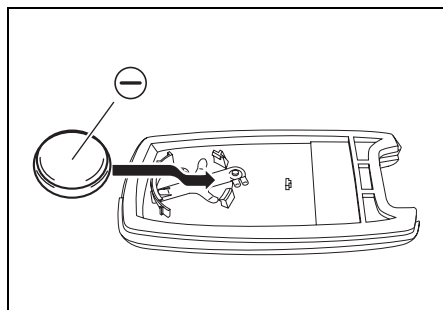
3 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。



65J379

- 電池は、一極を上にして取り付けます。



65J380

4 ケースを組み付けます。

- ケースの合わせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

5 キーを格納します。

6 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通 常	原液1に水3	約-7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約-50℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を確認してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ 2-3ページ

(バッテリーの液面を点検する)

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ 8-1ページ (サービスデータ)

→ メンテナンスノート (日常点検)

⚠️ アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード (別売り)

スノーブレード (降雪地用ワイパーブレード) は、金属部分をゴムでおおって雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなる場合がありますので、必要に応じて交換してください。

▲ 注意

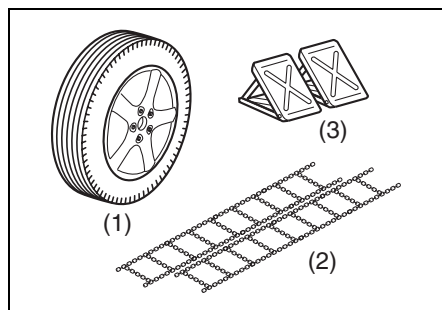
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなる場合があります。その場合には、車のスピードを落としてください。

🔊 アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



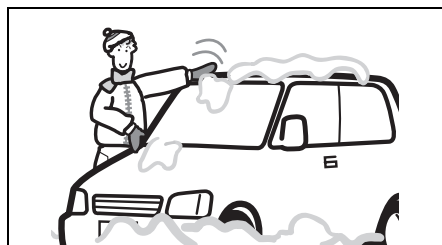
(1) 冬用タイヤ
(3) 輪止め

(2) タイヤチェーン

出発の前に

屋根に積もった雪

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



80J308

ワイパーの凍結

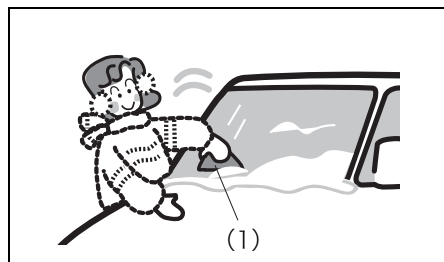
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部 (ゴムの部分) が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



80J309

ガラス面の雪や霜

プラスチックの板 (1) を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



80J310

靴に付着した雪

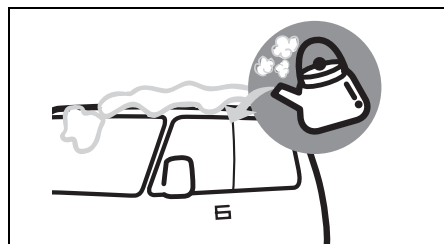
乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



80J312

ドアの凍結

ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



80J311

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠ 注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。

× 急発進
急加速
急ブレーキ
急ハンドル
急激なエンジンブレーキ



80J039

アドバイス

オートマチック車 の場合、走行モードの切替え操作をして、雪道発進モードにすることができます。

→ 4-13ページ
(走行モードの切替え操作)

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効が悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
→ 6-6ページ
(タイヤ交換するときは)
→ 6-13 ページ (タイヤチェーンを装着するとき)

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
 - オートマチック車 はセレクトレバーを **[P]** に入れます。
 - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

⚠ 警告

駐車中は、駆動状態を (N) (ニュートラル) にしないでください。

- **オートマチック車** は、セレクトレバーを **[P]** に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

- **マニュアル車** は、チェンジレバーを R または 1 速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあります。

→ 4-22ページ

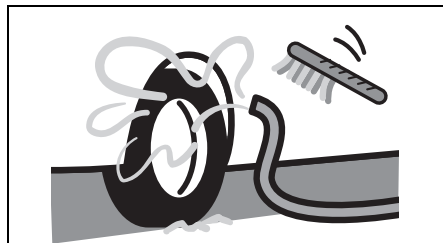
(4WDモードの切替え操作)

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。

凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

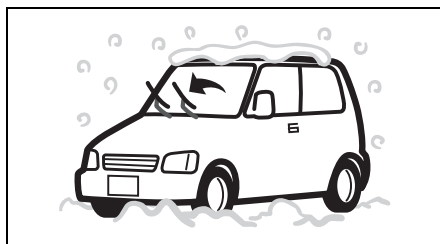


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
→ 5-10ページ (アンテナの脱着)
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部 (ゴムの部分) がガラスに凍結したりすることがあります。



80J315

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



80J316

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

警告

- 適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

注意

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30km/h以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。
- ABS および ESP®（タイプ別装備）の場合、タイヤチェーンを装着すると正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、正常に作動しない場合があります。

注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは後輪に装着

この車は後輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪には装着しないでください。

■ 応急用スペアタイヤ（市販品）には装着できません

後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪につけ、外した前輪の標準タイヤを後輪につけてから、タイヤチェーンを後輪に装着します。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-9 ページの「タイヤ交換の準備」の①、②をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

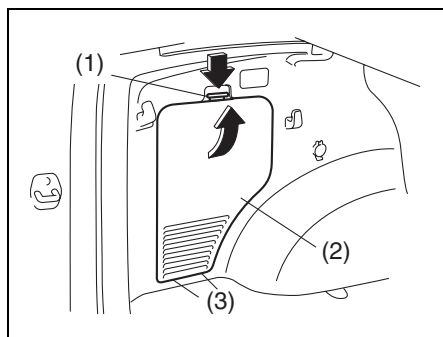
7. 万ーのとき

- パンク 7-2
- バッテリーあがり 7-14
- ヒューズ切れ 7-17
- 電球切れ 7-21
- オーバーヒート 7-28
- その他 7-29

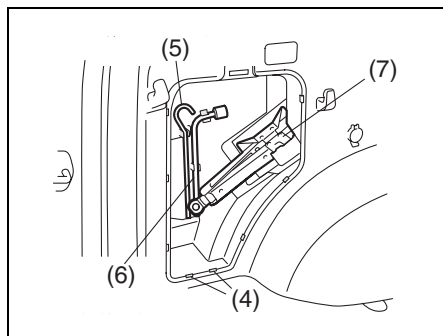
工具、ジャッキの収納場所

荷室左側に収納されています。

- 取り出すときは、レバー (1) を押してふた (2) を外します。
- 収納したあとは、ふたのツメ (3) を穴 (4) にはめてから、ふたを閉めます。



65J202



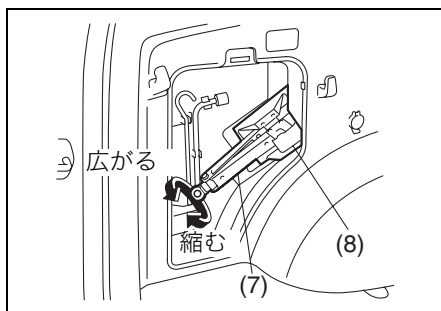
65J203

- (5) ジャッキバー
(6) ホイールナットレンチ
(7) ジャッキ

- 使用後は、所定の位置に収納し、しっかり固定してください。

ジャッキの取り出しかた

- ジャッキを縮めて取り出します。縮めにくいときは、ジャッキバーを使ってください。
- 収納するときは、ジャッキホルダー (8) におさめてからジャッキを広げ、しっかり固定します。



65J206

- (7) ジャッキ (8) ジャッキホルダー

注 記

収納するときに、ジャッキバーなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダーが変形するおそれがあります。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理セットをお使いください。

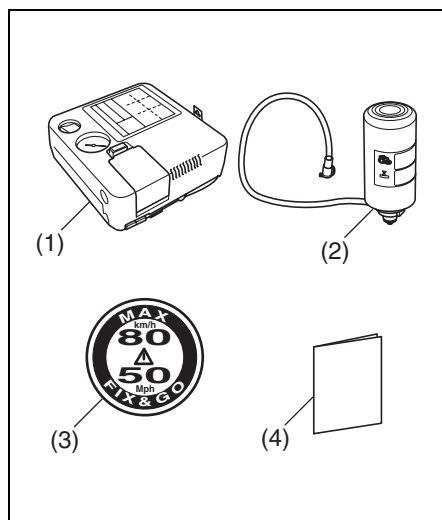
タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにスズキサービス工場で修理または交換してください。

- タイヤパンク応急修理セットは、ラゲッジアンダーボックスに収納されています。

→ 5-32ページ

(ラゲッジアンダーボックス)



65J5042

- (1) エアコンプレッサー
- (2) 修理剤ボトル
- (3) 速度制限シール(※)
- (4) セット付属の取扱説明書

※ 速度制限シールは、修理剤ボトルの底面に貼付されています。

⚠ 注意

- 応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。

注 記

- エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。その他の目的で使用しないでください。
- エアコンプレッサーはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ 10分以上連続して使用しない
 - ・ 防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする
 - ・ 砂やほこりなどを吸い込ませない
 - ・ 使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する
 - ・ 分解、改造などをしていない
 - ・ 強い衝撃や圧力を加えない

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
 - 期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
 - エンジンスイッチを **[ACC]** にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

タイヤの応急修理のしかた

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

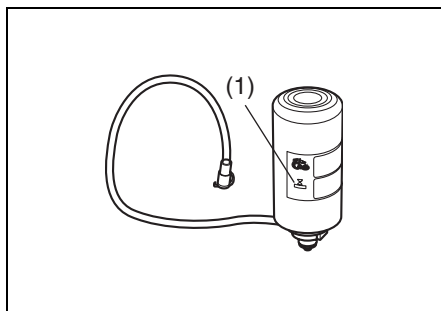
注 記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合はタイヤの応急修理ができません

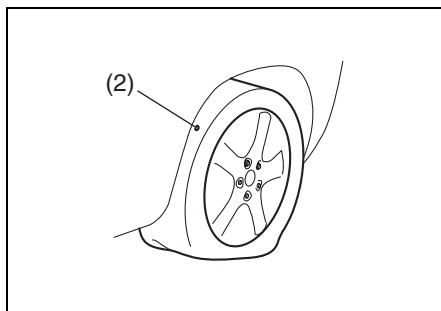
スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。（別冊の「スズキ 4 輪車サービスネットワーク」参照）

- 応急修理剤の有効期限（1）が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）



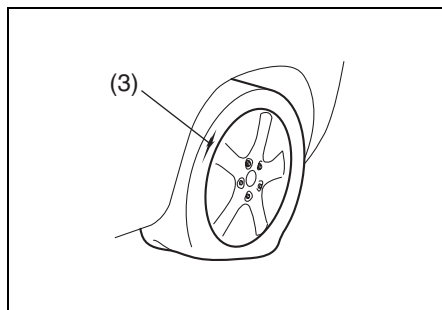
65J5043

- 上図のボトルは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- タイヤの接地面に長さ 4mm 以上の切り傷や刺し傷（2）がある



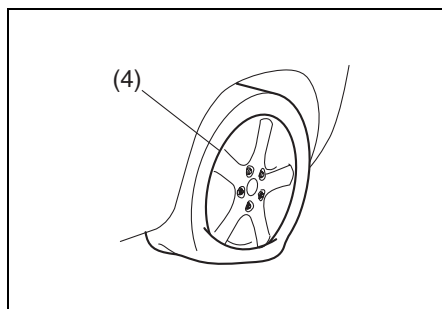
71LN0707

- タイヤの側面に傷 (3) を受けている



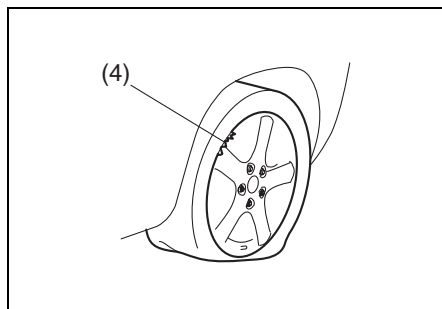
71LN0708

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム (4) の外側へ完全に外れている



71LN0709

- ホイールリム (4) が破損または変形している



71LN0710

- タイヤが2本以上パンクしている (修理剤はタイヤ1本分です)

■ タイヤ応急修理のしかた

1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

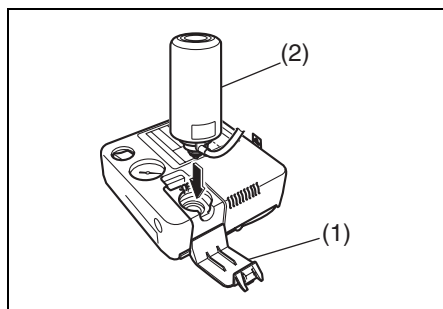
- **オートマチック車** はセレクトレバーを **[P]** に入れ、エンジンを止めます。
- **マニュアル車** はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

必要に応じて、停止表示板 (別売り) を置きます。

3 同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出します。

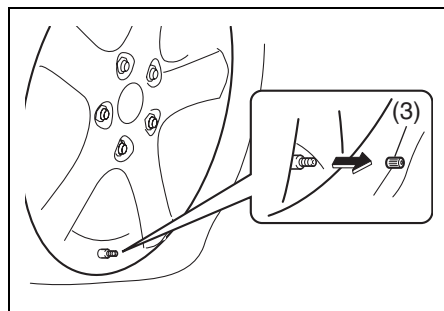
4 エアコンプレッサーを地面に置き、ふた (1) を開けて修理剤ボトル (2) を取りつけます。

- カチッという音がするまでしっかりと差し込んでください。



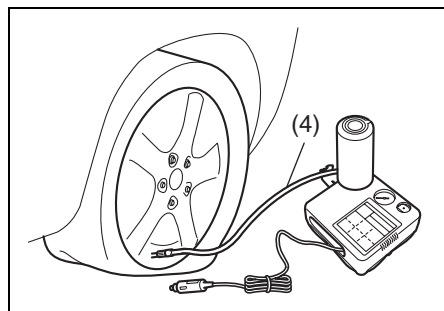
65J5044

- 5 タイヤバルブからキャップ (3) を反時計方向にまわして外します。



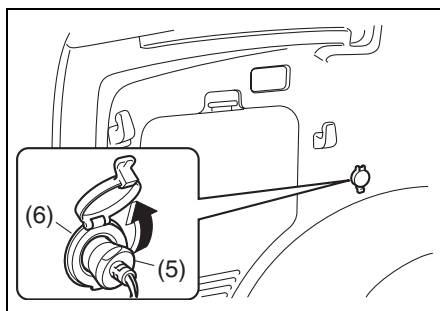
65J5045

- 6 修理剤ボトルのホース (4) 先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



65J5046

- 7 エアコンプレッサーのスイッチが OFF (○側) になっていることを確認します。電源プラグ (5) をアクセサリースOCKET (6) に差し込み、エンジンスイッチを **ACC** にします。



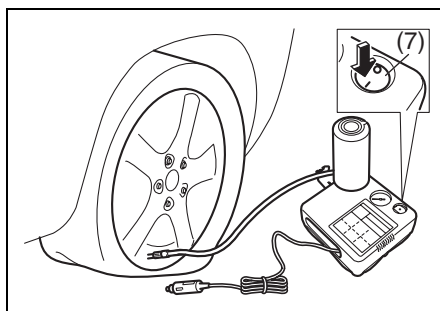
65J5047

- アクセサリースOCKETは、センターコンソールにもあります。

→ 5-19ページ

(アクセサリースOCKET)

- 8 エアコンプレッサーのスイッチ (7) を ON (I 側) にし、修理剤とともに空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



65J5048

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）
- 指定空気圧まで昇圧するには、約10分程度が必要です。10分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、修理剤ボトルのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

注意

- コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万ーバーストなどした場合に、けがのおそれがあります。
- タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。

注記

- コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
- コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

アドバイス

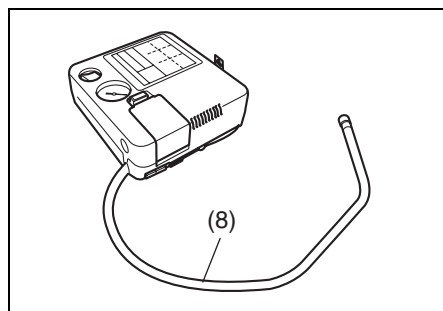
タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

- 9 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、応急修理セットを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

→ 7-8ページ

(修理剤ボトルの収納のしかた)

- 10 約10分間または5km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130kPa (1.3kgf/cm²) 以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。



65J5049

- タイヤ空気圧を測定するときは、コンプレッサー底面に収納されている空気注入用ホース (8) 先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチをON (I 側) にしたあと、すぐにスイッチをOFF (O 側) にして空気圧を確認します。

- 走行後、タイヤ空気圧が 130kPa 未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。

⚠ 注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

- 11 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して 80km/h 以下の速度で走行してください。



65J5050

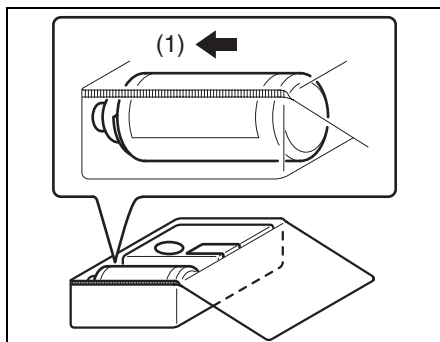
⚠ 警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- SRS エアバッグの収納部。万ーのときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。
- 警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置

修理剤ボトルの収納のしかた

下図に示す方向でバッグに収納してください。



65J5054

(1) ホース取り付け方向

注 記

修理剤ボトルは、バッグの開口面にホース取り付け方向が向くように収納してください。反対方向に収納すると、ブレーキや加速、衝突のときなどに、バッグが破損したり、ボトル内の修理剤が漏れ出たりするおそれがあります。

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキサービス工場で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。

- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

タイヤ交換の準備

スペアタイヤ（市販品）が準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

→ **7-3 ページ（タイヤパンク応急修理セット）**

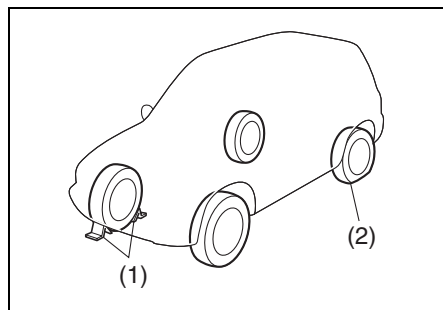
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- **オートマチック車** はセレクトレバーを **[P]** に入れ、エンジンを止めます。
- **マニュアル車** はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

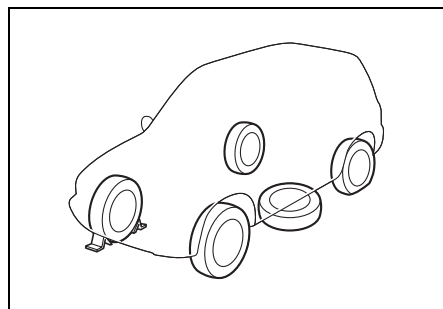
3 交換するタイヤ（2）と対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（1）（市販品）を置きます。



65J074

4 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。

- 万ージャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出したスペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。

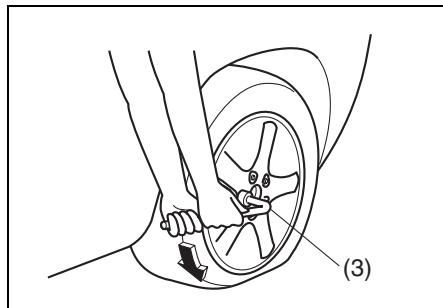


65J075

アドバイス

スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にとすると傷つきにくくなります。

- 5 ホイールナットレンチ (3) を使用して、ホイールナット5個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



65J390

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を〔N〕以外にしてください。
→ 4-22ページ
(4WDモードの切替え操作)
- オートマチック車 はセレクトレバーを〔P〕に入れ、エンジンを止めてください。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。

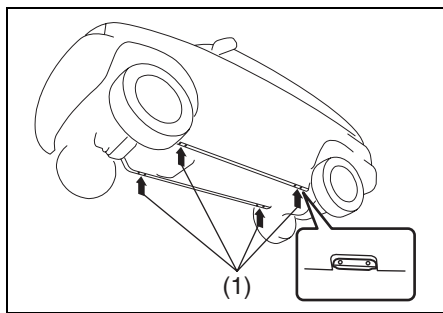
警告

万ージャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

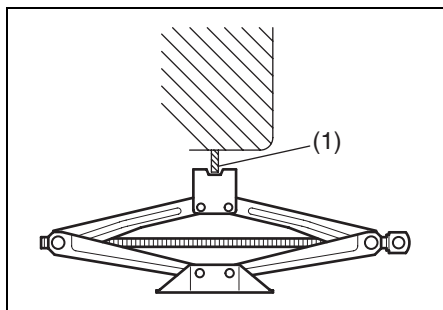
- 地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。
- ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。
- ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。
- ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。
- ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。
- ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。
- ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- 複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。

- 1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置(1)に軽く接触させます。

- 2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置(1)にはまっているか確認します。



64J194

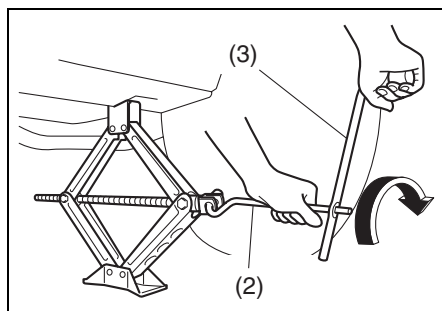


65J287

- 3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。(次の図参照)

- ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

- 4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



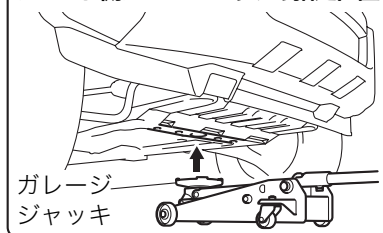
65J219

- (2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

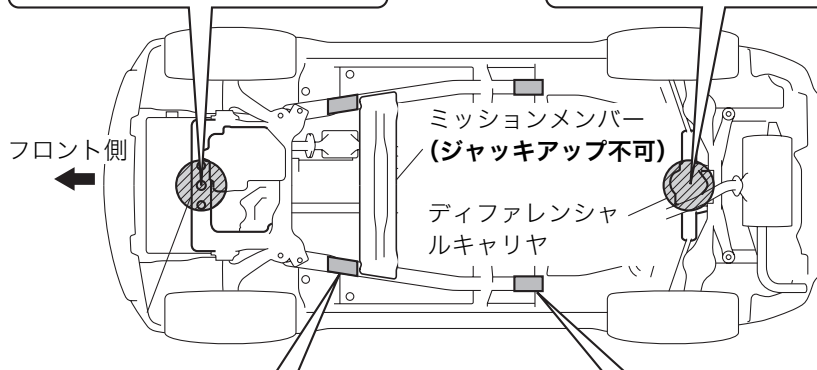
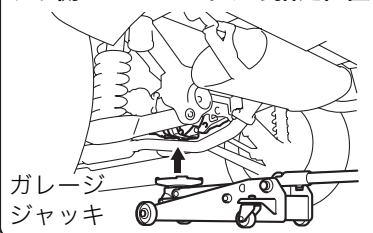
ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を下図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

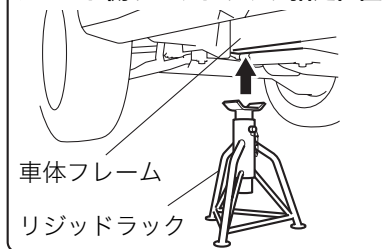
フロント側ガレージジャッキ指定位置



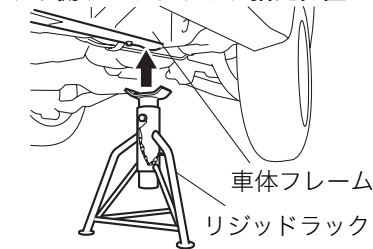
リヤ側ガレージジャッキ指定位置



フロント側リジッドラック指定位置



リヤ側リジッドラック指定位置



● ガレージジャッキ指定位置 ■ リジッドラック指定位置

65J5034

⚠ 警告

- 必ず図に示す指定位置を守ってください。
- ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。
- フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。

タイヤの取付け・取外し

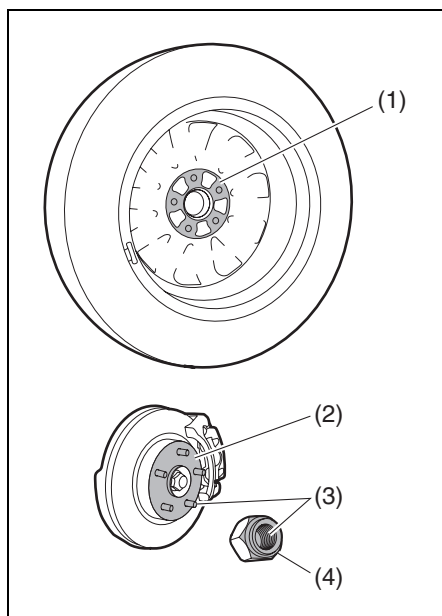
- 1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

⚠️ アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にするとう傷つきにくくなります。

- 2 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取付け面 (1)
- 車体側の取付け面 (ハブ面) (2)
- ボルトやホイールナットのねじ部 (3)
- ホイールナットのテーパ面 (4)
- ホイール穴のテーパ面 (5)



65J4033

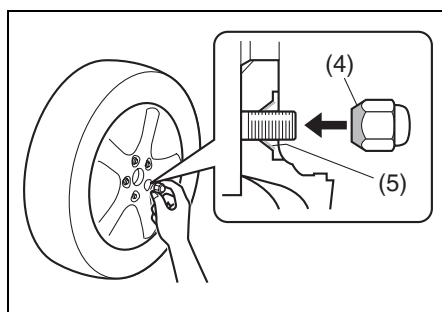
●上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。

- このとき、ボルトやナットのねじ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠️ 警告

- 前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
- ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

- 3 ホイールナットのテーパ面 (4) が、ホイール穴のテーパ面 (5) に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

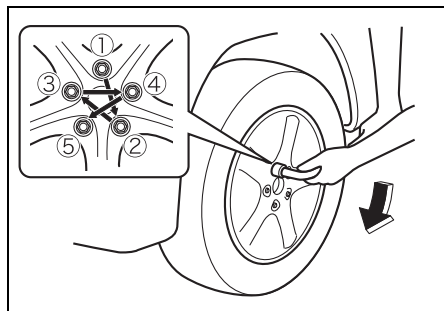


65J4031

- 4 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。
- 5 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：100N・m
(1020kgf・cm)

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は390N (40kgf)を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



80J1224

⚠ 警告

- ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。
- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締め過ぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

🔧 アドバイス

規定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。さらに、交換後から1,000 km 程度走行したあとに、ゆるみがないか再び点検してください。

⚠ 警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

バッテリーあがりとは

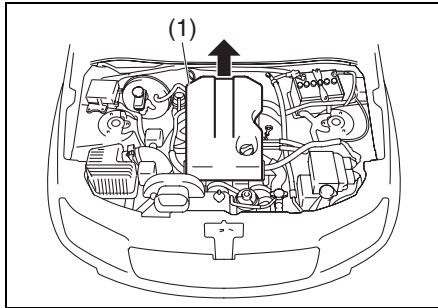
次のようなときは、バッテリーがあがっています。

- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12Vバッテリーを使用している他のバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

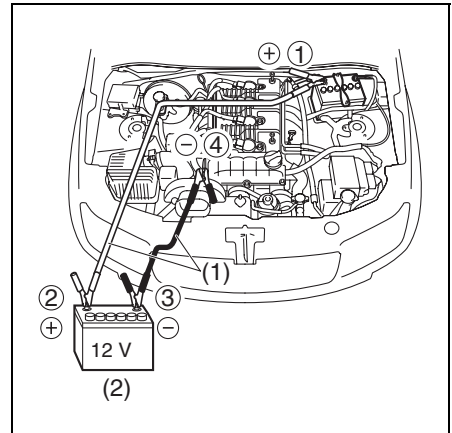
- 1 エンジンカバー (1) を外します。



65J4024

- 2 1 本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続し、2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

- ①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
- ②バッテリー正常車の ⊕ 端子
- ③バッテリー正常車の ⊖ 端子
- ④バッテリーあがり車のエンジン本体 (エンジンハンガーフックなど)



65J4025

- (1) ブースターケーブル
- (2) 正常車のバッテリー

- ①～④の数字は、ブースターケーブルを接続する順序を表しています。

- 3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

- 4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

- 5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

- 6 エンジンカバーをもとにもどします。

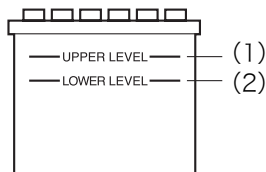
- 7 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠ 警告

●バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。

- バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限(2)以下のままで充電などすると、バッテリーの発熱や爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

バッテリー補充液を上限(1)まで補給してから、充電などを行ってください。



80J017

- 充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行ってください。
- ④の接続のときに、バッテリーがあがった車の $\ominus$ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。

- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

- ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ファンベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
- ショート防止のため、ブースターケーブルの $\oplus$ 端子は、バッテリーの $\oplus$ 端子以外の部分 ($\ominus$ 端子、ボデー、ブラケットなど) と接触させないでください。
- オートマチック車 は押しがけできません。マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。

バッテリーあがりを防ぐためには

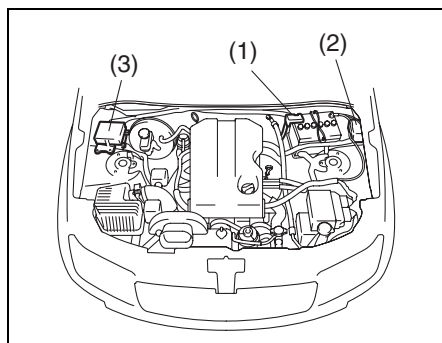
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ラジオなどを聞いたりしないようにしましょう。
 - 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
- 2-3ページ
(バッテリーの液面を点検する)

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズはエンジンルーム内と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

エンジンルーム内のヒューズ

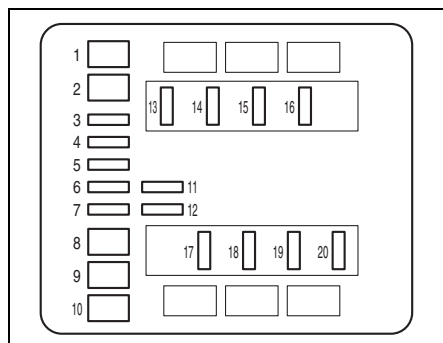


65J078

- (1) メインヒューズボックス
(2) ヒューズボックス No. 1
(3) ヒューズボックス No. 2

■ ヒューズボックスNo. 2内のヒューズ

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。



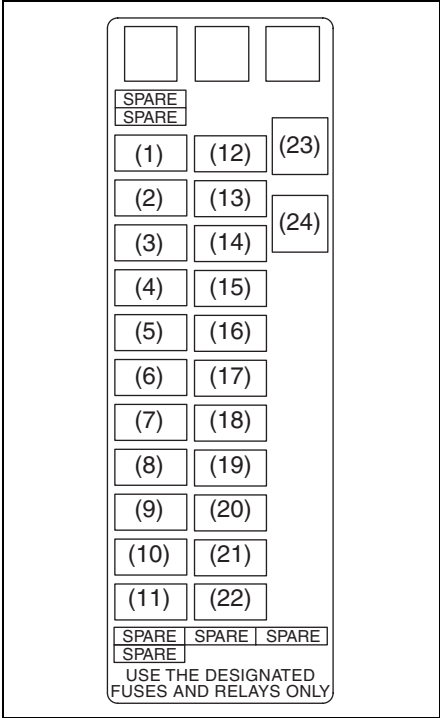
65J223

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	IGN	40A	始動装置
2	ST	40A	スターター
3	H/L	10A	ヘッドライト
4	H/L R	10A	ヘッドライト 上向き (右)
5	H/L L	10A	ヘッドライト 上向き (左)
6	DEICER	15A	デアイサー
7	FI	20A	燃料噴射装置
8	ABS1	50A	ABS
9	ABS2	30A	ABS
10	FR BLW	40A	フロント ブローワー
11	H/L LO R	15A	ヘッドライト 下向き (右)
12	H/L LO L	15A	ヘッドライト 下向き (左)

万-のとき/ヒューズ切れ

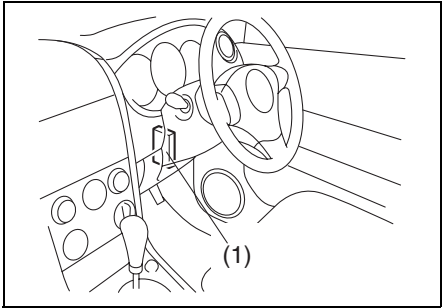
位置	表示	容量	接続先名称
13	MRR HTR	20A	ドアミラー ヒーター
14	FR FOG	20A	フロント フォグランプ
15	HORN	15A	ホーン
16	RR DEF	25A	リヤ デフォッガー
17	AT	20A	AT
18	THR MOT	15A	スロットル モーター
19	O2 HTR	20A	O ₂ センサー ヒーター
20	CPRSR	15A	コンプレッサー



65J080

運転席足元のヒューズ

7



65J079

(1) 運転席足元のヒューズ

- ヒューズの表は、ヒューズの近くにあります。

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	注1) DOME	10A	室内灯
2	STOP	10A	制動灯
3	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
4	ACC 3	15A	アクセサリースocket
5	CRUISE	10A	クルーズコントロール
6	ACC 2	15A	アクセサリースocket
7	WIP	20A	ワイパー
8	IG2 SIG	15A	シートヒーター
9	BACK	10A	後退灯
10	ABS/ESP	10A	ABS/ESP®
11	A/B	10A	エアバッグ
12	RADIO	15A	ラジオ
13	HAZ	15A	非常点滅表示灯
14	ST SIG	7.5A	スターター
15	ECM	10A	エンジンコントロールモジュール
16	注3) S/R	25A	サンルーフ
17	B/U	25A	バックアップ
18	TAIL	10A	尾灯

位置	表示	容量	接続先名称
19	D/L	20A	ドアロック
20	ACC	15A	ドアミラー
21	METER	10A	メーター
22	IG COIL	15A	イグニッションコイル
23	注2) P/W T	20A	パワーウィンドータイマー機能
24	P/W	30A	パワーウィンドー

注1) ESP® 装備車の場合、DOME ヒューズを外したり交換したりしたときは、ESP® の初期設定を行なってください。

→ **4-38 ページ (ESP® の初期設定が必要なとき)**

注2) P/WT のヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。

→ **3-20 ページ (はさみ込み防止機構の初期設定のしかた)**

注3) 電動サンルーフ装備車の場合、S/R のヒューズを外したり交換したりしたときは、オート機構の初期設定を行なってください。

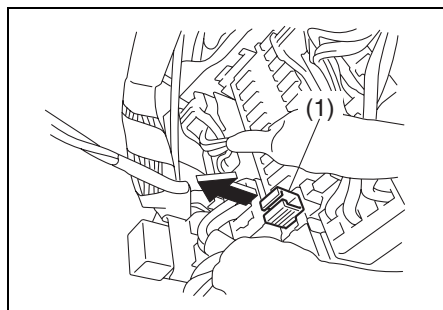
→ **5-23 ページ (オート機構の初期設定のしかた)**

ヒューズの点検と交換

点検・交換のしかた

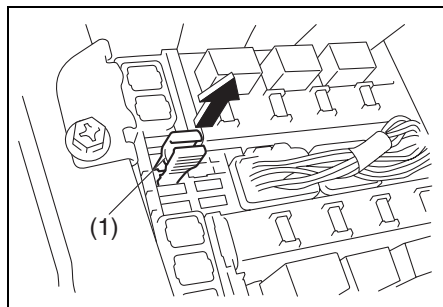
1 エンジンスイッチを **LOCK** にします。

2 運転席足元の、ヒューズボックスにあるヒューズ抜き (1) を取り出します。



65J081

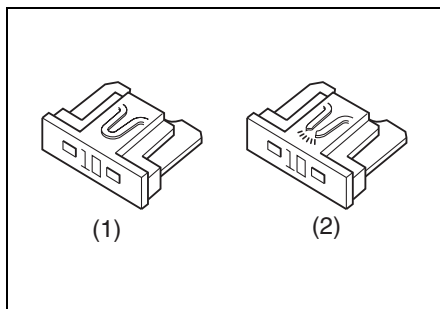
3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズボックスの表で確認します。ヒューズ抜き (1) をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。



65J082

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場での点検を受けてください。



65J083

(1) 正常なヒューズの例

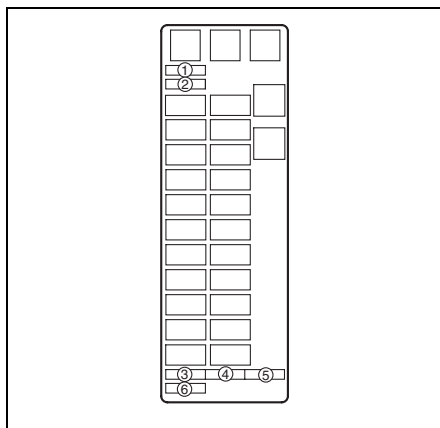
(2) 切れたヒューズの例

- ヒューズを点検または交換したあとは、ヒューズ抜きを所定の位置に収納してください。

■ 予備ヒューズ

運転席足元のヒューズボックスにあります。

- 予備ヒューズにないサイズや容量のヒューズを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



65J084

位置	容量	頭部の着色	個数
①	7.5A	茶色透明	1
②	10A	赤色透明	1
③	30A	緑色透明	1
④	20A	黄色透明	1
⑤	25A	白色透明	1
⑥	15A	青色透明	1

警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯は他の人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもると同じ現象です）

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ (8-3ページ) をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- 安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。
- 電球が十分に冷えてから行なってください。消灯直後は熱くなるため、やけどのおそれがあります。とくにハロゲン電球 (ヘッドライトやフォグランプ) が高温になります。また、エンジンルーム内の電球は、エンジンが十分に冷えてから交換してください。
- ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。
- 車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。



65J291

注 記

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

ヘッドライト (下向き)

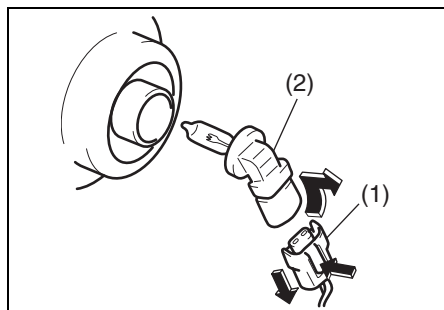
■ ディスチャージ仕様車

⚠ 警告

ディスチャージヘッドライトの電球交換は、絶対に行なわないでください。高電圧を使用しているため、感電のおそれがあります。交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

ヘッドライト（上向き）

- 1 ボンネットを開けます。
→ 5-13ページ（ボンネット）
- 2 カプラー（1）は、ツメを押しながら引き抜きます。
- 3 電球（ソケット一体式）（2）は、反時計方向にまわして外します。



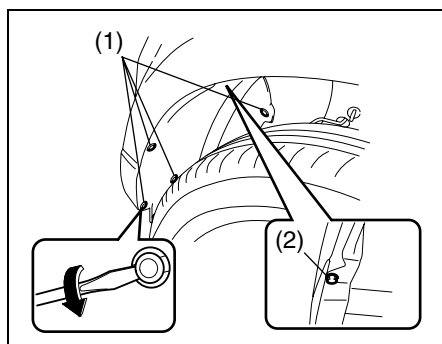
65J264

- 4 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

フォグランプ

タイプ別装備

- 1 フェンダー内のカバーの一部を外します。
 - フェンダー内のクリップ 4 個（1）は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。
 - ボルト 1 個（2）は、プラスドライバー（市販品）などで外します。

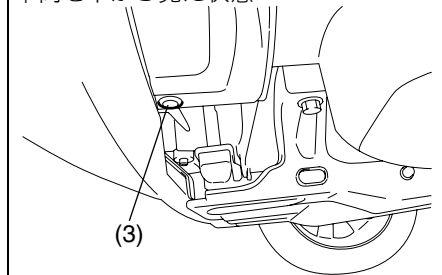


65J280

- バンパー下部のクリップ（3）は、マイナスドライバーでこじって外します。

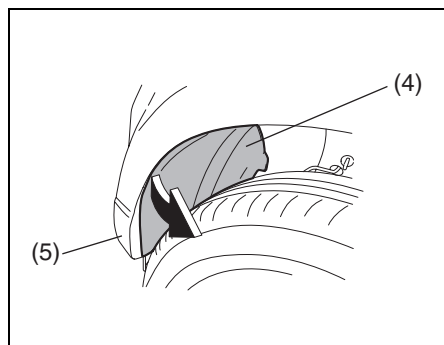
7

車両を下から見た状態



65J281

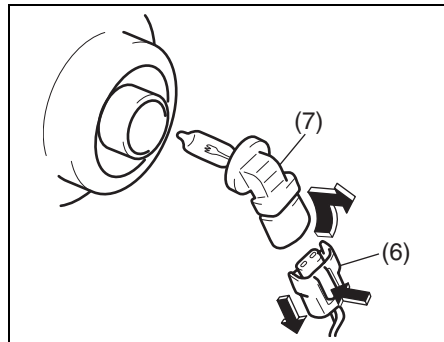
- 2 フェンダー内のカバーをめくって、内側から交換します。



65J4026

- (4) フェンダー内のカバー
(5) バンパー

- カプラー (6) は、ツメを押しながら外します。
- 電球 (ソケット一体式) (7) は、反時計方向にまわして外します。



65J4027

- 3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

- フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

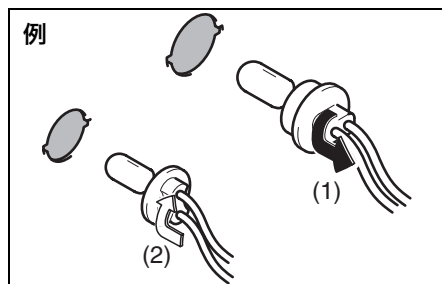
- 方向指示器／非常点滅表示灯（ドアミラー）

その他の一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取外し／取付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取外し／取付け

- ソケットをランプ本体から取り外すとき (1) は、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるとき (2) は、ソケットをランプ本体の切り欠きに合わせて差し込み、時計方向にまわします。

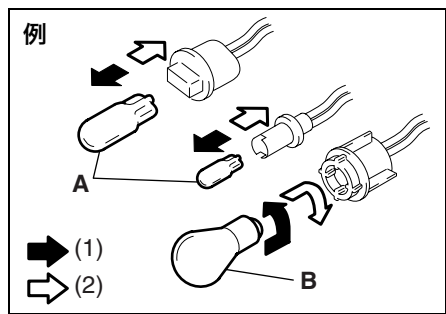


65J283

■ 電球の取外し／取付け

2つのタイプがあります。

- **A** のタイプは図のように抜き差しするだけです。
- **B** のタイプは、次のようになります。
 - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
 - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。

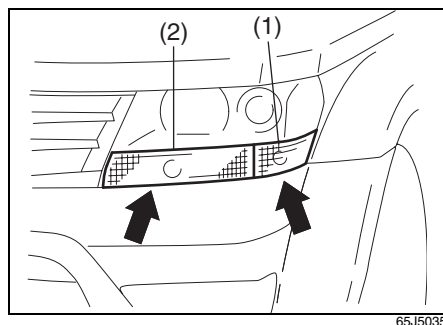


(1) 取外し

(2) 取付け

■ 方向指示器／非常点滅表示灯（前面）、車幅灯

ボンネットを開けて、エンジンルーム内から交換するか、フォグランプ（タイプ別装備）の交換（7-23 ページ参照）と同様に、フェンダー内のカバーをめくって内側から交換します。



(1) 車幅灯（A タイプ）

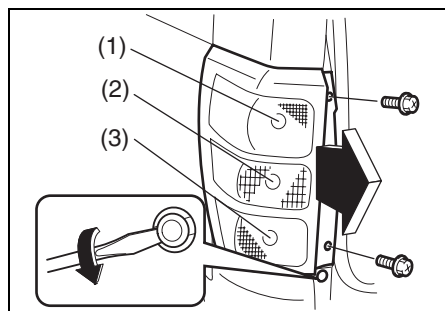
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（前面、A タイプ）

■ リヤコンビネーションランプ

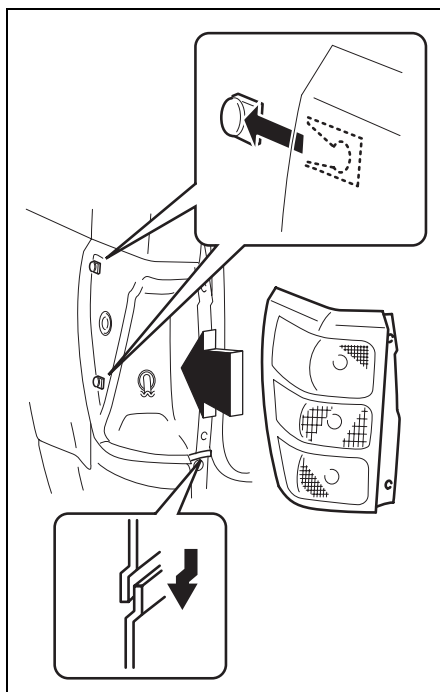
左側

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。バンパー上部のクリップは、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。
- ランプ本体は、車両の後方へ引いて外します。



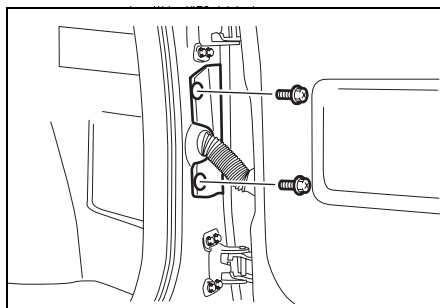
- (1) 制動灯／尾灯（A タイプ）
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面、A タイプ）
(3) 後退灯（A タイプ）



- ランプを取り付けるときは、クリップ 2 箇所と、ランプ下部のツメをしっかりとはめ込んでください。

右側

- 1 バックドアを開けます。
- 2 ボルト 2 個は、プラスドライバーなどで外します。



3 バックドアを閉め、外側からランプ全体を外します。

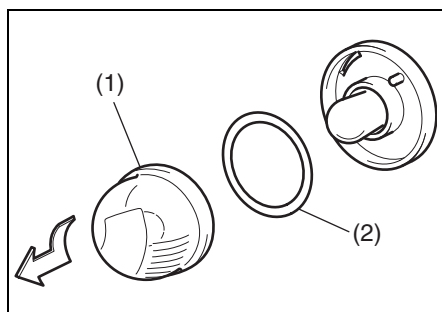
4 電球を交換します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

注 記

バックドアを開けたままでランプを取り外すと、バックドアまたはランプに傷がつくおそれがあります。

■ 番号灯 (Aタイプ)

レンズ (1) を反時計回りにまわして外してから交換します。



65J345

(1) レンズ (2) ゴムパッキン

- レンズを取り付けるときは、ゴムパッキンを先に車体側に取り付けます。

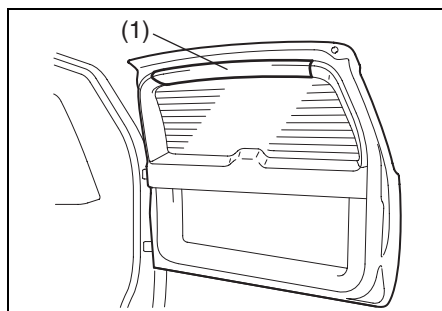
■ ハイマウントストップランプ (Aタイプ)

注 記

交換の手順は次のようになりますが、ご自身で行なうと、車両を損傷するおそれがあります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

1 バックドアを開け、ドアトリム (1) を外します。

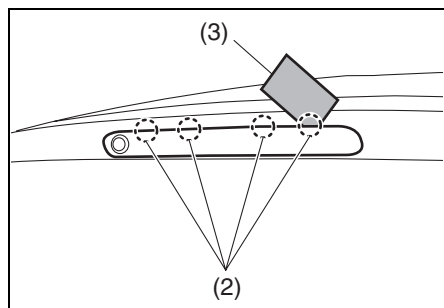
- トリムを固定しているクリップ (4個) は、トリム上側とドア本体との間に指を入れて引き外します。



64J181

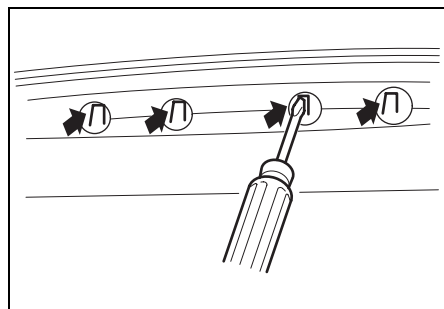
2 ランプの上側を固定しているツメ (4か所) (2) は、次のようにして外します。

- 薄手のプラスチックの板 (市販品) (3) を図のようにランプ上側のすき間に差し込みツメを押したまま、もう一方の手でランプの上側をこじて端から順に引き外していきます。



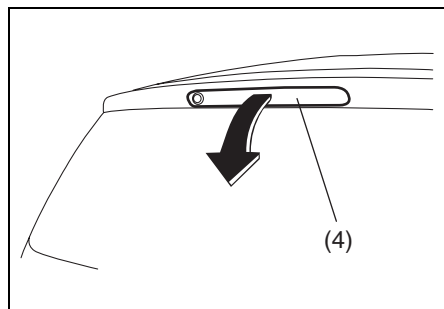
65J292

- 3 ランプの下側を固定しているツメ（4 か所）は、ドア本体の穴からマイナスドライバー（市販品）などを差し込み、押し、押し外します。



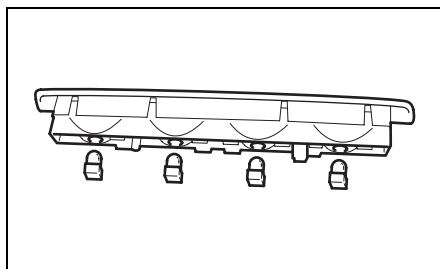
64J183

- 4 バックドアを閉め、外側からハイマウントストップランプ（4）全体を引き出します。



65J293

- 5 電球を交換します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

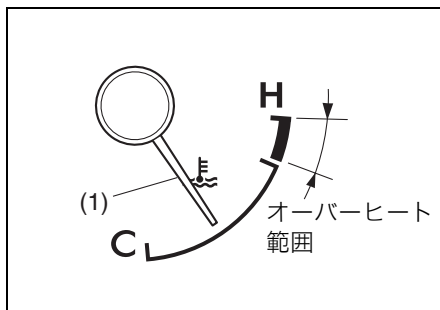


64J184

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の指針（1）がオーバーヒート範囲（赤色表示範囲）に入っている
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている



65J088

オーバーヒートしたときは

- 1 車を安全な場所に止めます。
- 2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。

→ 5-13ページ（ボンネット）

⚠ 警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

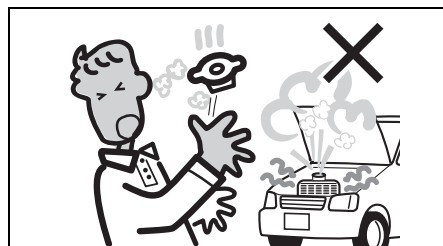
- 3 冷却ファンの作動を確認し、水温計の指針が下がるのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温計の指針が下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠ 警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



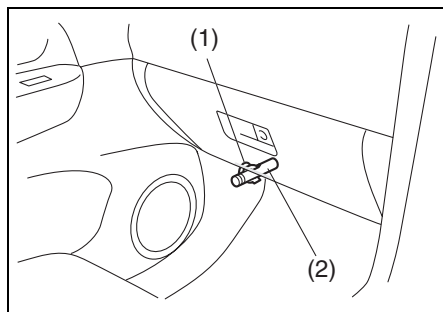
80J066

- 5 冷却水の量が不足しているときは補給します。

- 水漏れなどの異常があるときはスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補給したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



65J085

(1) ホルダー

(2) 発炎筒

⚠ 警告

- お子さまにはさわらせてないください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
- 必ずホルダーに保管してください。
- 点火するときは、筒先を顔や身体に向けないください。やけどのおそれがあります。
- ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
- トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

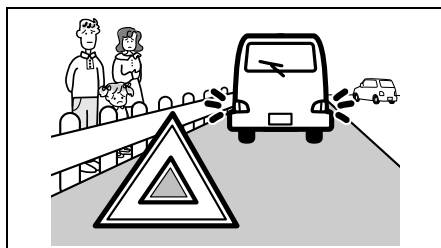
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店およびJAFの連絡先は、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

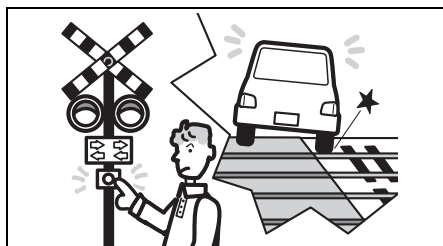


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

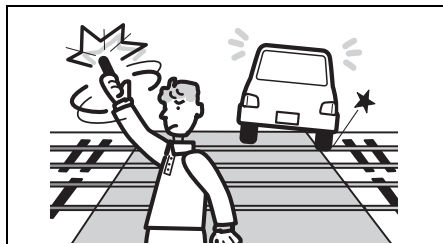
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



80J332

踏切の非常ボタンがわからないときは、
発炎筒で列車に合図してください。



80J333

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。

このとき、**オートマチック車** はセレクタレバーを **N** に入れ、**マニュアル車** はチェンジレバーをN(ニュートラル)に入れます。



80J334

アドバイス

マニュアル車、**オートマチック車**とも、エンジンスイッチを **START** の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を移動させることはできません。

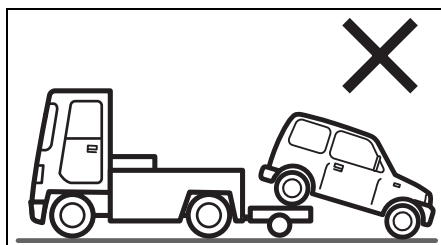
けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するときは、必ず4輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。

けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

警告

前輪だけまたは後輪だけを台車にのせた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛びだすなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



65J266

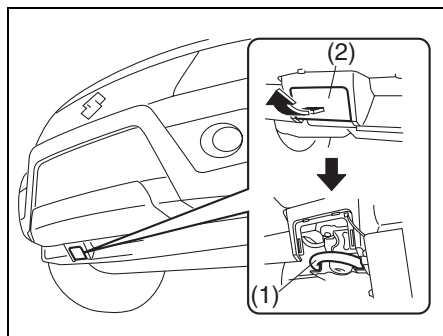
ロープけん引

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フック (1) にかけます。

■ フロント側

けん引フックカバー (2) を手でつまみ上げて外します。

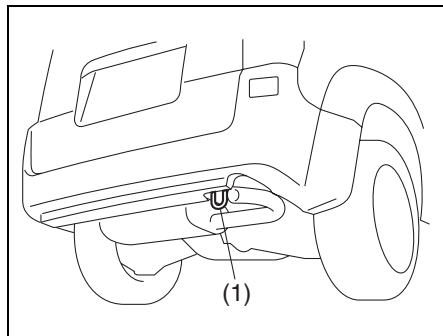


65J5037

7

■ リヤ側

この車を一時的に後ろに移動させるときや他車をけん引するときは、後ろのけん引フック (1) にロープをかけます。



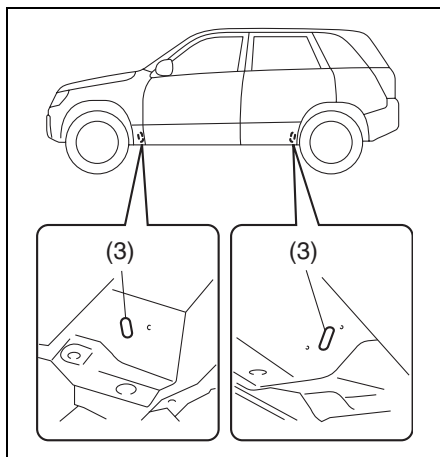
65J5038

注 記

自車よりも重い車をけん引しないでください。また、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体、駆動装置が損傷するおそれがあります。

■ 積載車用の取付け穴

積載車などに載せて搬送する場合は、前輪後部および後輪前部の積載車用フックの取付け穴 (長穴) (3) にロープをかけて固定します。



65J5039

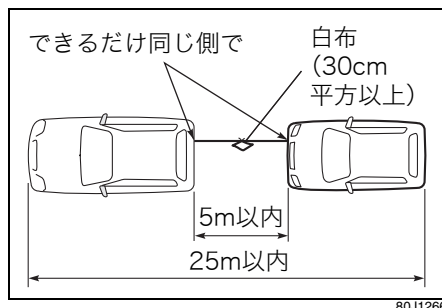
ロープでけん引してもらうときは

- 1 けん引フックにロープをかけます。
 - ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

- 2 ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）をつけます。



- 3 エンジンのかけたままにします。
 - 4WD モードの切替え操作をして、駆動状態を（4H）（通常走行モード）にします。
→ **4-22ページ**
（4WDモードの切替え操作）
 - エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを **LOCK** 以外の位置にします。
 - ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。

警告

エンジンがかからない車の運転は

- エンジンスイッチを **LOCK** の位置にしないでください。キーの有無にかかわらず、ハンドルがロックされてまわせなくなります。
- ブレーキ倍力装置が働かないため、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
- パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。

注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

- 4 **オートマチック車** はセレクトレバーを **N** に入れ、**マニュアル車** はチェンジレバーを **N**（ニュートラル）に入れます。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを **ON** にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを **P** から他の位置へ動かせないときは、**4-13** ページの手順でシフトロックを解除してください。

- 5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

●後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠ 警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注 記

- けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。
- オートマチック車を、やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30km/h以下、走行距離30km以内にしてください。

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

- 1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。
- 2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。
- 3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
- 4 相手方、事故の状況をメモします。
- 5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

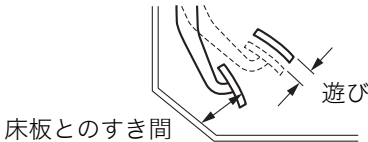
外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

項 目		デ ー タ	
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	タンク容量	66 L	
エンジン オイル	グレード	スズキエクスターF SM/GF-4 0W-20	
		スズキエクスターF SL 5W-30	
		適切なオイルのご使用方法については、 2-32 ページ の「 エンジンオイルの規格／粘度 」をお読みください。	
	規定量	オイル交換時	4.6L
		オイル、オイルフィルター 同時交換時	4.8L
トランス ミッション オイル	グレード	MT車	スズキ4輪ギヤオイル 75W-80 (SAE 75W-80、API GL-4相当)
		AT車	スズキATF 3317
	規定量	MT車	1.9L
		AT車	7.2L
トランスファー オイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 80W-90 (GL-5)	
	規定量	1.5L	
フロントデファレ ンシャルオイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 80W-90 (GL-5)	
	規定量	1.0L	
リヤデファレン シャルオイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 80W-90 (GL-5)	
	規定量	0.8L	
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）	
	規定量	7.3L	
ウォッシャー液	グレード	スズキ純正ウインドーウォッシャー液	
	タンク容量	4.5L	

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「メンテナンスノート」をご覧ください。
- 指定外のATオイルは絶対に入れないでください。

サービスデータ

項 目		デ ー タ		
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード (DOT-3)		
クラッチ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード (DOT-3)		
パワーステアリングオイル	グレード	スズキATF 2326		
スパークプラグ	タイプ	NGK: SILFR6A11 (イリジウム)		
	電極のすき間	1.0～1.1mm		
バッテリー	タイプ	55D23L 20HR 60Ah CCA 320A 55D23(JIS)		
ブレーキディスク	ディスク厚さ(※)	前輪	基準値 (新品時)	25.0mm
			限度値	23.0mm
		後輪	基準値 (新品時)	16.0mm
			限度値	14.0mm
ブレーキペダル	遊び	1～8mm		
	床板とのすき間	水平方向に80mm以上 (踏み込み力 300N (31kgf))		
クラッチペダル	遊び	0～10mm		
	床板とのすき間	55～75mm (クラッチが切れたとき)		
				
パーキングブレーキレバー	引きしろ	5～7ノッチ (操作力 200N (20kgf))		
ファンベルト	たわみ量	自動調整式		
ハンドル	遊び	0～30mm (ホイール外周)		
タイヤ	ローテーション時期	5,000km走行ごと		

65J4029

- 指定外のブレーキ液、クラッチ液、パワーステアリングオイルは絶対に入れないでください。
- ※ 点検して限度値に達していたら、ディスクを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 電球の容量

名 称			ワット数(型式)
ヘッドライト	上向き		60W(HB3)
	下向き		35W(D2S)
車幅灯			5W(W5W)
方向指示器／ 非常点滅表示灯	前面	ドアミラー	21W(WY21W)
	側面(※)		LED
	後面		21W(WY21W)
制動灯／尾灯			21/5W(W21/5W)
後退灯			21W(W21W)
番号灯			5W(W5W)
ハイマウントストップランプ			5W × 4(W5W)
フォグランプ			55W(H11)
ルームスポットランプ			8W
中央／後部室内灯			10W
荷室室内灯			5W
カーテシランプ			5W
バニティーミラーの照明			3W

※側面の方向指示器／非常点滅表示灯は、ランプ本体の交換となります。

サービスデータ

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

タイヤの種類	タイヤサイズ	空気圧
標準タイヤ	225/65R17 101H	220kPa (2.2kgf/cm ²)
	225/60R18 100H	

ホイールのサイズ

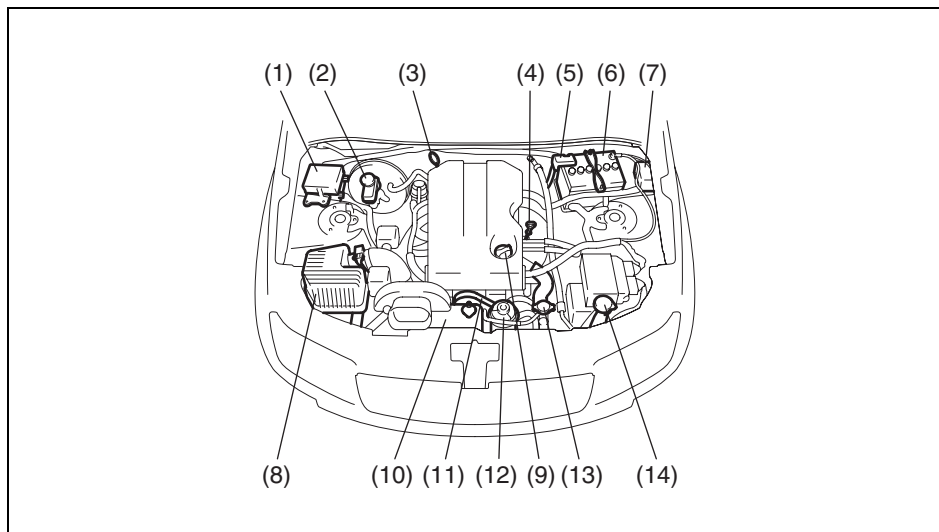
タイヤサイズ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取付ピッチ円直径 (PCD)
225/65R17 101H	17 X 6 1/2J	45mm	114.3mm
225/60R18 100H	18 X 7J		

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて

イラストは代表例です。お車のタイプによりこのイラストと異なることがあります。



65J392

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

- (1) ヒューズボックス No.2
- (2) **ブレーキフルードリザーバタンク** (※2)
- (3) ATオイルレベルゲージ (※1)
- (4) **エンジンオイルレベルゲージ** (※1)
- (5) メインヒューズボックス
- (6) **バッテリー**
- (7) ヒューズボックス No.1
- (8) エアクリーナー
- (9) エンジンオイルフィルターキャップ
- (10) **冷却水リザーバタンク**
- (11) ファンベルト
- (12) パワステオイルリザーバタンク
- (13) ラジエーターキャップ
- (14) **ウォッシャータンク**

※1 レベルゲージの裏表で液量が異なるときは、低い側をオイル量としてください。

※2 MT車の場合、クラッチオイルリザーバタンクは、ブレーキフルードリザーバタンクと共用になっています。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウィンドー → 3-18ページ	はさみ込み防止機能 → 3-20ページ	バッテリー端子やヒューズ（7-17 ページ参照）を外すなどしたとき
ESP® → 4-36ページ	ESP®の機能 → 4-38ページ	
電動サンルーフ → 5-20ページ	オート機構 → 5-23ページ	

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

セキュリティアラーム、インフォメーションディスプレイ以外の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定 (工場出荷時)	設定切替え時
キーレススタートシステム	キーレススタートシステムの各発信機の機能 → 2-29ページ	あり	なし
アンサーバック機能 → 3-9ページ	非常点滅表示灯 ／室内灯による合図	非常点滅表示灯 ／室内灯	室内灯のみ
セキュリティアラーム → 3-14ページ	セキュリティアラームモード	Dモード (警報あり)	Aモード (警報なし)
インフォメーションディスプレイ → 3-71ページ	平均燃費のリセット方法切替え → 3-75ページ	非連動	給油連動
			TRIP A連動

数字

4L表示灯 3-70、4-28
 4WDモード切替えスイッチ 4-22
 4WDモードの切替え操作 4-22
 4WD車の運転 2-26

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
 警告灯 3-66、4-35
 装置 4-33
 AT警告灯 3-68、4-15
 AT(運転) 4-14
 AT(セレクトレバー) 4-11

C

CRUISE表示灯 3-70、4-31

E

EDR(イベントデータレコーダー)
 3-60
 ESP® 4-36
 ESP® OFFスイッチ 4-39
 ESP® OFF表示灯 3-69、4-40
 ESP®作動表示灯 3-69、4-37

I

ISOFIX 3-30
 ISOFIXアンカー 3-30
 ISOFIX対応チャイルドシート
 固定専用金具 3-30

P

POWER表示灯 4-14

R

Rポジション警告ブザー 2-22、4-15

S

SET表示灯 3-70、4-31
 SRSエアバッグ警告灯
 3-40、3-59、3-66
 SRSエアバッグシステム 2-24、3-48

ア

アームレスト 5-29
 アクセサリーソケット 5-19
 アルミホイール
 タイヤ交換の準備 7-9
 タイヤチェーン 6-13
 アンサーバック機能 3-9
 アンテナ 5-10

イ

イベントデータレコーダー(EDR)
 3-60
 イモビライザー警告灯 3-68、4-6
 イモビライザーシステム 4-6
 インフォメーションディスプレイ 3-71
 メッセージ 3-76

ウ

ウインドー
 ウィンドーロックスイッチ 3-18
 後席ウインドー 3-21
 バックウィンドーガラスの
 手入れ 6-5
 撥水機能付き前席ドアガラスの
 手入れ 6-3
 パワーウインドー 3-18
 フロントウィンドーガラスの
 手入れ 6-3
 ウェアインジケーター 6-6
 ウォッシャー液 6-8、8-1、8-5
 ウォッシャースイッチ 3-83

エ

エアコン
 オートエアコン 5-3
 吹出し口 5-2
 エコドライブ 2-32
 エンジンオイル 2-31、2-32、3-67、8-1
 エンジン回転計(タコメーター) 3-61
 エンジンキー 3-2
 エンジン警告灯 3-67
 エンジンスイッチ 4-2
 エンジンスイッチ照明 5-16
 エンジンスタートノブ 4-2
 エンジンスタートノブ
 もどし忘れ警告 4-8
 エンジンのかけかた 4-6
 エンジンフード(ボンネット) 5-13
 エンジンブレーキ 2-14
 エンジンルームをのぞいて 8-5
 エンジンを止めるときは 4-8
 エンスト 7-31

オ

オイル(エンジンオイル)
 2-31、2-32、3-67、8-1
 オーディオ 5-10
 オートエアコン 5-3
 オートマチック車
 運転 4-15
 セレクトレバー 4-11
 オートライトシステム 3-79
 オートレベリング警告灯 3-67
 オーバーヒート 7-28
 オーバーヘッドコンソール 5-24
 お子さま用シートの
 シートベルトによる固定 3-41
 お子さま用シートの
 選択について 3-43
 お子さまを乗せるときは 2-5
 オドメーター(積算距離計) 3-74

カ

カーデシランプ(前席ドア) 5-18
 カードホルダー 5-15
 外気温 3-74
 外気導入(オートエアコン) 5-7
 外装のお手入れ 6-2
 ガソリン(燃料) 2-22、8-1
 仮眠するときは 2-19
 ガレージジャッキ 7-12
 冠水した場所 2-16
 寒冷時の取扱い 6-8

キ

キー(エンジンキー) 3-2
 キーインターロック 4-15
 キーナンバープレート 3-3
 キー抜き忘れ警告ブザー 4-9
 キーレスエントリー 3-8
 キーレススタート
 システム 4-3
 表示灯 3-69、4-4
 キックダウン 4-15、4-19
 キャップホルダー 5-13
 給油 2-20、5-12、8-1

ク

空気圧 8-4
 くもり取り(デフロスター) 5-2
 くもり取り(リヤデフォグガー) 3-84
 クラッチスタートシステム 4-7
 クリープ現象 2-22、4-14
 クルーズコントロール 4-30
 車のお手入れ 6-2
 グローブボックス 5-24

ケ

警告灯・表示灯の見かた	3-64
警告ブザー	
Rポジション警告ブザー	2-22、4-15
エンジンスタートノブ	
もとし忘れ警告ブザー	4-8
キー抜き忘れ警告ブザー	4-9
シートベルト警告ブザー	3-37
ライト消し忘れ警告ブザー	3-80
携帯電話	2-12
携帯リモコン	3-10
携帯リモコン車外持ち出し警告	4-4
携帯リモコン閉じ込み防止機能	3-13
携帯リモコンの電池交換	6-7
警報装置	3-14
けん引	7-31

コ

工具	7-2
後席アームレスト	5-29
後席シート	3-28
航続可能距離	3-72
コートフック	5-20
故障したときは	7-30
コンソールボックス	5-30

サ

サービスデータ	8-1
サイドアンダーミラー	3-24
サンバイザー	5-15
サンルーフ	5-20

シ

シート	3-25
シートバックポケット	5-28
シートヒータースイッチ	
(運転席・助手席)	3-27
シートベルト	3-36
シートベルト警告灯	3-65
シートベルト警告ブザー	3-37

シートベルトフォースリミッター	
	3-41
シートベルトプリテンショナー	3-40
事故が起きたときは	7-34
室内灯	5-16
シフトダウンの上限速度	
マニュアル車	4-10
シフトロック	4-12
ジャッキ(収納場所)	7-2
ジャッキアップ(タイヤチェーン)	6-14
ジャッキアップ(パンクしたとき)	7-10
集中ドアロック(パワードアロック)	3-7
充電警告灯	3-68
樹脂部品などの手入れ	6-5
出発の前に	2-2
ジュニアシート	2-6、3-53
瞬間燃費	3-72
ショッピングフック	5-28
親水機能付きドアミラーの手入れ	6-4

ス

水温計	3-62
スタック(立ち往生)	2-17
ステアリング	
オーディオスイッチ	5-11
スノーブレード	6-9
スピードメーター(速度計)	3-61

セ

セキュリティアラーム	3-14
セレクトレバー	
位置表示	3-71
操作	4-11
洗車	6-2
前照灯(ヘッドライト)	
	3-79、7-22、7-23、8-3
前席アームレスト	5-29
前席シート	3-25
センターコンソールトレイ	5-25

ソ

走行中の注意 2-12
走行モード切替えスイッチ
POWER表示灯 3-69、4-14
装置 4-13
速度計(スピードメーター) 3-61

タ

タイトコーナブレーキング現象 2-27
タイマーロック機能 3-9
タイヤ
応急修理したあとは 7-8
応急修理のしかた 7-4
空気圧 8-4
交換したあとは 7-14
交換するときは 6-6
交換の準備 7-9
チェーン 6-9、6-13
パンク応急修理セット 7-3
冬用タイヤ 6-9
ホイールサイズ 8-4
ローテーション 6-6、8-2
輪止め 2-18、6-9
タイヤチェーン 6-9、6-13
タコメーター(エンジン回転計) 3-61
立ち往生(スタック) 2-17
暖機運転 2-32

チ

チェーン(タイヤチェーン) 6-9、6-13
チェンジレバー 4-10
チケットホルダー 5-15
チャイルドシート 2-6、3-30、3-41
チャイルドプルーフ 3-7
駐車するときは 2-18、4-20、6-11
チルトステアリング 3-24

テ

デアイサースイッチ 3-85
ディスチャージヘッドライト 7-22、8-3
デフロスター(オートエアコン) 5-8
デフロック表示灯 3-70、4-27
電球
電球の交換(ランプ類) 7-22
電球の点検 7-21
ワット数(ランプ類) 8-3
点検 2-2、8-1
電池交換(携帯リモコン) 6-7
電動サンルーフ 5-20

ト

ドア 3-4
ドアの開閉 3-2
ドアミラー 3-22、6-4
ドアミラー角度調節スイッチ 3-22
ドアミラー格納スイッチ 3-22
ドアミラーヒータースイッチ 3-23
ドアロック解除機能 3-7
凍結防止剤 6-2、6-12
凍結路 6-10
登坂変速制御 4-15
時計 3-73
トリップメーター(区間距離計) 3-73
ドリンクホルダー 5-26

ナ

内気循環(オートエアコン) 5-7
内装のお手入れ 6-4

ニ

荷室カバー 5-30
日常点検 2-2
ニュートラル表示灯 3-70、4-28

ネ

燃費

瞬間燃費	3-72
平均燃費	3-72
燃料	2-22、8-1
燃料給油口	5-12
燃料計	3-62
燃料残量警告灯	3-66
燃料タンク容量	8-1

ハ

パーキングブレーキ

寒冷時の取扱い	6-11
操作	4-9
ブレーキ警告灯	3-65
ハイドロプレーニング現象	2-16
ハイマウントストップランプ	7-27
はさみ込み防止機構	
ウインドー	3-20
サンルーフ	5-23
発炎筒	7-29
バックドアポケット	5-27
バックミラー(ルームミラー)	3-21
バッテリー	2-3、6-8、7-14、8-2
バッテリーあがり	7-14
バニティーミラー(サンバイザー)	5-16
パワーウインドー	3-18
パワードアロック	3-7
パンク	

応急修理のしかた	7-4
タイヤ交換	7-9
番号灯	7-27
半ドア警告灯	3-68
ハンドルロックが解除	
できないときは	4-3

ヒ

ヒーター(エアコン)

吹出し口	5-2
オートエアコン	5-3
非常点滅表示灯	3-82、7-25、8-3

非常点滅表示灯スイッチ	3-82
必読!	2-2
ヒューズ切れ	7-17
日よけ(サンバイザー)	5-15
ヒルディセントコントロール	4-40
ヒルディセントコントロール	
表示灯	3-70、4-42
ヒルホールドコントロール	4-43

フ

ブースターケーブル	7-15
フォグランプ	7-23、8-3
フォグランプスイッチ	3-81
フットレスト	5-28
フューエルキャップ	5-12
フューエルリッド	5-12
ブレーキ	
ブレーキアシスト	4-35
ブレーキ液	8-2
ブレーキ警告灯	3-65
ブレーキ倍力装置	2-14、4-8、7-33
ブレーキペダル	8-2
フロントシート	3-25
フロントドアポケット	5-27
フロントワイパー／	
ウォッシャースイッチ	3-82

ヘ

平均車速	3-72
平均燃費	3-72
ペースメーカー	2-29
ヘッドライト上向き(ハイビーム)	
表示灯	3-69
ヘッドライト(前照灯)	
	3-79、7-21、7-22、7-23、8-3
ヘッドレスト	
後席	3-29
前席	3-26
ベビーシート	2-6、3-44、3-53

ホ

ホイールサイズ 8-4
防眩式ルームミラー 3-21
方向指示器 3-81、7-25、8-3
方向指示器表示灯 3-69
方向指示器スイッチ 3-81
ホーンスイッチ 3-84
ボンネット 5-13

マ

マスターウォーニング 3-70
マニュアル車(チェンジレバー) ... 4-10
万一のとき 7-1

ミ

ミラー
 サイドアンダーミラー 3-24
 ドアミラー 3-22、6-4
 バニティーミラー 5-16
 ルームミラー 3-21

メ

メーター
 インフォメーション
 ディスプレイ 3-71
 照明 3-62

ユ

油圧警告灯 3-67
雪道を走行するとき 6-10

ヨ

横風が強いときは 2-15

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー 3-80
ライトスイッチ 3-79
ライト点灯表示灯 3-69
ラゲッジアンダーボックス 5-32
ラゲッジシェルフ(荷室カバー) ... 5-30
ラゲッジフック 5-32
ラゲッジポケット 5-27
ラジエーターキャップ 7-29、8-5
ラックススエード®の手入れ 6-5
ランプ
 カーテシランプ(前席ドア) 5-18
 室内灯 5-16
 スポットランプ 5-18
 電球の交換(ランプ類) 7-22
 ハイマウントストップランプ ... 7-27
 番号灯 7-27
 非常点滅表示灯 3-82、7-25、8-3
 非分解式ランプ 7-24
 フォグランプ 3-81、7-23、8-3
 ヘッドライト
 3-79、7-21、7-23、8-3
 方向指示器 3-81、8-3
 リヤコンビネーションランプ ... 7-26
 ワット数、型式(ランプ類) 8-3

リ

リクエストスイッチ 3-11
リクライニングレバー 3-26
リジッドラック 7-12
リッド付インパネボックス 5-25
リバース(R)ポジション警告ブザー
 2-22、4-15
リヤコンビネーションランプ 7-26、8-3
リヤシート 3-28
リヤデフォッガースイッチ 3-84
リヤワイパー/ウォッシャー
 スイッチ 3-83

ル

ルーフアンテナ	5-10
ルーフモールカバー	5-33
ルームスポットランプ	5-18
ルームミラー	3-21
ルームランプ(室内灯)	5-16

レ

冷却水(ラジエーター液)	
オーバーヒート	7-29
寒冷時の取扱い	6-8
規定水量	8-1

ワ

ワイパー	
寒冷時の取扱い	6-9、6-12
ワイパースイッチ	3-83
ワックス	6-2

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い求めいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

- ①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
- ②ご購入年月日
- ③走行距離
- ④ご相談内容
- ⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号